教育委員会定例会審議結果

１　担当部署名	守谷市教育委員会　学校教育課
２　件　　　名	令和元年１０月教育委員会定例会
３　概　　　要	**１　開催日時** 令和元年１０月２５日（金曜日）午後１時３０分～午後３時００分 **２　開催場所** 守谷市役所議会棟３階第２委員会室 **３　教育長及び各委員の出欠状況（委員数５名）** ５名出席（町田香教育長，山本キヨ委員，河原健委員， 萩谷直美委員，椎名和良委員） **４　説明のための職員出席者等（職員数５名）** 教育部長　宇田野　信彦 教育部次長兼学校教育課長　小林　伸稔 生涯学習課長　福島　晶子 指導室長　奈幡　正 給食センター長　坂　登司男 事務局員（学校教育課）　２名 **５　傍聴人** なし **６　議題** **【議決事項】** （１）議案第４１号「平成３０年度教育委員会の点検・評価結果について」（可決） **【報告事項】** なし **【その他】** （１）小中学校の現状について（指導室） ①指導室の業務状況について ②児童生徒の様子 ③守谷市保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」の取組 ④児童生徒及び教職員の交通事故の現状 ⑤いじめ認知の状況（９月末現在） ⑥不登校の現状（９月末現在） ⑦長期欠席児童生徒の状況（９月末現在） （２）各課業務報告 ○学校教育課 ①入札結果について

	②工事等の進捗状況について ③学校施設長寿命化計画の概要について ○生涯学習課 ①いきいき茨城ゆめ国体競技結果について ②公の施設指定管理者選定委員会の結果について ③令和元年度上半期の中央図書館利用状況について ○学校給食センター ①学校給食実施状況について ②賄材料費執行状況について ③生鮮野菜使用率について ④異物混入等について
４　今後の状況	次回は，令和元年１１月２０日（水曜日）午後１時３０分から開催予定

議案第４１号

平成３０年度教育委員会の点検・評価結果について

平成３０年度教育委員会の点検・評価結果について，別紙のとおり承認を求める。

令和 元 年１０月２５日　提　出
守谷市教育委員会
教育長　町田　香
令和　　年　　月　　日原案　認

提案理由

本案は，平成３１年２月定例会において可決された守谷市教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針に基づき，平成３０年度の点検・評価を行ったので，結果について承認を求めるものです。

議案	頁数
41号	1

平成３０年度

教育委員会の点検・評価結果報告書

令和元年１０月

守　谷　市　教　育　委　員　会

守谷市教育全体図

守谷市の教育目標

「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」

1思考力，想像力に富み，正しく判断して実行する人間の育成
2個性を伸ばし，豊かな心をそなえた，基礎的・基本的な知識をしっかり身に付けた人間の育成
3生涯にわたって，知識や教養を磨き，社会の発展に貢献する人間の育成
4家庭・地域の教育力を高め，互いに助け合い，学び合う人間の育成

社会教育（生涯学習）

義務と責任を果たす心豊かな人づくりを推進する社会教育

学校教育（基礎教育）

学力と安全と成長を保障する学校教育

【生涯学習事業】

○市民が生涯学習に自発的に参加できるよう，学習できる機会・場を提供する。

○市民がスポーツをする機会・場を提供する。

○市民が芸術や文化を気軽に親しめるよう，芸術・文化・歴史に関する活動に触れる機会・場を提供する。

○地域の貴重な文化財を後世に継承し，活用する。

○子どもが安全に遊び，学び，世代交流できる場を提供する。

【図書館事業】

○すべての市民に気軽にいつでも気持ちよく利用される図書館を目指す。

○市民の知的欲求を保障し，日常生活に生かすため図書館機能の強化とサービスの充実を図る。

○施設や設備の安全に留意して，誰にでも使いやすい図書館を目指す。

【給食ｾﾝﾀｰ事業】

○正しい食習慣の形成，好ましい人間関係の育成，栄養管理と健康増進，食のあり方について教育の一環として給食を実施する。

○学校給食を安全に安定して提供するため，徹底した衛生管理を行う。

【学校教育課・指導室事業】

○児童生徒が快適な環境のもとで学習できるようにするとともに，登下校時の安全確保や不審者侵入に対する対応等，学校の危機管理体制の確立を図る。

○新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指し，以下の学校教育プランを推進する。

①ステップアッププラン
②ハートフォーヒューマンプラン
③ヘルス＆フィジカルプラン
④ニュージェネレーションプラン
⑤パートナーシッププラン

《 目　　次 》

〈守谷市教育委員会の点検・評価について〉　・・・・・・・・・・・　Ｐ１

〈教育委員会〉　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ３

〈学校教育（基礎教育）分野の点検・評価〉

Ⅰ　学校教育課・指導室事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ８

１　教育環境の整備・充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ８

２　学校教育プラン　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ９

〔１〕ステップアッププラン（確かな学力の育成）　・・・・・・　Ｐ９

〔２〕ハートフォーヒューマンプラン

（豊かな心をはぐくむ教育の推進）　・・・・・・・・・・・　Ｐ１１

〔３〕ヘルス＆フィジカルプラン

（健康と体力をはぐくむ教育の推進）　・・・・・・・・・・　Ｐ１３

〔４〕ニュージェネレーションプラン

（新しい時代に対応した教育の推進）　・・・・・・・・・・　Ｐ１４

〔５〕パートナーシッププラン

（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）　・・　Ｐ１６

Ⅱ　給食センター事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１６

〈社会教育（生涯学習）分野の点検・評価〉

Ⅰ　生涯学習事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２０

１　自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供　・・・　Ｐ２０

２　生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援　・・　Ｐ２３

３　親しみを感じる芸術・文化の推進　・・・・・・・・・・・　Ｐ２６

４　文化財を愛する心の育成　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２７

５　安心して遊べる場の提供　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２８

Ⅱ　図書館事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２９

１　いつでも気軽に気持ちよく利用できる図書館　・・・・・・　Ｐ２９

２　図書館機能の強化とサービスの充実　・・・・・・・・・・　Ｐ３１

３　施設・設備の安全　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ３１

【用語の解説】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ３２

〈点検評価意見〉

守谷市教育委員会点検評価意見　・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ３４

〈守谷市教育委員会の点検・評価について〉

Ⅰ　はじめに

平成１９年６月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され（平成２０年４月施行），教育委員会は，毎年，その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，その結果に関する報告書を議会に提出するとともに，公表することが同法第２６条に規定されています。

守谷市教育委員会では，「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正を受け，今後の効果的な教育行政の推進及び市民への説明責任を果たすことを目的として，平成２１年度から前年度の教育委員会の事務の点検及び評価を実施しています。

本報告書は，平成３０年度に守谷市教育委員会が実施した主要事業の実績に対する点検・評価としてまとめたものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条　教育委員会は，毎年，その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，その結果に関する報告書を作成し，これを議会に提出するとともに，公表しなければならない。

２　教育委員会は，前項の点検及び評価を行うに当たっては，教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ　点検評価の対象

点検評価の対象は，「守谷市の教育目標」の具現化のために位置付けた４事業における重点的な取組としました。

なお，守谷市教育委員会事務局の個々の事務事業については，守谷市が実施している「行政評価」をご覧ください。

※　参照：『守谷市役所ホームページ「行政評価」』
（http://www.city.moriya.ibaraki.jp/shikumi/gyousei_hyouka/）

Ⅲ　点検評価の方法

１　点検評価に当たっては，取組の進捗状況を明らかにするとともに，課題等を分析し，今後の対応の方向を示します。

２　点検評価の客観性を確保するため，教育に関し学識経験を有する方や外部の方々のご意見をお聴きする機会を設け，様々なご意見，ご助言を頂きます。

■守谷市教育委員会点検評価員

氏　　名	所　属　等
遠藤（えんどう）　一美（かずみ）	元つくばみらい市立谷和原中学校校長
杉本（すぎもと）　真（まこと）	元守谷市立御所ケ丘小学校校長 守谷市教育委員会指導室若手教育研修指導員
高橋（たかはし）　真美（まみ）	もりや市民大学運営委員 ＣＦＤフラワーデザイン普及協会講師

Ⅳ　点検評価結果の構成

１　点検評価の対象

「守谷市の教育目標」の具現化のために位置付けた４事業における平成３０年度の重点的な取組とし，項目ごとにまとめて点検評価しています。

２　目標・取組概要

項目ごとに目標を掲げ，その目標を達成するための方向性を示しています。また，目標達成に向けて，平成３０年度に実施した主な取組を示しています。

３　自己評価

平成３０年度の取組の進捗状況及び成果を記載し，項目ごとに自己評価を行っています。

４　今後の課題と対応の方向性

自己評価を踏まえ，今後の取組を進める上での課題と対応の方向性を示しています。

５　外部の方々から頂いた主なご意見

保護者，学校運営協力員及び「私の提案」などのご意見，「行政評価外部評価員」や各種委員会委員など、多数の方々から頂いた指摘事項等について記載しています。

〈教育委員会〉

守谷市教育委員会では，いばらき教育プランや第二次守谷市総合計画を基に「守谷市の教育目標」及び「守谷市学校教育プラン」等を作成し，守谷市の子どもたちのために様々な施策を展開してきました。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１６条に基づき，守谷市教育委員会会議規則を定め，定例会を毎月開催し，緊急を要するときには臨時会を開催し，事務局と連携しながら真剣な議論によって施策を推進してきました。

また，会議のみならず，現場の意見に基づいた議論を行うため，各学校行事や研修会等に積極的に参加し，意見交換・現場の状況を確認するなど，活発な活動を通じて教育行政の推進に努めてきました。

なお，「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正（平成２７年４月１日施行）され，教育委員会と地方公共団体の長との十分な意思疎通を通して，より民意を反映した教育行政の推進を図るために，地方公共団体の長による「総合教育会議」の設置と，「教育，学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の策定が新たに規定され，責任体制の明確化等を図るために，教育委員長と教育長を一本化するなど，「教育長」の位置付けが改められました。

これに伴い，守谷市は，平成２７年４月１日に新制度による「教育長」を任命し，新たな教育委員会の運営体制としました。

また，市長と教育委員会が地域教育の課題やあるべき姿を共有するため，総合教育会議を開催し，教育行政の推進に努めました。

■教育委員会　　　　　　　　　　　　　　　　（令和元年１０月１日現在）

職　名	氏　名	任　期
教育長	町田（まちだ）　香（かおる）	平成３０年4月1日 ～令和3年3月31日
教育長職務代理者	山本（やまもと）　キヨ	平成２８年10月 1日 ～令和2年９月30日
委員	河原（かわら）　健（たけし）	平成３０年１1月２5日 ～令和4年１1月２4日
委員	萩谷（はぎや）　直美（なおみ）	平成２9年10月18日 ～令和3年10月17日
委員	椎名（しいな）　和良（かずよし）	平成３０年4月1日 ～令和2年3月31日

Ⅰ　教育委員会の会議の開催状況

１　教育委員会の会議

教育委員会の会議は，守谷市教育委員会会議規則第２条第２項に基づき定例会を開催し，必要な場合は，同規則第２条第３項に基づき臨時会を開催しています。また，会議で充実した審査が行われるよう，特定の事項について，調査・研究や状況把握のため，協議会を開催しています。

会　議	開催回数	審議内容等
定例会	１２回	規則の制定・改廃，事務の管理・執行基本方針，市職員の人事，附属機関の委員の委嘱等
臨時会	１回	教職員及び事務局職員の人事異動
協議会	１回	守谷市図書館協議会委員の選出

２　教育委員会の会議での案件別審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２５条及び「守谷市教育委員会事務委任規則」第２条の規定に基づき，平成３０年度は５２件について審議しました。

審議案件	件数
教育委員会規則の制定及び改廃	１５件
教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針	１９件
職員の人事に関すること	３件
法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱	１５件

※　審議案件のほか，報告事項及び協議事項として１７件を取り扱い，協議会を１回開催しました。また，定例会ごとに市内小中学校及び教育委員会事務局各課の状況報告を受けました。

Ⅱ　教育委員会会議以外の活動状況

教育委員は，教育委員会の会議への出席以外に，学校訪問，各種行事等にも積極的に参加しました。

参加行事	活動内容
学校訪問	小学校９校，中学校４校（訪問日：5月１１・１８・２４日，6月6日）
研修会等	茨城県教育委員会連合会研修，県南教育委員会連絡協議会研修，守谷市ＰＴＡ連絡協議会総会及び主催行事（研修会等），人権教育講演会，取手・守谷・北相馬地区教育委員会連絡協議会研修
各種行事 大会	小中学校入学式，小中学校運動会・体育祭，小中学校卒業式，音楽祭，Moriya きらめきフォーラム等
その他の 行事	守谷ハーフマラソン，公民館祭，成人式，賀詞交歓会等

Ⅲ　平成３０年度教育委員会審議案件等一覧

１　平成３０年度教育委員会審議案件

議案番号	議　案　名	開　催
１６	守谷市長と守谷市教育委員会との地方自治法第１８０条の３の規定に基づく協議について	４月定例
１７	教育長の守谷市土地開発公社理事の兼職及び職務専念義務免除の承認について	４月定例
１８	守谷市図書館協議会委員の委嘱について	４月定例
１９	守谷市立公民館運営協力員設置に関する要綱の一部を改正する要綱	４月定例
２０	平成３０年度（平成29年度分）守谷市教育委員会点検評価員の委嘱について	５月定例
２１	守谷市社会教育委員の委嘱について	５月定例
２２	守谷市立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について	５月定例
２３	守谷市立学校体育施設開放条例施行規則の一部を改正する規則	５月定例
２４	守谷市議会定例月議会への提出予定案件について	５月定例
２５	守谷市教育支援委員会委員の委嘱について	６月定例
２６	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について	７月定例
２７	守谷市立図書館運営基本方針の策定について	７月定例
２８	守谷市いじめ対策本部及び守谷市立中学校いじめ対策本部設置要綱の制定について	７月定例
２９	平成３１年度使用小学校教科用図書の採択について	７月定例
３０	平成３１年度使用中学校教科用図書の採択について	７月定例
３１	平成３１年度使用小学校特別支援学級（知的障害）教科用図書の採択について	７月定例
３２	平成３１年度使用中学校特別支援学級（知的障害）教科用図書の採択について	７月定例
３３	守谷市議会定例月議会への提出予定案件について	８月定例
３４	専決処分の承認を求めることについて	９月定例
３５	平成２９年度教育委員会の点検・評価結果について	１０月定例
３６	守谷市立学校管理規則の一部を改正する規則	１０月定例
３７	守谷市立学校事務の共同実施に関する要綱の制定について	１０月定例
３８	守谷市児童クラブの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則	１１月定例
３９	守谷市放課後子ども教室運営規則の一部を改正する規則	１１月定例
４０	守谷市青少年相談員設置規則を廃止する規則	１１月定例

４１	守谷市いじめ問題重大事態調査委員の委嘱について	１１月定例
４２	守谷市立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について	１１月定例
４３	守谷市議会定例月議会への提出予定案件について	１１月定例
４４	守谷市文化財保護審議会への諮問について	１２月定例
４５	学校給食センター運営委員会への諮問について	１２月定例
１	専決処分の承認を求めることについて	１月定例
２	守谷市立学校管理規則の一部を改正する規則	１月定例
３	議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出について	１月定例
４	守谷市児童クラブの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則	１月定例
５	学校給食センター運営委員会への諮問について	１月定例
６	学校医の委嘱について	２月定例
７	学校歯科医の委嘱について	２月定例
８	学校薬剤師の委嘱について	２月定例
９	平成３１年度（平成３０年度分）守谷市教育委員会「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」実施方針について	２月定例
１０	守谷市立学校の学校医，学校歯科医及び学校薬剤師に関する要綱の制定について	２月定例
１１	守谷市立学校事務の共同実施に関する要綱の一部を改正する要綱	２月定例
１２	守谷市立小中学校非常勤講師取扱要綱の一部を改正する要綱	２月定例
１３	事務局職員の人事に関し教育長に専決させる件	２月定例
１４	教職員の人事異動について	３月定例
１５	守谷市大野公民館館長の委嘱について	３月定例
１６	守谷市社会教育委員の委嘱について	３月定例
１７	守谷市社会教育指導員の委嘱について	３月定例
１８	守谷市スポーツ推進委員の委嘱について	３月定例
１９	守谷市文化財保護審議会委員の委嘱について	３月定例
２０	守谷市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	３月定例
２１	守谷市立図書館等処務規則の一部を改正する規則	３月定例
２２	守谷市立学校給食センター整備基本計画の策定について	３月定例

※　議案番号は、暦年切替えとなっています。

２　平成３０年度教育委員会　報告件名

報告番号	報　告　件　名	開　　催
３	守谷市教育委員会教育長職務代理者の指名について	４月定例
４	守谷市図書館協議会委員の委嘱について	５月定例
５	守谷市立図書館運営基本方針のパブリックコメント結果について	６月定例
６	平成３０年守谷市議会６月定例月議会について	６月定例
７	平成３０年守谷市議会７月臨時議会について	７月定例
８	守谷市運動部活動の運営方針について	８月定例
９	平成３０年守谷市議会９月定例月議会について	９月定例
１０	平成３１年成人式開催について	９月定例
１１	教職員の不祥事について	10月臨時
１２	平成３０年守谷市議会１１月臨時議会について	１１月定例
１３	平成３０年守谷市議会１２月定例月議会について	１２月定例
１	平成３１年守谷市議会１月臨時議会について	１月定例
２	守谷市文化財保護審議会の報告について	３月定例
３	平成３１年守谷市議会３月定例月議会について	３月定例
４	守谷市いじめ防止基本方針の改訂について	３月定例
５	守谷市立学校給食センター運営委員会の報告について	３月定例

※　報告番号は、暦年切替えとなっています。

３　平成３０年度教育委員会　協議案件

協議番号	協　議　案　件	開　催
１	守谷市図書館協議会委員の選出について	１月定例

４　平成３０年度教育委員会協議会

	開催期日	内　　容
１	平成３０年１２月２５日	教育改革プランについて

Ⅳ　総合教育会議の開催状況

	開催期日	内　　容
１	平成３０年4月２６日	守谷市立図書館の運営体制について
２	平成３１年1月３０日	平成３１年度教育委員会主要事業について 守谷市立図書館の直営に向けた進捗状況について

〈学校教育（基礎教育）分野の点検・評価〉

学校教育（基礎教育）分野については，大きく学校教育課・指導室事業と給食センター事業に分けて点検・評価しました。

Ⅰ　学校教育課・指導室事業

1　教育環境の整備・充実

児童生徒が快適な学校環境のもとで学習できるようにするとともに，登下校時の安全確保や不審者侵入に対する対応等，学校の危機管理体制の確立を図ります。

項　目	1　児童生徒が安心して学べる環境を整備します。
目標・取組概要	児童生徒の学習及び生活の場として良好な環境を確保するとともに，障がいのある児童生徒にも安全でゆとりを持って学校生活が送れるよう配慮した施設整備に努めます。 ①　御所ケ丘中学校屋内運動場改修工事 ②　御所ケ丘小学校校舎改修実施設計業務 ③　大野小学校屋内運動場改修工事実施設計業務 ④　学校施設長寿命化計画の策定
自己評価	①　御所ケ丘中学校屋内運動場（体育館）につきましては，２月に工事が終了し，翌月の卒業式から使用されています。 御所ケ丘中学校体育館 ②　老朽化した御所ケ丘小学校校舎につきましては，長寿命化を図るとともに，エレベーター等を整備し，障がいのある児童にも配慮した設計を行い，令和元年度に改修工事を行います。 ③　大野小学校屋内運動場（体育館）につきましては，建物の長寿命化を図るほか，多目的トイレの設置や段差の解消など，障がいのある児童に配慮した設計を行い，令和元年度に改修工事を行います。 ④　学校施設の老朽化に伴い，大規模改修や建替えなどが必要な時期を迎え，多額の費用が必要になるため，計画的な施設の長寿命化によりコスト縮減及び予算の平準化を図り，学校施設の機能を維持し，使用年数を延ばすために計画を策定しました。
今後の課題と対応の方向性	校舎の大規模改修時には，エレベーター等を設置し，障がいのある児童生徒にも，安心して学校生活が送れるよう配慮した施設整備に努めます。 さらに，大規模改修等の学習環境整備には，膨大な経費が掛かることから，補助金等を最大限に利用するとともに，経費の削減に努めます。

項　目	２　通学路の安全点検と危機管理体制を強化します。
目標・取組 概要	安全で安定した教育環境の確保のため，通学路の安全点検，災害時引渡し訓練等危機管理体制の強化を図ります。 ①　通学路の危険個所の合同点検の実施（8/２１） ②　小中学校児童生徒引渡し訓練の実施（9/1）
自己評価	①　合同点検を行った危険個所１０箇所のうち４箇所については，平成３０年度中に安全対策を講じました。また，未実施の６箇所のうち２箇所については，標識設置の順番待ちの状況であり，３箇所についても令和元年１２月までには対策が講じられる予定です。なお，残り１箇所については，保育園（松並地区）の建設後に対応する予定となっています。 ②　災害時を想定した小中学校児童生徒の引渡し訓練を実施することにより，危機管理体制の再確認とともに，保護者との更なる連携強化を図ることができました。
今後の課題と 対応の方向性	児童生徒が，事故や事件に巻き込まれないよう，学校での交通安全指導や防犯教育の強化を図ります。 また，警察や道路管理者等の関係者と連携を密にし，安全対策を講じるとともに，保護者や地域の方々の協力を得ながら，登下校時の防犯対策を講じていく必要があります。 通学路合同点検

〈外部の方々から頂いた意見（保護者）〉

＊　通学路となっている道路で，信号機や街灯，横断歩道等の設置及び道路の拡幅や歩道の整備をしてほしい。

２　学校教育プラン

〔１〕　ステップアッププラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身に付けさせることは，学校教育において最も基本的かつ重要なことです。児童生徒が自ら学習する喜びを実感して，学び続けることができる教育活動を行います。

学校は，学習指導要領に基づき，基礎的な知識及び技能を習得させると共に，これらを活用して課題を解決するために主体的で対話的な学びの場を工夫し，児童生徒の思考力，判断力，表現力を育成します。また，地域や子供の実態に応じた特色ある学校づくりを積極的に進めます。

項　目	１　児童生徒に確かな学力を身に付けさせます。
目標・取組 概要	児童生徒が知識及び技能を習得し，それらを主体的に活用して思考力，判断力，表現力等を高めることができる授業づくりや環境整備を行います。 ①　きらめきプロジェクト（守谷市保幼小中高一貫教育）の推進

② サタデー学習支援教室の実施

③ 非常勤講師（学習支援ティーチャー，社会人ＴＴ（*1））の配置

自己評価

① 守谷市保幼小中高一貫教育を推進していく中で，本年度も継承・継続・深化・発展をキーワードに，校種を越えた教員の協働による授業づくりや改善に努めてきました。学力の定着については，茨城県学力診断テストの結果から，子どもたちの身に付けるべき学力が，十分に定着していると考えます。

〇 茨城県学力診断テスト正答率の推移（市内小中学校）

（教科毎正答率の合計）

区分	学年	H27	H28	H29	H30
小学校	３年	327.4	317.5	319.5	309.4
	４年	320.2	315.4	308.5	316.4
	５年	298.2	290.1	303.5	294.0
	６年	304.5	308.9	320.3	313.2
中学校	１年	348.9	336.6	366.4	354.1
	２年	329.4	319.9	339.5	326.1
	３年	327.8	339.7	345.5	335.1

注）小学校は４教科，中学校は５教科で実施

② サタデー学習支援教室は，５月から３月の土曜日に計２７回実施しました。登録児童数は８５名で，年々参加者数が増加しています。学習に不安のある児童に対し，個別に学習支援する体制ができ，学習意欲の向上や基礎・基本の定着に効果的でした。「落ち着いて勉強することができた」と回答した児童が7割を越えました。また５割の児童が「計算ができるようになった」と回答し，学力の向上につながっています。

③ 学習支援ティーチャーは，小学校に２９名，中学校に６名，社会人 TT を小学校に１名配置し，児童生徒の学力向上及び生活習慣や学習習慣の確立を図ることができました。

【学習支援ティーチャー配置校】

大井沢小，大野小，守谷小，黒内小，御所ケ丘小，松前台小，松ケ丘小，守谷中，愛宕中，御所ケ丘中，けやき台中

【社会人 TT 配置校】 大野小

サタデー支援教室

学習支援ティーチャー

今後の課題と対応の方向性	① テストの平均点から学力の向上が図られていると分析できる一方で，児童生徒一人ひとりの学力の個人差が課題となっています。結果を十分に分析し，さらなる授業改善に取り組みます。そのために，小小，小中連携による協働的な授業づくりを継続します。 ② 個に応じた学習支援を充実させるため，放課後や長期休業，そしてサタデー学習支援教室等の個別指導の時間や機会を引き続き設けます。 ③ 学習支援ティーチャーや社会人ＴＴ等の配置基準を見直し，学校間格差をなくし，より適切な人的環境の整備に努めます。

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

＊ 保幼小中高の一貫教育を今後も進めてもらいたい。異校種との連携はとても大切である。

＊ 一貫教育は学校と地域をつなぐことにもつながる。特に，外国語教育や図書館教育でさらにつながりを重視していってほしい。

＊ 中学校区で，共通の重点目標や研究テーマを決めて連携を図っているところがよい。

＊ 高校生との交流はよい体験になると思う。高校生に教えてもらった内容は一生忘れられない思い出になる。

〔２〕 ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

全教育活動において，他者とのかかわりを通して自己有用感に裏付けられた自尊感情（自己肯定感）を育み，児童生徒の心豊かな社会性の基礎を養います。

項　目	１ 児童生徒が豊かな心を育み，良好な人間関係が築けるようにします。
目標・取組概要	学校，家庭，地域が一体となり児童生徒が主体的，対話的に規範意識や道徳性を高めると共に，一人ひとりの心身の成長に応じることができる生徒指導や教育相談体制づくりに努めます。 ① きらめきプロジェクト（守谷市保幼小中高一貫教育）の推進 ② スクールカウンセラーの配置 ③ 機動性•柔軟性のある守谷市総合教育支援センターの組織整備と支援策の充実 ④ 「いじめ対策本部」の設置
自己評価	① 道徳教育は，守谷市保幼小中高一貫教育の重点の一つとして，各中学校区及び各校の道徳教育の充実を目指して授業改善に取り組んでいます。時には保護者も様々な形で参加しながら，家庭や地域と連携した心の教育を推進しています。さらに，市内の小中学校及び高校が合同で「Moriya きらめきフォーラム」を開催し「学校から地域へ広げよう　～目に見える変化を起こす～」という学校と地域が連携を深めるスローガンを策定しました。 ② スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー(*2)等の専門スタッフを生徒指導や教育相談の組織に有機的に位置付け，教職員と連携・協働していじめや問題行動，また家庭環境などの諸問題に対応しました。３名のスクールカウンセラーの

相談実績は，延べ１５５名，５１２回でした。

③　総合教育支援センターでは，教育相談，適応指導教室，就学相談の３つの事業を柱とし，包括的な教育支援に努めています。設立３年目を迎えた本年度は，各事業の取組が軌道に乗りはじめ，特にセンターが学校と専門機関をつなぐ中枢機関として確立することができました。

○　守谷市総合教育支援センターの相談実績　　（延べ件数）

	来所相談	電話相談	訪問相談	巡回相談	合計
H28	238	220	145	201	804
H29	353	132	122	200	807
H30	380	95	324	160	959

○　不登校出現率　（%）

区　分	小学校			中学校		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
守谷市	0.52	0.59	1.13	2.53	3.17	2.75
県	0.51	0.57	－	3.15	3.31	－
国	0.47	0.54	－	3.01	3.25	－

○　教育支援センターの訪問型支援（アウトリーチ件数）
　　平成３０年度　１１件

④　「守谷市いじめ対策本部及び守谷市立小中学校いじめ対策本部設置要綱」を策定し，いじめの早期発見，迅速且つ組織的な対応，解消に向けて具体的な策を講じる組織を明確化しました。各学校で毎月実施されるいじめ対策会議の会議録は，いじめ認知報告とともに提出され，複数の目で些細な兆候の段階から情報を共有し，適切に対応するよう徹底して取り組んでいます。

○　いじめ認知件数　（件）

	小学校	中学校	合　計	解消件数	継続支援
H28	３６	３５	７１	５７	１４
H29	６２	２３	８５	５６	２９
H30	１０３	４３	１４６	９９	４７

Moriya きらめきフォーラム

道徳教育の推進

今後の課題と対応の方向性	① 今後も，道徳教育の充実を図りながら，教育活動全体を通じて豊かな心が育めるよう，異校種間においても一貫して多様な体験活動や交流活動を実施し，児童生徒の自己有用感を育て，自己肯定感を高めるよう努めます。 ② 心理学の専門家との連携は，年々重要度が増しています。今後は相談業務以外に，児童生徒に係る会議等への出席を促し，専門的な見地からの助言も含め，学校との連携を図ります。 ③ 守谷市総合教育支援センターが，さらに包括的な教育支援センターとして機能するためには，諸問題に専門的に対応することができる相談員の増員が求められています。また，支援センター相談員が家庭訪問をする等の訪問型支援「アウトリーチ」(*3）の件数も増やし，学校と連携しながら不登校児童生徒及びその保護者への個別支援の充実を図ります。

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員〉

＊ 授業参観で道徳の授業を実施しているので，様子がよく分かってよい。

＊ いじめ対策会議やアンケート結果の周知は，保護者からの信頼にもつながる。

＊ これからも，地域との連携を図りながら人間性や社会性を育てていき，「役に立つ」という意識を持つとともに，自身の成長や変容を実感できる活動を推進してほしい。

〔３〕 ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

近年，子ども達の体力低下が著しいと言われていることから，その解決のために，「食に関する指導」や「体力づくり」を進め，心身共に健やかな児童生徒を育てます。

項　目	１ 児童生徒の健やかな心身を育みます。
目標・取組概要	児童生徒が自ら自分自身の心身の健康を意識し，たくましい身体づくりをしようとする態度を育成するための，食育や運動の機会と環境の充実を図ります。 ① 食育指導の実施 ② 体力の向上
自己評価	① 食に関する指導は，栄養教諭を講師に招いての授業や給食訪問を行いました。その結果，食事のマナーや衛生面に着目する児童生徒が増えたり，栄養や食物についての知識や関心が高まったり，望ましい食習慣の定着を図ることができました。 ② 学校では体育の学習や業間休み，体育的行事，中学校での部活動を含めた教育活動の中で積極的に運動を取り入れ，体力の向上を図ってきました。 ○ 体力テストＡ＋Ｂの達成率の推移 （%）

区分	小学校			中学校		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
守谷市	53.6	54.6	55.8	60.1	65.9	63.3
県平均	54.5	55.9	56.0	60.7	61.9	62.1

※Ａ＋Ｂ＝体力テスト５段階評価Ａ～Ｄの内，上位２段階の評価

今後の課題と対応の方向性	①　児童生徒の体力向上を図るため，全教育活動の中で運動を取り入れる機会を多く設定し，今後も体力の向上を目指します。また，学校における食育指導のみならず，家庭と連携した食育指導（朝ご飯の大切さ等）についても充実を図ります。 ②　部活動においても，部活動指導員の積極的な導入や休息日を含めた適切な部活動時間や活動場所を確保し，中学生の心身の健康を増進させる部活動としての活性化を図ります。

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

＊　体力の向上がみられ，成果が表れている。取り組みを継続してほしい。

＊　学年に応じてＡＥＤや心肺蘇生法に関する指導の充実を図ってほしい。

＊　部活動については学校に依存しすぎていた。外部コーチやクラブチームへの加入など今後の選択肢は様々あると思う。

〔４〕　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

未来の創り手となる子ども達には，新しい時代に対応した教育が必要です。近年顕著となってきている知識・情報・技術を巡る加速度的な社会変化にも対応することができる資質や能力を高めます。

項　目	１　国際化，情報化等の新しい時代に対応した教育を実施します。
目標・取組概要	子ども達が急速なグローバル化や情報化においても，自らの力で将来を切り拓いていくために必要な外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育等の充実を図ります。 ①　キャリア教育の充実 ②　ALT（外国語指導助手）の活用 ③　教職員の ICT(*4) 機器を使った指導力の向上
自己評価	①　発達段階に応じた組織的，系統的なキャリア教育を推進しています。中学２年生は職場体験学習を行い，望ましい勤労観や職業観を育むとともに，体験報告会を通して情報活用能力・表現力を養うことができました。 ②　平成 13 年度から全小中学校に ALT を配置し，小学校１年生から ALT による外国語教育を実施しています。授業だけでなく日常生活においても積極的に活用し，外国語に触れる場面を多く設け充実した活動が展開されています。インタラクティブ・フォーラム（*5）県大会に３名の中学生が出場，高円宮スピーチコンテスト県大会でも１名が１０位以内に入賞しました。守谷市独自のイングリッシュ・フォーラムでは，中学生の英会話フォーラムだけでなく，小学生のスピーチ発表も実施しました。 ○　意識調査「ALT と話したり活動したりすることは楽しい」と答えた小学生（抽出）の割合・・・83.0%

○　英検３級以上を取得した中学３年生の割合　（%）

	H27	H28	H29	H30
守谷市	44.3	39.6	46.7	51.0
茨城県	24.1	22.0	25.9	27.9
全　国	18.9	18.1	22.0	23.9

③　２名のICT支援員が，ICT機器を活用するための授業支援だけでなく，プログラミング(*6)教育に係る校内研修の講師を務め，教職員の情報活用能力の育成に貢献しました。各校の情報教育に係る優れた実践は，「実践事例集」としてまとめ全校に周知しました。

プログラミング教育の推進

ALTの活用

今後の課題と対応の方向性

①　「職場体験学習」は，望ましい職業観や勤労観を育成するのに大いに役立つ一方で，事業所確保が難しいため，商工会やライオンズクラブ等に働きかけを行い，事業所の確保に努めます。また，児童生徒の成長段階に即した一貫したキャリア教育の充実に努めます。

②　小学校の外国語教育の授業時数増加に伴い，大規模校には複数のALTの配置が必要となってきています。ALTの配置基準の見直しを図るとともに，小学校の学級担任の英語力及び授業力向上のための研修も行います。

③　児童生徒の情報活用能力を育成すべく，プログラミング教育を中核とした守谷市独自の情報教育総合プラン MORI・TECH（守谷型エドテック(*7)）を策定し，各校及び保護者向けにリーフレットを配布し周知に努めます。また，教職員のICT機器を使った指導力を向上させるために，ICT支援員を中心とした校内研修の充実を図ります。

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

＊　教育が改革の方向にあることを感じる。他市町の生徒たちは，守谷市の生徒をうらやましがっている。

＊　どの子どたちもALTとの学習に臆することなく楽しく取り組んでいる。ALTが常時配置されているのは素晴らしい。

＊　ICT支援員の支援の仕方がすばらしい。先生たちの指導力の向上につながっている。

＊　引き続き家庭と連携して，情報モラル教育の推進を図ってほしい。

〔５〕　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

児童生徒にとって，学校・家庭・地域は大切な学びの空間です。それぞれの独自性を生かしながら連携していくことが望まれています。

学校は，積極的に情報を公開することで，信頼される学校づくりを進めるとともに，家庭•地域と連携し，一体となって子供達を育む教育のシステムづくりを推進します。

項　目	１　保護者や地域住民との連携が図られた学校を目指します。
目標・取組概要	学校，家庭，地域社会が一体となった教育の充実のために，地域の方々とともに児童生徒を育成する開かれた学校づくりに努めます。 ①　地域社会への授業公開と積極的情報発信 ②　地域人材の教育活動における有効活用
自己評価	①　地域社会へ向けた授業公開は，全校で積極的に行っており，学校公開日も設定しています。家庭や地域社会への情報発信として，各学校のホームページが毎日更新され，特に保護者から高い評価を得ています。また，メールマガジン配信システムは，不審者情報等の緊急性のある情報提供や連絡などに大変役立っています。 ②　地域人材の活用については，学校単位でスクールサポーターや学校支援ボランティアが組織され，登下校の安全指導や学習のサポートにも積極的に参加してもらい，効果が上がっています。また，地域の方々が学習内容に応じてゲストティーチャー(*8)として授業を行う機会も増えています。
今後の課題と対応の方向性	スクールサポーターや学校支援ボランティア等の協力がより効果的に活用・運営できる組織づくりを促進します。また，一人で登下校する児童生徒の安全確保が課題となっており，各地区のまちづくり協議会との連携も併せて，今後もより一層，地域の方々の協力と共に児童生徒の安全確保に努めます。

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

＊　ホームページは内容も充実しており，毎日楽しみにしている。今後も，生き生きとした活動を発信して欲しい。

＊　様々な体験活動で，地域や保護者との交流を図っているのは，大変素晴らしい。今後も継続して欲しい。

＊　教員の働き方を見直すきっかけ作りとして，PTA や外部人材に積極的に働きかけ，業務分担を図ってみてほしい。

Ⅱ　給食センター事業

学校給食は，単に栄養補給にとどまらず，児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり，かつ，児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものとして，学校給食法で７つの目標を定めています。これらの目標を視点とし，評価を行いました。

【学校給食法で定める７つの目標】

① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。

② 日常生活における食事について正しい理解を深め，健全な食生活を営むことができる判断力と望ましい食習慣を養うこと。

③ 学校生活を豊かにし，明るい社交性及び協同の精神を養うこと。

④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め，生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。

⑤ 食生活が食に関わる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め，勤労を重んずる態度を養うこと。

⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。

⑦ 食料の生産，流通及び消費について，正しい理解に導くこと。

項　目	**１　正しい食習慣の形成，好ましい人間関係の育成，栄養管理と健康増進，食のあり方について教育の一環として給食を実施する。**
目標・取組概要	① 食と健康，正しい食習慣などについて，給食を通して学べる工夫をします。 ② 給食センターの見学や試食会等で，保護者に学校給食についての理解を深めてもらうことに努めます。 ③ 安全安心で安定した学校給食を提供します。また，各学校の給食主任による献立会議を毎月１回開催し，児童生徒等からの声を反映した献立づくりを心掛け，食育につながる給食の提供に努めます。 ④ 食物アレルギーを持つ児童生徒の対応については，給食センター，学校及び保護者で情報の共有を図ります。
自己評価	① 食材の栄養，献立の内容，郷土食などを紹介した「栄養指導資料」を各学校に配付（年１１回）したり，献立表や食と健康についてなどを説明した「給食だより」をホームページに掲載（年１１回）することを継続して取り組むことができました。 　また，箸の持ち方や食事のマナーについては，栄養教諭，学級担任等が連携し，授業や給食時間に指導を行いました。 ＜給食の実施日数＞ 　１９２日 　※　１日当たり6,５７８食（平成３１年３月現在） 　　（昨年度同月　１日当たり6,５７６食） ② 保護者見学会などを通して，給食の意義や給食センターの調理の状況を説明するなどして，給食についての理解と現状を説明することができました。また，中学生の職場体験を受け入れ，給食を提供するまでの様々な過程を学習してもらうことができました。 　給食費の徴収については，学校と給食センターが連携して未納削減に取り組んでいます。

＜保護者見学会，試食会実績＞
見学会　 ３０名（前年　５４名）
試食会　823 名（前年８８４名）
＜給食費収納率（現年度分）＞
平成３０年度 99.91%（13 校中 10 校 100%）
※　平成 29 年度 99.95%

③　献立と本日の給食の写真をホームページに掲載し，給食に関する情報提供に努めました。献立は各学校の給食主任による献立会議を開催（年１１回）して，各校の意見を取り入れたり，茨城県産食材の利用，他県の郷土料理の紹介などにも取り組みました。

〈もうすぐ県民の日献立〉

ローズポークコロッケ，胡麻あえ，
大根とみずなの味噌汁，納豆，
ごはん，牛乳
※茨城県の特産品を多く使った給食

〈愛知県の郷土料理を紹介した献立〉

みそカツ，野菜のカレーソテー，
八杯汁，ごはん，牛乳
※愛知県はみそを使った料理が多い県です。八杯汁は何杯でも食べられるほどおいしいということから名前が付けられました。（栄養指導資料より抜粋）

放射性物質検査については，調理した献立（２献立）を検査し，検査結果を毎日ホームページに掲載して，給食の安全性について情報提供を図ることができました。

④　食物アレルギーを有する児童生徒に対しては，保護者，学校及び給食センターが情報を共有し，食物アレルギーによる事故防止に努めました。（事故発生なし）

【取組内容】

- 食物アレルギーを有する児童生徒の保護者に献立明細等を配付し，保護者から給食の喫食を判断するための「給食確認票」の提出を受け，情報の共有を図りました。
- ２献立制を活用して，希望により他の献立と変更するなどし，できるだけ給食を食べられるように努めました。

今後の課題と対応の方向性

①　栄養教諭による指導の機会を充実させ，法律で定める学校給食の目標が達成されるよう引き続き取り組んでいく必要があります。
②　給食費の改定について，今後の消費税率引上げや食材費値上がり状況を踏まえた検討をしていく必要があります。

	③　食数の増加に対応するため，新しい給食センターをできるだけ早く稼働できるよう，取り組みを進める必要があります。 ④　食物アレルギーを有する児童生徒に対しては，引き続き給食センター，学校，保護者の３者が情報共有しながら適切に対応する必要があります。

項　目	２　学校給食を安全・安定して供給するため，徹底した衛生管理を行う。
目標・取組概要	①　安心・安全で安定した学校給食の提供に努めます。 a　調理場内のドライ運用（*9）や，手洗い，調理用具の消毒を徹底し，食中毒の防止に努めます。 b　自己健康及び自己衛生管理表，衛生管理チェック票，作業工程表の確認を毎日行い，調理業務従事者に対する衛生管理の徹底を図ります。 c　施設内の害虫防除を行うとともに，上・下水道水質検査，食品衛生検査等を行い，食中毒防止に努めます。 ②　設備を定期的に保守点検し，不具合箇所を早めに発見して対処していくことで，安定した給食の提供を図ります。
自己評価	①　衛生管理マニュアルを徹底するとともに，施設の定期的な点検（水質検査・食品衛生検査等）や，汚れた壁面を清掃するなど，衛生管理の徹底を図り運用し，食中毒等の事故発生はありませんでした。 ②　新規の調理機器（スチームコンベクションオーブン３台，フードスライサー１台）を導入し調理能力を向上させたことで，欠食することなく，安定して給食を提供することができました。
今後の課題と対応の方向性	食数の増加が見込まれるとともに，施設や設備の老朽化による故障等が頻繁に起きています。安全な給食を安定して供給していくために，早急に新しい給食センターの稼働に向けて取り組む必要があります。また，新しい給食センターでは食器等の変更を予定しており，稼働するまでの間に，学校の給食受け入れ体制を準備する必要があります。

〈外部の方々から頂いた意見〉（保護者〔試食会より〕）

＊　いわしの梅煮は骨までおいしく食べられました。

＊　野菜がたくさんとれて良かったです。魚料理が苦手で家で食べさせてあげられてないが，学校で食べているので安心しました。

＊　好き嫌いが多い子供ですが，給食なら食べられるメニューもあるようで，これからも給食をヒントに家でも食べられるメニューが広がると良いと思いました。

＊　カレーはご飯が進む感じでおいしかったです。量も６年生では少ないかなと思いましたがおなかいっぱいになりました。

＊　ソフトめんは，野菜もたくさんあっておいしかったです。
＊　スープが薄味だと感じました。
＊　サラダの味がもう少し塩気があってもよかった。
＊　ランチプレートのため，野菜のおかずの量が少ないと感じました。

＜社会教育（生涯学習）分野の点検・評価＞

社会教育（生涯学習）分野については，大きく生涯学習事業と図書館事業に分けて点検・評価しました。

Ⅰ　生涯学習事業

１　自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供

市民が生涯学習に自発的に参加できるよう，学習できる機会・場を提供します。

項　目	１　多様な学習機会の提供に努めます。
目標・取組概要	公民館講座・教室を中心に，多様な学習機会の提供，学習意欲の喚起を図り，市民の学習活動につながるきっかけづくりを進めます。 ※　中央公民館，郷州公民館，高野公民館，北守谷公民館の運営は，平成２４年度から指定管理者制度を導入しています。 ①　公民館事業における学習機会，交流の場の提供 ②　人権啓発・人権教育の推進
自己評価	①　公民館講座・教室は，市民の学習意欲の喚起を図り，学習活動の促進に寄与しました。また，公民館まつりを通して，地域の方々に交流の場を提供しました。 ②　「人権啓発研修会」を通して，人権問題に対する意識向上を図りました。
今後の課題と対応の方向性	講座やイベント開催，各種お知らせ等情報の周知方法を検討する必要があります。ホームページの充実を図り，いつでも，どこでも，誰でも情報を収集できるよう努めます。 身近な人権問題に気づき，普段の生活の中で自他の人権を尊重する心を育成することが必要です。より良い人間関係を築くためのテーマ設定により，人権意識の向上を図ります。

〈外部の方々から頂いた意見（公民館講座参加者）〉

＊　講座のお知らせが幼稚園や小学校で配布されると良いと思う。
＊　いろいろな子ども向け講座を開催してほしい。
＊　同じ趣味を共有できる仲間ができ，楽しんで受講できた。

項　目	２　市民が安全で安心して学べる環境の整備に努めます。
目標・取組概要	市民にとって最も身近な学習拠点，地域の方々が交流する場である公民館等生涯学習施設の良好な環境を確保します。 ①　各公民館，もりや学びの里等生涯学習施設の適切な維持管理と活用 ②　中央公民館の大規模改修
自己評価	①　各公民館，もりや学びの里，東板戸井集会所等の生涯学習施設の不良箇所の修繕を行い，快適に学習できる環境を整備しました。 ②　老朽化に伴い大規模改修が必要になった中央公民館の平成３１年度工事着手に向けて，工事内容やスケジュールの決定及び利用者の調整等を行いました。 改修する中央公民館ホール
今後の課題と対応の方向性	公民館等の生涯学習施設は，建築年数に応じて老朽化が進んでいます。定期的に調査し，計画的な修繕を行います。

〈外部の方々から頂いた意見（公民館利用者）〉

＊　ちょっとした会合で公民館を利用したいが，希望の時間帯になかなか確保できない。５～１０人程度が入れる大きさの貸部屋を増やせないか。

＊　中央公民館ホールが暗くて，手元の資料が見えにくい。改善してほしい。

＊　高野公民館の駐車場を増やしてほしい。

項　目	３　子ども達の健全育成と家庭教育の充実を図ります。
目標・取組概要	子ども達の豊かな心を育むため，学校・家庭・地域の連携により，青少年健全育成と家庭教育に関する学習機会を提供し，充実を図ります。 ①　PTA 連絡協議会・子ども会育成連合会の支援 ②　家庭教育講座・講演会の開催 ③　青少年健全育成に向けた協力体制の充実 ④　中学生富士登山の実施 ⑤　あいさつ・声かけ運動の実施 ⑥　成人式の開催

自己評価	① PTA 連絡協議会が行う指導者講習会，子ども会育成連合会が行う育成者初級研修会等の会場提供，広報掲載や運営等の支援を行いました。 ② 保護者が家庭教育の重要性を認識し，家庭において子どもの健全育成が図れるよう必要な知識・技能を学習するため，家庭教育講座及び講演会を開催しました。 ③ 青少年に特に関係が深い店舗を訪問し，「青少年の健全育成に協力する店」の登録活動を行い，青少年健全育成に向けた協力体制の充実を図りました。 ④ 中学生富士登山は，仲間とともに，自然の厳しさと戦いながら山頂に挑むことで心身ともに健全な身体を作り，仲間意識を育むことに重要な役割を果たしました。 ⑤ いばらき教育月間の取組として，市内の教育関係団体，青少年育成団体と県立守谷高等学校，市内小中学校の児童生徒が「あいさつ・声かけ運動」キャンペーンを実施し，地域と学校が一体となった取組として定着してきました。 ⑥ 次代を担う新成人の門出を祝福するため，式典及び運営協力員企画イベントの２部構成による成人式を開催しました。会場を常総運動公園総合体育館に変更し，課題となっていた収容人数等について対応しました。 中学生富士登山　山頂での集合写真　　平成３１年成人式運営協力員
今後の課題と対応の方向性	近年の都市化，核家族化，地縁的なつながりの希薄化など，家庭・家族や青少年を取り巻く社会状況の変化の中で，家庭，地域の教育力の向上や将来を担う子ども達が安心して暮らせる環境づくりを進めていく必要があります。 ＰＴＡ，子ども会の活動を支援するとともに，学校，まちづくり協議会等との連携により，青少年健全育成と家庭，地域の教育力向上に努めます。

〈外部の方々から頂いた意見〉

＊　日本一の富士山に登頂したことは，人生の貴重な経験になると思う。長く続けてほしい。（保護者）

＊　家庭教育講座は，保護者だけではなく地域住民や児童クラブ支援員など誰でも受講できるのでありがたい。孫育てにも活用したい。（参加者）

２　生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援
市民がスポーツをする機会・場を提供します。

項　目	１　市民の健康・体力づくりとスポーツ活動の推進に努めます。
目標・取組概要	市民の健康増進と体力向上を図るため，スポーツ活動につながるきっかけづくりを行うとともに，自主的な活動を支援します。 ①　スポーツ教室の開催 ②　体育協会との連携と支援（各種スポーツ大会の開催） ③　スポーツ少年団活動の支援 ④　学校体育施設の開放
自己評価	①　スポーツ教室は，スポーツ推進委員の指導者による初心者水泳教室，アフターファイブスイミング，水中ウォーキング教室等を開催し，活動の継続を促進しました。 ②　各種スポーツ大会は，体育協会との連携により９種目の大会を開催しました。特に，バドミントン大会や卓球大会には，小学生から高齢者までの幅広い年代が参加し，異世代交流の場にもなりました。 ③　スポーツ少年団への活動支援として，認定指導員の資格取得，県大会以上の大会の遠征費助成などの支援を行いました。 ④　学校体育施設開放事業は，サークル，スポーツ少年団活動の拠点として，スポーツに親しむきっかけづくりと自主的な活動の場を提供しました。 スポーツ少年団交流会 市民卓球大会
今後の課題と対応の方向性	スポーツを通じた仲間づくりやスポーツの楽しさを体験するとともに，健康づくりや社会参加を促し，多くの市民が様々な分野のスポーツ活動ができるよう，情報提供や活動支援を行う必要があります。

〈外部の方々から頂いた意見〉
＊　たまに仲間を集めて運動したくて学校体育施設を借りようとするが，ほとんど毎日定期使用団体が入っているので，なかなか希望する日に使うことができない。１日だけでも定期使用団体に譲ってもらえるとありがたい。（利用希望者）
＊　気軽に参加できる初心者教室の種目を増やしてほしい。（スポーツフェスティバル参加者）

項　目	２　市民がスポーツに親しみ，交流する機会の提供に努めます。
目標・取組概要	スポーツイベントを通して，多くの市民がスポーツを「する・観る・支える」ための環境づくりを進めます。 ①　スポーツフェスティバルの開催 ②　守谷ハーフマラソンの開催
自己評価	①　スポーツフェスティバルを開催し，スポーツ体験コーナーを通じ，多くの市民に様々なスポーツ・レクリエーションを理解できる機会を提供することにより，スポーツを始めるきっかけづくりと仲間づくりを促進しました。 ②　守谷ハーフマラソンは，守谷ハーフマラソン実行委員会（体育協会）が主催しています。全国各地のマラソン愛好者から高い評価を受けており，幅広い世代の交流と健康増進に寄与しました。また，沿道で声援を送る市民や運営に携わる約８００人のボランティアスタッフが大会を盛り上げました。 ハーフマラソンの部　スタート
今後の課題と対応の方向性	市民アンケートによると，「日ごろからスポーツを行っている市民の割合」が，市が掲げる目標値（４０％）に満たない状況です。（平成３０年度　３２.４％） スポーツを自らが「する」だけではなく，茨城国体や東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に，スポーツを「観る」「支える」といった視点を持って，多くの市民がスポーツに親しむきっかけとなる取組を検討します。

〈外部の方々から頂いた意見〉

（第３５回守谷ハーフマラソン大会レポ「ランナーの投稿」より）

＊　守谷の皆様に感謝！駅からの送迎バスにはじまり，会場設営や交通整備，給水所などの大会運営，応援に至るまで，守谷市の皆様が総出で歓迎してくださっていることが伝わってくるあたたかな大会でした！

　小さなこどもからご高齢のおじいちゃんおばあちゃんまでが沿道から拍手で応援してくれたことや，太鼓の応援もとても励みになりました！

＊　今回初参加。交通アクセスも良く，会場も市役所庁舎を開放しており，荒天時には助かると思う。強いて難を言うならばトイレの数がやや少なかったか。

　あと，会場内に SNS にアップしてもらうための撮影ブースが設けられていたことがユニークだった。守谷市のシティプロモーションの取り組みのようだが，良い取り組みだと思う。沿道の応援も含めて，市を挙げたイベントとして定着している

と感じられる大会。
（スポーツフェスティバルアンケートより）

＊　スタッフとして参加しました。小学校対抗リレーや綱引きは大変盛り上がっているのですが，それ以外の時間が，物足りなく感じたことがあります。可能かどうかわかりませんが，地元野菜の販売や商工会での物販に加えて，的屋（てきや）などイベントを盛り上げてくれる業者の参加があっても良いかと思います。また，守谷高校などにもイベントを行ってもらったりチラシを配布し集客してはどうかと思います（守谷高校 VS 伊奈高校の野球練習試合など)。駅前に大きなポスター掲載するなども必要かと思います。

項　目	３　市民協働による国民体育大会の成功を目指します。
目標・取組概要	令和元年度に茨城県で開催する第７４回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」開催に向けて，「守谷市市民協働アクションプログラム」に沿って，市民の機運を高め，市全体で国体を盛り上げます。 ・リハーサル大会の開催 ・開催競技である『ハンドボール』のＰＲ ・市民ボランティアの募集・育成 ・歓迎装飾の作成及び花いっぱい運動の実施
自己評価	次年度に迫った本大会の円滑な運営を期するため，共同開催する「守谷市・常総市・坂東市実行委員会」と連携・協力してリハーサル大会を開催し，準備業務を進めました。 国体リハーサル大会
今後の課題と対応の方向性	リハーサル大会の経験を生かして，競技会の運営が円滑に行えるよう努めるとともに，花いっぱい運動，あいさつ運動，クリーンアップ運動など市民参加による「おもてなし」に取り組む必要があります。 おもてなしの一つである歓迎装飾については，協賛企業や市内外の賛同者の支援等により整備を進めます。

〈外部の方々から頂いた意見〉

＊　リハーサル大会でボランティアとして参加した。選手やスタッフの皆さんと関われて良い経験ができた。国体本番にもぜひ参加したい。（運営ボランティア登録者）

＊　ハンドボールを知るために，近隣で開催する試合観戦をした。ルールもだいたい分かってきたので，国体開催のときまでにしっかり覚えて応援したい。（リハーサル

大会観戦者）

＊　おもてなし料理の蕎麦がとても美味しかった。国体本番でも期待している。（リハーサル大会観戦者）

３　親しみを感じる芸術・文化の推進

市民が芸術や文化を気軽に親しめるよう，芸術・文化・歴史に関する活動に触れる機会・場を提供します。

項　目	**１　芸術・文化活動の発表の場と鑑賞の機会を提供します。**
目標・取組概要	市民の芸術・文化活動への意欲向上を促進するため，文化協会等との連携により，学びの成果を発表する場を提供するとともに，芸術・文化の振興を推進するため，鑑賞の機会を提供します。 ①　芸術祭の開催 ②　夕べのコンサートの開催 ③　コンサート等大規模事業支援制度の活用促進 ④　守谷市美術作家展の開催 ⑤　アーカスプロジェクトの推進
自己評価	①　芸術祭は，絵画，写真等の展覧会や音楽会など，多種多様な芸術・文化活動の成果を発表する場を設けることにより，参加者の学習意欲の高揚を図ることができました。 ②　夕べのコンサートは，出演者が運営に参画し，自らの手でコンサートを創り上げ，市民に無料で気軽に音楽に親しめる場を提供しました。 ③　コンサート等大規模事業支援制度は，生涯学習団体等が市民を対象としたコンサート等の大きな催し物を開催する場合，年１回に限り，会場の優先使用を許可（使用料も免除）する制度です。６団体が活用し，市民への芸術鑑賞の場の提供に寄与しました。 ④　守谷市美術作家展は，市内在住等で美術の分野で活躍している郷土作家の展覧会を開催し，市民への芸術・文化の振興に寄与しました。 ⑤　茨城県との共催によるアーカスプロジェクトは，もりや学びの里内のスタジオに海外アーティスト３名を招いて創作活動の支援と市民がアーティストの活動に触れられる機会（オープンスタジオ）を提供し，現代アートを鑑賞する機会を提供しました。 夕べのコンサート　コーラスサークルの発表

今後の課題と対応の方向性	芸術・文化のイベントの開催案内をはじめ，積極的なＰＲを行う必要があります。また，文化協会等と連携・協力して，様々な分野のコラボレーションによる新たな取組を立案することも課題です。 更なる活動意欲の向上と，新たに活動を始めるきっかけづくりのため，シティプロモーションと連携したＰＲやＳＮＳを活用した情報発信に努めます。

〈外部の方々から頂いた意見〉

＊　様々な作品展示について，公民館等の公共施設だけではなく，ショッピングセンターなどたくさんの人が訪れる場所で行ってみてはどうか。（芸術祭来場者）

＊　市内に大勢の人が集える大きな音楽ホールがほしい。（市内音楽団体）

＊　夕べのコンサートを毎回楽しみにしている。手作り感があって素晴らしい。（コンサート来場者）

４　文化財を愛する心の育成

地域の貴重な文化財を後世に継承し，活用します。

項　目	１　郷土愛の育成と文化財の保護・周知に努めます。
目標・取組概要	市民に郷土の歴史や先人の残した文化遺産を理解してもらい，文化財の保護と周知を図ります。 ①　文化財の保護・周知 ②　刊行物の周知・公開 ③　出土品，古民具等の活用（貸出）
自己評価	①　文化財保護審議会により文化財の保存及び活用に関する調査・研修等を行うとともに，文化財説明板，指定柱の設置・更新により文化遺産の周知に努めました。また，文化財保護週間の取組として，郷土の歴史を知ってもらうため，「もりや歴史さんぽ」を開催しました。 ②　「文化財マップ」，「平将門伝説」を希望者に無料配布し，文化財，史跡等の周知を図るとともに，郷土史，埋蔵文化財発掘調査報告書や自然調査報告書等の刊行物を周知・公開しました。（一部販売，提供） ③　市内小学校等に，出土品，古民具を貸し出し，文化財の活用を図りました。 守谷市文化財保護審議会委員の自主研修

今後の課題と対応の方向性	市民アンケートによると，「市内の指定文化財を知っている市民の割合」が，市が掲げる目標値（３０％）に満たない状況です。（平成３０年度２５.３％） 今後，市ホームページ等のほか，市民が守谷市の指定文化財を知る手段や方策を検討します。

〈外部の方々から頂いた意見〉

＊　「守谷ふるさとかるた」を活用して，楽しみながら守谷の歴史や風土を知ることができた。（かるた購入者）

＊　市民が市指定文化財を知る機会を設けてほしい。（公民館講座参加者）

５　安心して遊べる場の提供

子どもが安全に遊び，学び，交流できる場を提供します。

項　目	１　放課後子ども総合プランを推進します。
目標・取組概要	全ての児童の安全・安心な居場所を確保するため，放課後子ども総合プランを推進します。 ①　放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な実施 ②　安全・安心な居場所の整備
自己評価	①　放課後児童クラブと放課後子ども教室の運営を一体的に民間委託しており，工作等の創作活動に加えて，サッカー教室や英語に触れる活動，地域の人材を活用した講座や音楽やダンスを楽しむ活動を行うなど，子ども達の要望を踏まえたプログラムを柔軟に取り入れることができました。 ②　共働き家庭の増加に比例して，児童クラブの利用者も増加傾向にあり，かつては，児童数全体の２０％前半だった利用率が２８％になる中，施設長（学校長）との協議による放課後の特別教室の活用，また，児童クラブ専用室の新設計画を進めるなど各小学校の実情に合わせた施設整備を行いました。 英会話教室 サッカー教室
今後の課題と対応の方向性	国が策定した「新・放課後子ども総合プラン」（２０１９～２０２３年）の目標である❶放課後児童クラブの待機児童の早期解消，❷放課後児童クラブと放課後子供教室の一体的な実施の推進，❸学校施設の活用及び放課後児童クラブの小学校内での実施，❹子どもの主体性を尊重した健全育成の徹底と全ての児童の安全・安心な居場所の確保を踏まえて，守谷市の課題である❸，❹に計画的に取り組みます。

〈外部の方々から頂いた意見〉

（保護者）

＊　児童クラブ専用室の増設をしてほしい。

＊　児童クラブの閉所時刻を延長してほしい。

（地域ボランティア）

＊　放課後子ども教室では，子ども達が自主的に遊び，学びに積極的に取り組んでいる。子ども達の吸収力は素晴らしい。

（子ども）

＊　もっといろいろな遊びを教えてほしい。

＊　いろいろな学年の友達と遊べて楽しい。

Ⅱ　図書館事業

平成３０年度に関しては，指定管理者の運営によるものです。令和元年度より，運営が市直営に変更となっているため，今後の課題と対応の方向性に関しては，市が直接対応していきます。

１　いつでも気軽に気持ちよく利用できる図書館

全ての市民に，気軽にいつでも気持ちよく利用される図書館を目指します。

項　目	１　市民の意向を反映した図書館運営
目標・取組概要	市民ニーズや要望を的確に把握し，市民が求める図書館運営を行います。
自己評価	利用状況は，一日平均貸出者８２１人，年間の市民一人当たりの平均貸出点数が１４.４９点で，県内２位です。 開館日数や開館時間の拡大により，利用者がいつでも利用できる環境を整備し，高い利用実績を維持することができました。
今後の課題と対応の方向性	直営による運営再開後も，開館日や開館時間は変更ありません。また，好評だったサービスは継続するとともに，自治体による運営の特色を出していく必要性があります。 運営形態が変わっても，利用者がいつでも気持ちよく利用できるよう，スタッフの業務遂行能力向上に努める必要があります。そのため，日常的なOJTの実施や各種研修会等への計画的参加に努めます。

〈外部の方々から頂いた意見〉（利用者〔アンケートより〕）

＊　市直営の運営になっても，開館日や開館時間を変えないでほしい。

項　目	２　多様な資料の収集・整理・保存
目標・取組概要	市民が多様な情報を容易に得ることができるよう，図書資料の収集・整理・保存に努めます。また，視聴覚資料，逐次刊行物の収集・整理に努めるとともに，電子媒体資料の充実にも努めます。

自己評価

図書資料１５,０２９冊，視聴覚資料４７１点，雑誌３４１タイトル，新聞３２種を収集して，資料の充実を図ることができました。

平成３０年度県内市町村図書館資料費

順　位	市町村名	市民1人当たり（円）
1位	守　谷　市	４９７
1位	神　栖　市	４９７
3位	潮　来　市	４７８
4位	笠　間　市	４４８
5位	東　海　村	４４０

今後の課題と対応の方向性

市民一人当たりの資料費は，県内で最高水準です。今後も市民の求める図書や情報の収集，提供に努めるとともに，地域・行政資料の収集・保存にも努めます。

項　目	３　市民との協働
目標・取組概要	図書館と市民ボランティアの協働で各種行事を展開することにより，市民の利用促進を図ります。

自己評価

① 図書館を拠点に市民参加型ボランティアが「読み聞かせ，本の修理，音訳テープの作成等」積極的な活動を行っています。ボランティアによるおはなし会を年間１６４回，本の修理を週２日，ボランティア活動体験会「修理編」を行うなど，市民との協働による図書館運営を進めることができました。

② 保健センターが実施する３・４か月児健診時にブックスタートを実施し，延べ５７８人の乳児の参加がありました。親子のコミュニケーションの大切さを伝えるため，ボランティアによる読み聞かせや絵本の無料配布を行い，早くから本と触れ合う機会を設けるなど，親子のふれあいを支援しました。

③ 図書館ボランティアとの協働により，図書館見学会，子ども向けイベントを開催しました。

図書館ボランティアによる読み聞かせ

今後の課題と対応の方向性

世代交代があっても活動が途切れることのないように，ボランティアの育成と支援に継続的に取り組む必要があります。

〈外部の方々から頂いた意見〉（ボランティア〔アンケートより〕）

＊　スタッフの対応が親切で良い。

＊　直営に戻っても，現状維持以上の運営をお願いします。

2　図書館機能の強化とサービスの充実

市民の知的要求を保障し，日常生活に生かすため図書館機能の強化とサービスの充実を図ります。

項　目	1　図書館ネットワークの活用
目標・取組概要	図書館ネットワークの活用により，市民が求める資料及び情報を効率的，効果的に提供するサービスを行います。
自己評価	図書館ネットワークを活用して，中央図書館及び公民館図書室において，利用者に対して利用案内，各種情報提供及び貸出等のサービスを提供することができました。
今後の課題と対応の方向性	図書館資料の予約・リクエストは，一日平均６２４．６件と昨年度実績をやや下回りましたが，資料準備後のキャンセル数は増加傾向にあります。Web 予約数に上限を持たせるなどの必要性について検討する必要があります。

項　目	2　子ども読書活動推進
目標・取組概要	学校，保育所，認定こども園，幼稚園との連携を強化し，子ども読書活動への支援を推進します。
自己評価	子どもの読書週間に合わせ，小学生以下の子どもを対象としたブックラリーの実施，ぬいぐるみのおとまり会，クリスマスや節分など行事に合わせておはなし会を開催し，図書館を身近に感じてもらい，図書館を利用してもらえるように取組ました。また，小学校へのブックパック(*10)の貸出，中学生を対象とした本の帯コンテストを実施しました。
今後の課題と対応の方向性	第三次計画に基づく取組を基盤に，次期計画への課題等の洗い出しを実施します。また，図書館を利用する機会の少ない子どもたちに，図書館を身近に感じてもらえるイベント等の開催に継続的に努め，子どもたちの読書活動を推進します。 学校教育改革プランを受け，市内の小・中学校，指導室と連携を図りながら，学校図書館充実のための支援を行います。

3　施設・設備の安全

施設や設備の安全に留意して，誰にでも使いやすい図書館を目指します。

項　目	1　良好な施設環境の整備
目標・取組概要	保守点検及び修繕に努め，市民に快適な空間を提供できるよう努めます。
自己評価	指定管理者と市が協力し，お互いの分担の範囲における修繕や改善を実施し，利用者への快適な空間提供に努めました。

今後の課題と対応の方向性	建設から２４年が経過し，施設の老朽化が進んでいます。空調設備改修などの大規模修繕等について，計画的に実施していく必要があります。

〈外部の方々から頂いた意見〉（利用者〔アンケートより〕）

＊　清潔で気持ち良い。

【用語の解説】

＊１　**学習支援ティーチャー・社会人ＴＴ・・・**市内の小中学校に，教員と連携して複数の指導者による学習指導(ティームティーチング)や少人数指導を行う守谷市独自の支援事業です。生活指導や学習指導にあたることができる学習支援員を配置し，個に応じたきめ細やかな指導を行っています。

＊２　**スクールソーシャルワーカー・・・**児童生徒の諸問題に対して，保護者や教職員と協力しながら解決を図る専門職です。心理的なアプローチをしながら問題の解決を目指すスクールカウンセラーに対して，スクールソーシャルワーカーは，児童生徒を取り巻く環境に働きかけをしながら諸問題にアプローチします。

＊３　**訪問型支援「アウトリーチ」・・・**アウトリーチとは本来，手を差し伸べるといった意味をもち，介護や福祉の分野において用いられている用語で，ソーシャルワークや福祉サービスを提供する機関が利用希望者に手を差し伸べ，利用を実現させる取組を「アウトリーチ」と言います。　教育の分野においては，教育支援センターを中核として，不登校等児童生徒の諸問題への対応においても，アウトリーチがよりよい効果を及ぼす可能性が高いと言われています。このような背景からも，教育支援センターと学校が連携しながら不登校児童生徒の家庭を訪問し，保護者に対して相談や情報提供をしたり，児童生徒の実態に応じて学習支援や登校刺激を行ったりする援助支援を，守谷市総合教育支援センターにおけるアウトリーチとして位置付け取り組んでいます。

＊４　**ＩＣＴ・・・**「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略で，パソコンやスマートフォン，タブレット，電子黒板など，さまざまな形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称です。

＊５　**インタラクティブ・フォーラム・・・**茨城県英語教育研究部の主催による，中学校２年生と３年生の生徒を対象とした英会話のコンテストです。ある話題に基づいて英語で会話を交わしながら英語を用いて双方向的かつ論理的にコミュニケーションを図る力を高めることを目的としています。各学年から３名の代表生徒が市大会に参加します。

＊６　**プログラミング・・・**自分が意図する動きを実現するために，コンピュータに指示を与えることをプログラミングと言います。例えば，スマートフォンで使われているアプリなども，プログラミング（例：メールを読んだら既読にするという動きをコンピュータに指示（プログラム）する）により作られたものです。

＊７　**エドテック・・・**EdTech（エドテック）とは Education（教育）と Technology（科学技術）を組み合わせた造語です。教育分野においても，コンピュータに代表される科学技術を駆使して，学習や教育環境を劇的に変革（イノベーション）しようとする取組です。インターネットを介することで，広い世界での双方向でのコミュニケーションがより可能となったり，教師の業務の効率化が図られたりする等の大きな期待が寄せられています。

＊８　**ゲストティーチャー・・・**学校に招き，授業を行っていただく学校以外の団体や地域住民の方々を呼ぶ総称です。小学校の授業において，昔の遊びを伝承したり，田植えの技能を指導したりする地域住民の方々や，キャリア教育の一環として，プロフェッショナルな職業について講義をする諸団体の方々等，ゲストティーチャーの活用は多岐にわたっています。

＊９　**ドライ運用・・・**床を乾かした状態で使用することです。

＊１０　**ブックパック・・・**朝読書の時間などに読んで欲しい本の「読書推進セット」。１回当たり３００冊（50 冊×６学年）を２か月間貸出するサービス。A，B，Cと３セットあり，１年で小学校９校を巡回します。

守谷市教育委員会点検評価意見書

点検評価委員　　遠藤　一美

１　教育委員会

守谷市教育委員会は，「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」という教育目標を掲げ，その具現化のために学校教育・社会教育において守谷市独自の様々な施策を実施し，児童・生徒や市民に信頼される教育を推進しています。年々，内外から高い評価を受けていることは多くの方が周知しているところです。

守谷市は，「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正（平成２７年４月１日施行）に伴い，市長と教育委員会が地域教育の諸課題を共有するための「総合教育会議」を設置し，民意を反映した教育行政の推進に努めています。

今年も教育委員会の会議が，定例会１２回，臨時会１回，協議会１回開催されています。審議案件は５２件に上り，慎重かつ着実な審議が進められています。

平成３０年度の決算概要を見ると，一般会計総額の１５．９％が教育費に使われています。また，ふるさと納税額の１２％（約１億４千万）も教育関係に使われています。教育最優先の守谷市らしい歳出状況だと思います。

今後，少子高齢化や人口減少，グローバル化の急速な進展による国際競争の激化が予想される中，国際社会で活躍できる次代を担う子どもたちの育成が望まれます。守谷市学校教育グランドデザインのもと，「知・徳・体」のバランスのとれた子どもたちの育成に努めることを期待します。

２　学校教育課・指導室事業

（１）教育環境の整備・充実

児童生徒が快適な環境の下で学習できるように整備すること，また登下校の安全確保や不審者侵入等の危機管理体制の確立は，喫緊の課題です。

守谷市では，御所ケ丘中学校の体育館改修，御所ケ丘小学校の校舎改修，大野小学校体育館改修等，環境整備に努めています。特に，障がいのある児童生徒に配慮した施設・設備の構築は，大いに評価したいと思います。また，学校の施設設備の老朽化も進んでいます。守谷市では，学校施設長寿命化計画を策定し計画的な改修を進めています。膨大な経費が掛かるとは思いますが，計画的なメンテナンスをお願いします。

全国で通学路での事故や事件が数多く報道されており，保護者の皆さんも不安を抱えていることと思います。学校での交通安全指導や防犯教育の強化はもちろんですが，警察や道路管理者等の関係者との連携を密にし，安全対策を講じることが大切だと思います。通学路への防犯カメラの設置を推進し，地域全体にアピールすることも予防につながると考えます。

（２）学校教育プラン

①ステップアッププラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身に付けさせることは，学校教育の根幹です。平成３０年度の茨城県学力診断テスト正答率を見ると，小中学校ともすばらしい正答率を示しています。子どもたちの学力が定着していることが分かります。さらに児童生徒の主体的・対話的な学びを推進してほしいと思います。

一方，学力の個人差が課題となっているようです。対策としては，サタデー学習支援教室を２７回実施したり，学習支援ティーチャーを各学校に３５名配置して個別に支援をしているようです。「落ち着いて勉強することができた」という児童が７割を超えていることは，すばらしいと思います。今後も個に応じた学習支援を充実させ，

一人ひとりを大事にした教育を推進してほしいと思います。

②ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

学校教育では，全教育活動を通して，「自分はやればできる」という自信と「みんなに必要とされている」という自己有用感を育むことが大切です。きらめきプロジェクト（守谷市保幼小中高一貫教育）を通した道徳教育の充実や小中高合同の「きらめきフォーラム」等の体験は，意義あるものと思います。

守谷市総合教育支援センターの支援活動は，教育に悩む保護者や学校に登校できない不登校児童・生徒にとって，心のよりどころとなる大切な支援活動です。学校と家庭そして専門機関との連携が必要不可欠です。来談を待つのではなく，積極的に訪問支援（アウトリーチ）を行い，子どもの気持ちに寄り添って欲しいと思います。

「守谷市いじめ対策本部及び守谷市立小中学校いじめ対策本部設置要綱」を策定し，いじめの早期発見，迅速かつ組織的な対応，解消に向けての具体策を講じる組織を位置づけたことは，喫緊の課題に対応する素晴らしい活動だと思います。特に各学校との連携によるいじめ対策会議での情報の共有は，いじめの早期発見，いじめの予防のために必要不可欠です。

③ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

人生１００年時代が叫ばれる昨今，心身ともに健康なたくましい身体づくりは，人生設計の基盤です。そのためには食育を中心とした栄養や食物についての知識や関心を高め望ましい食習慣の定着を図ること，そして全教育活動の中で運動を取り入れ体力の向上を図る必要があります。また，運動に関心を持たせる環境づくりが大切です。

守谷市の小中学校の体力テストＡ＋Ｂの達成率は，ほぼ県平均と同様です。部活動については，学校にみに依存せず部活動指導員の積極的な導入やクラブチームへの加入など，選択の幅を広げることも考えなければならないと思います。

④ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

世界経済の結びつきが深まりグローバル化が加速する中，新しい時代に対応した教育を進めることはとても重要なことです。守谷市では，自らの力で将来を切り拓いていくために，外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育に力を入れています。

キャリア教育では，中学２年生の職場体験学習等を通して望ましい勤労観や職業観を育んでいます。職場体験の事業所探しにはご苦労があると思いますが，教育委員会のリーダーシップの下，継続をお願いします。

外国語教育においては，全小中学校にＡＬＴを常駐配置され外国語に触れる場面を多くしています。このことは県インタラクティブ・フォーラムへの出場や高円宮スピーチコンテストの上位入賞という成果に表れていると思います。また，中学３年生の英検３級以上の取得率は５１％を超え，すばらしい成果を収めています。先生方の指導に感謝の意を表します。

プログラミング教育では，２名のＩＣＴ支援員を配置し，授業支援や教員研修を進めています。教員の実態を考えると，先生たちの指導力の格差の問題も考えられます。教職員の指導力アップに力を入れて欲しいと思います。また，情報モラル教育の推進も期待しています。

⑤パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

学校は地域の文化の中心的存在です。学校・家庭・地域が連携して開かれた学校づくりを進める必要があります。守谷市の学校では，信頼される学校づくりに努め，積

極的な授業公開と情報発信をしています。特に各学校のホームページは毎日更新され，保護者や地域の皆さんからも好評だと聞いています。また，地域人材の活用では，スクールサポーターや学校支援ボランティアのみなさんの協力が効果的に機能しているようです。地域ぐるみで子どもたちを育てていきたいものです。

３　給食センター事業

給食センターでは，学校給食法で定める７つの目標の達成を目指し，着実な取り組みを進めています。特に注目したい点は，安心安全で安定した学校給食を提供するために，児童・生徒からの声を反映させた献立作りや，食物アレルギーを持つ児童生徒への配慮がなされていることです。食物アレルギーによる事故を防止するために，保護者・学校・給食センターが情報を共有し「給食確認票」を作成したり，２献立制を活用したりするなどの工夫が見られます。

各市町村で課題となっている給食費未納の問題では，守谷市は給食費収納率９９．９１％と素晴らしい収納率です。守谷市民の意識の高さと関係の皆様の努力のおかげだと思います。

消費税率引上げや食材費値上がりによる給食費の改定については，やむを得ない状況だと思います。改定には保護者の皆様に納得してもらえるように説明責任を果たしていただきたいと思います。

衛生管理では，調理場内のドライ運用や新規の調理機器を導入し，衛生的で安定した食の提供に努めており評価できます。早急に新しい給食センターの稼働に期待をしています。

４　生涯学習・図書館事業

（１）生涯学習事業

①自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供

公民館の講座に参加した人は，延べ２，６６６人だそうです。市民一人ひとりが自己の人格を磨き，豊かな人生を送ることが出来るように意欲的に生涯学習に取り組むことは，大変意義深いことです。講座やイベントの情報を積極的に周知する工夫も必要です。中央公民館の大規模改修には賛成です。明るく広々とした雰囲気になればいいと思います。中学生の富士登山は，自然の厳しさと戦いながら仲間と苦を共にする貴重な体験です。是非，続けてほしいと思います。

②生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援

市民アンケートによると，「日頃からスポーツを行っている市民の割合」が，３２．４％で市の掲げる４０％に満たない状況です。茨城県で開催される第７４回国民体育大会や東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に，多くの市民がスポーツに親しむ機会を増やしたいものです。

守谷ハーフマラソンは，全国各地のマラソン愛好者から高い評価を受けており，ボランティアスタッフの支援もすばらしいと思います。さらなる盛会を期待します。

③親しみを感じる芸術・文化の推進

守谷市では文化協会と連携し，芸術祭の開催，夕べのコンサートの開催，守谷市美術作家の展覧会，アーカスプロジェクトの推進等を通して，市民が芸術や文化に気軽に親しめるような機会を提供しています。楽しみにしておられる市民の皆さんのために，マンネリ化しない新たな取り組みを考えてほしいと思います。アーカスプロジェクトについては，学校の児童・生徒との交流の場を増やしてほしいと思います。

④文化財を愛する心の育成

市民の皆さんの市の文化財への知名度は，２５．３％とお聞きしました。この数字は少し残念な感じがします。市としても，守谷歴史さんぽ，文化財マップ，守谷ふるさとかるたなど広報活動を進めているところですが，さらに市のホームページ等を利用してさらなる周知をお願いしたいと思います。

⑤安心して遊べる場の提供

共働き家庭の増加に比例して，児童クラブの利用者が増加し利用率が２８％に達していると聞きました。運営を民間に委託しているとは思いますが，学校と協力して児童の安心・安全な居場所の確保をお願いしたいと思います。

（２）図書館事業

①いつでも気軽に気持ちよく利用できる図書館

令和元年度より運営が市直営となり，市民のニーズや要望を的確に把握した図書館運営が求められています。年間の市民一人当たりの平均貸出点数が１４．４９点で，県内でも上位の利用率を示しています。運営形態が変わっても利用者が気持ちよく利用できるように努めて欲しいと思います。

②図書館機能の強化とサービスの充実

子どもたちの読書離れが叫ばれています。学校改善プランに示されているように，主体的・対話的で深い学びを支える学校図書館への転換を図るために，中央図書館と学校図書館の連携をより一層深め，子どもたちの読書活動推進の支援をしていただきたいと思います。

③施設・設備の安全

建設から２４年が経過し，施設の老朽化が進んでいるようです。市民目線の計画的な修繕及び改修を期待します。

【総括】教育委員会の全体評価

学校教育における喫緊の課題は，①いじめ問題，②児童生徒の安心・安全の確保の問題，③新学習指導要領の実施（授業時数増加），④教職員の働き方改革の問題です。

守谷市では「子育て王国もりや」実現に向けた学校教育改革プランを策定し，既成概念に捉われない斬新な改革を実践しています。特に「守谷型カリキュラム・マネジメント」により，前・後期制の導入，授業実施日の改革，週３日の５時間授業等の改善を図り，教育活動の質の向上や先生方や子どもたちの生活スタイルの改善の取り組みを進めています。

また，教職員の働き方の改善にも様々な手立てを講じています。タイムカードの導入，留守番電話の活用，部活ガイドライン策定，学習支援ティーチャーの配置，ＡＬＴの全校常駐配置，いじめ対策指導員の配置，タブレット２，０００台の導入，ＩＣＴ指導員の導入，校務支援システムの導入等々です。このような施策は先生方にとって，児童生徒に向き合う時間が増えることにつながり大変ありがたいことだと思います。このような守谷市の教育は，全国からも注目され視察にくる団体も多く，評価も高いと聞いています。

守谷市教育委員会の取り組みは，将来を見通した先進的な取り組みであり，恵まれた教育環境の中で子どもたちを積極的に育てていこうという意気込みが感じられ，その姿勢は高く評価します。今後さらに教育改革プランの推進を図り，未来を担う子どもたち一人ひとりを大切にした教育を進めてほしいと思います。

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員　　杉本　真

1　教育委員会

子どもたちが楽しく学校生活を送り，必要な学力を確実に身につけ，将来に夢を持って成長していくことは，日本の未来を明るくする重要な施策の一つであるとの認識を持っている。

一方で，いじめ・不登校・ＳＮＳなど，今日，子どもたちを取り巻く環境には，早期に対応が必要としている課題も山積です。また，虐待・不審者・自然災害などから，かけがえのない子どもたちの命を守る社会のしくみを適切に整備していくことは，子どもたちを取り巻く状況が複雑に絡み合っている場合もあり，極めて重要な課題です。

このような中で，教育委員会が果たす役割は非常に重要であり，市民の期待も大きい。適切かつ機動的な施策や対応が望まれている。平成３０年度は，教育長を含めて３名の教育委員会委員の方が交代されました。新しい発想で子どもたちを取り巻く重要課題にスピード感を持って取り組んでいただくよう期待したい。

2　学校教育課・指導室事業

（１）教育環境の整備・充実

校舎の大規模改修時のエレベーターの設置を高く評価いたします。障がいのある児童生徒へ配慮した施設設備の改修は大規模改修時以外では非常に限定的な内容とならざるを得ない。御所ケ丘小学校の校舎改修に伴うエレベーターの設置は、障がいのある児童のみならず、思わぬケガで松葉づえや車いすなどを一時的に使用しなければならない児童へも有効な設備である。エレベーターの設置は様々な状況下の児童生徒に対応できる必要不可欠な設備であるので，今後も計画的な整備拡充を望みたい。

（２）学校教育プラン

①ステップアッププラン（確かな学力の育成）

どの子にも確かな学力を育成することは重要な課題である。茨城県学力診断テスト正答率の４年間の推移を見ると，守谷市の正答率は県平均を大きく上回っている。身に付けるべき学力が確実に定着していることがわかる。確かな学力を育成するための施策が効果的に展開されていることがうかがえる。特に，守谷市保幼小中高一貫教育の推進では義務教育９年間を中心とした連携のとれた教育活動が展開されている（ソフト面の充実)。また，学習に不安のある児童に対して個別の支援を行うサタデー学習支援教室の実施（登録児童 85 名に対し年間２７回実施）や児童生徒の学力向上及び生活習慣や学習習慣の確立を図るための学習支援ティーチャー（小中学校合計で３５名)・社会人ＴＴ（１名）の配置が行われている。このような多様な児童生徒への教育支援活動が適切に且つ効果的に行われていることで，児童生徒の学力の底上げが行われ，発展的な学習へ誘う指導ができる体制（人的支援＝ハード面の充実）が整えられていることを評価したい。

②ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

守谷市総合教育支援センターの来所相談数が増加している。不登校やいじめなど心に悩みを持つ児童生徒やその保護者，就学に関する相談を必要とする保護者のニーズが相談数の増加に表われている。困っている子どもやその保護者に寄り添った相談業務を始めとして，総合教育支援センターの事業に係る包括的な教育支援活動の充実のため，今後も経験豊かな相談員の増員等の充実を望みたい。

③ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

体力テストの結果（Ａ＋Ｂの達成率）から，児童生徒の体力の向上が着実に進んでいることわかる。今後の取組みに期待したい。

④ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

中学校３年生が英検３級以上を取得した割合が５０％を超えている。全国平均が２３.９％であることと比較すると非常に高い取得率である。新しい時代に対応した教育を推進する上で特筆すべき成果であり高く評価したい。守谷市のＡＬＴ（外国語指導助手）の導入は２０年近く前から行われており，「全小中学校」「全学年」「常時配置」の原則を崩すことなく継続してきている。全ての児童生徒に余すことなくネイティブの英語を，という一貫した方針のものとに進められてきている。このような先進的且つ継続的な取組みの成果が「英検３級以上取得」という結果に表出している。郷州小の児童アンケートでは９６％の児童が「英語活動が楽しい。」と答えている。大井沢小の同アンケートでも９４％の児童が「英語活動で積極的に話した」と答えており，小学校の段階からＡＬＴと連携した英語活動において，児童の意欲的な学習姿勢が育まれていることを高く評価したい。

⑤パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

開かれた学校づくりや家庭・地域との連携においては，学校からの情報発信が欠かせない。各小中学校共にホームページによる情報発信が熱心に行われている。ホームページを毎日更新し日々新しい情報を発信（御所ケ丘中）することで，学校への理解が深まっている。１日の平均アクセス数が２千件を超え（守谷中），保護者・地域・学校の協力的な関係づくり構築に寄与している。今後も学校・家庭・地域の連携強化が図られることを期待する。

３　給食センター事業

学校給食は正しい食習慣の形成や好ましい人間関係の育成に寄与する重要な教育活動の一環であるとの認識を持つ。美味しい給食，安全な給食の実現のためには，給食費の未納削減に取組み安定した徴収が行われることが重要である。給食費未納が累積されない工夫や取組みが行われた結果，給食費の収納率が９９.９％に達している。（１３校中１０校において１００％）

給食の質を担保し，給食費値上げを最小限に止めるためにも，安定的な給食費徴収を今後も継続して行ってほしい。

老朽化した給食センターが改築（建替え）されることになった。国が定める衛生管理基準を満たすためにも適切な判断である。

児童生徒が楽しみにしている「給食」は，メニューの工夫や食の安全，質の向上が重要である。新給食センターにおいて美味しくて安全な学校給食の提供が一日も早く行われることを期待したい。

４　生涯学習・図書館事業

（１）生涯学習事業

①自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供

人生１００年時代において，各世代に応じた多様な学習機会・場の提供は非常に重要な事業である。市内の各公民館が中心となって市民の学習意欲を受け止める活動を期待したい。また、３０年以上も継続している「富士登山（中学生)」の事業は非常に興味深い事業である。毎年１００名近い中学生が仲間と共に自然の厳しさと戦いながら山頂に挑むことは，心身の健全な成長に資すると考える。

２０１３年，富士山が世界文化遺産に登録されたことで，世界中の観光客からも注目を浴びている。富士山登頂を目指すこの事業がさらに意義深いものになった。今後も，登山ガイドの配置（３名）などに配慮し，安全で感動的な体験活動の継続を望みたい。

②生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援

３５回を迎えた「守谷ハーフマラソン大会」は広く市民に認知され，全国各地のマラソン愛好者から高い評価を受けている。長期に渡って継続して実施していることを高く評価したい。運営に携わるボランティアスタッフ（約８００名）が大会を盛り上げるなど，守谷市の「冬の風物詩」としての位置付けも定着している。今後も，多くの市民がスポーツに親しむきっかけとなるような魅力的な大会の開催を目指してほしいと思う。

「夏休みプール開放事業」では，常総運動公園屋外プール・民間施設プールを利用できる「利用券」を「児童１人３回分」発行したが，利用率は３割程度に止まった。夏休み期間中の安全なプール利用や公共の場における公徳心向上のためにも、利用率をさらに向上させる工夫を講じたい。

③親しみを感じる芸術・文化の推進

「夕べのコンサートを毎回楽しみにしている。手作り感があって素晴らしい。」（コンサート来場者）との声があるように，出演者が運営に参画したり，自らの手でコンサートを創り上げたりしていることが，市民に評価されている。

芸術・文化の振興のため芸術鑑賞の場の提供に，今後も尽力していただきたい。

④文化財を愛する心の育成

「市内の指定文化財を知っている」割合が２５.３％である。（市民アンケート）文化財，史跡等の認知度がやや低い。認知度向上のため，広報活動の一段高い取り組みとさらなる工夫改善を検討していただきたい。

⑤安心して遊べる場の提供

放課後子ども総合プランは，「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の運営を一体的に運営することで，創作活動やスポーツ・ダンス・遊び・音楽・英語など多様な活動を行わせながら，安心・安全な居場所を提供している。待機児童ゼロを継続している取り組みを高く評価したい。

（２）図書館事業

①いつでも気軽に気持ちよく利用できる図書館

図書館を利用する市民にとって一番のニーズは，「利用しやすさ」だと考える。年間平均貸出数（市民一人当たり）が県内トップクラスであること，市民一人当たり図書館資料費が県内ナンバーワンであることは，高く評価できる。利用者アンケートにあるように，「市直営になっても，開館日や開館時間を変えないでほしい。」という市民の要望は「利用しやすさ」を実体験しているからこそ出てくる要望である。市民の生活様式に対応した運営と蔵書の充実を図り，「利用しやすさナンバーワン」の図書館運営を目指してほしい。

②図書館機能の強化とサービスの充実

学校図書館は「本好きの児童生徒」を育成するために重要な役割を持つ。とりわけ小学校の図書館はその第一歩である。新しい本がたくさんあり，読みたい本がたくさ

んあるような魅力的な学校図書館であることが大切である。

蔵書数については文科省の定める学校図書館図書基準は「最低基準」と捉えて，この基準を上回る整備を目標としてほしい。蔵書図書が古くなり子どもたちが手に取ることが少なくなったものは適切に廃棄処理を行い，新刊本が多く並ぶ学校図書館を目指してほしい。「調べ学習などで活用される図鑑や資料図書は１冊数千円するうえ，ほとんどがシリーズもの（１０冊以上）になっている。シリーズでそろえようとすると，児童に人気のある図書に十分な予算をかけられないことになるので，困っている。」「古い本を廃棄しようとすると基準数を下回り充足率が下がってしまうので，一度に多く本は廃棄できない」など，学校現場の声にも耳を傾けていただき，魅力ある学校図書館の運営を図っていただきたい。

【総括】教育委員会の全体評価

守谷市教育員会の施策全般において，年度毎の成果をきめ細かく分析した上で事業の継続性を保ち，時代の変化を先取りした取り組みに多くの予算を掛け，大きな成果を導き出してきている。このことは「新しい時代をたくましく生きぬく人づくり」という守谷市の教育目標の理念に基づいた施策が確実・適切に実行されていることを感じさせられる。

教育委員会の人づくりは守谷市の未来づくりに通じている。適切な予算配分のもと，時代のニーズに応え，児童生徒に確かな学力を保証し，豊かで生きがいのある街づくりのために，今後も守谷市教育委員会の発想力と機動力を十分にいかし，効果的・有効的な事業展開に取り組んでいただきたい。

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価員　髙橋　真美

１　教育委員会

守谷市教育委員会は，教育目標と学校教育プラン等を作成し，子どもたちのために様々な施策を展開している。

教育委員会議の定例会１２回，臨時会１回，協議会１回の開催状況は適切である。今年度は５２件と多くの案件が審議され問題解決に取り組む姿勢が伺える。また定例会ごとに市内小中学校及び教育委員会事務局各課の状況報告を受けており，現場を十分把握し連携が取れているといえる。教育委員会以外の活動状況でも学校訪問,研修会,各種行事と様々な行事に参加している。会議のみでではなく，教員，児童生徒の現場の状況を把握した現場主義の教育委員会を評価する。

教育行政の推進ための市長と教育委員会が地域教育の課題やあるべき姿を共有するための「総合教育会議」の開催と，教育委員長と教育長を一本化した「新教育長」を配置した新体制は５年目を迎える。市長の施政方針である学校教育改革プランは「子育て王国守谷」実現に向けて機動している。地域教育の課題が有効的に機能していると考えられる。「子育て王国守谷」実現するためにも責任体制を明確にすることと機動的に対応が取れる体制を望む。今後の守谷市の教育に大いに期待したい。

２　学校教育・指導室事業

（１）教育環境の整備・充実

学校施設は児童生徒の学習・生活の場であるとともに，防災拠点の役割も果たす施設であるため，安全・安心な施設環境を確保することが必要である。

御所ケ丘中学校屋内運動場改修工事は，２月に工事が修了し翌月の卒業式から使用された。御所ケ丘小学校校舎と大野小学校屋内運動場は令和元年度に改修工事を行う予定である。快適な学校環境を整えるとともに障がいのある児童生徒にも配慮した施設整備に務めていることを評価する。児童生徒の安全，安心な環境を確保するための大規模改修には膨大な経費が掛かるため，補助金等を利用し経費削減に努めて欲しい。また，改築より工事費が安価で，廃棄物や二酸化炭素の排出量が少ない高耐久化改修への計画策定は，今後期待する。

将来，生徒数が更に減少することが予想される中で，空き教室などのスペースは，他の文教施設や高齢者福祉施設などの公共施設との複合化・共用化を図った計画の実施を期待したい。そうすることで老朽化した公共施設などの，改修工事や維持修繕の削減が期待できる。そして学校は，異世代間のコミュニティ活動の拠点施設なると考える。

高度情報化社会に対応した学習環境を整備し，児童生徒の学習意欲や思考力，表現力の向上を図るため，ＩＣＴ教育環境を整備したことで，ＩＣＴ機器を活用する児童生徒のスキルが向上している。また守谷型カリキュラム・マネジメントや校務効率化を図るための支援システムの導入により，１ヶ月ひと月３５時間が削減され教員業務の軽減と効率化につながった。これにより児童生徒と向き合う時間の確保，教育活動

の質の改善に繋がり評価する。初歩的な入力ミスの危険性と情報セキュリティを守るために，教職員のスキルに応じた個別支援も必要であると考える。
通学路の合同点検で見つかった危険箇所の１０か所全にて安全対策が対応されている。市内全小中学校が統一した安全対策を取っていることを評価する。
災害時の危機管理に関しては，保護者への引き渡し訓練も行われ，危機管理体制の確立の点で成果が上がった。学校側は，家族間のルールも把握しておく必要がある。さらに，自然災害の多い我が国における災害のメカニズムを学ぶことが肝要である。自分が住み慣れた街の構造や，その土地ならではの災害文化を知ることが大切である。そのためには，防災をもっと身近なものとして浸透させ，防災教育を受ける機会を設け，児童生徒一人ひとりの危険回避能力を育成することが必要だと考える。
デジタルマップソフトを導入し，登下校時の安全・防犯対策が始まった。個人情報等の対策を十分に考慮した仕組みづくりを望む。
児童生徒の登下校時の事故や事件防止には，警察署・道路関係者・学校関係者・保護者・地域住民の連携した対策を講じることは大変重要である。さらに，人の目の限界と抑止力強化のために，防犯カメラの導入の検討を望む。主要な場所には設置をしているらしいが，通学路に対応しているか調査する必要がある。

（２）学校教育プラン

①ステップアッププラン（確かな学力の育成）

保幼小中高一貫教育の継承・継続・深化・発展を目指した，教育内容や授業に対する指導助言，研究会の開催，教育機関との連携を通して，教職員の指導力向上につながった。保幼小中高の合同授業等を実施することで，異校種から刺激を受け，より学習意欲を高めることができた。守谷型一貫教育は，県議会や沖縄県，島根県等からの視察や問い合わせがあり，先進的な取り組みとして注目を浴び名誉である。これらのことは「きらめきプロジェクト」が定着した成果だと伺える。
ユニバーサルデザイン授業では,「情報を絞り込む・共有化する・見える化」するといったソフト面での取り組みを評価する。ユニバーサルデザインや合理的配慮に研修行い，学校全体で目標意識の共通理解などはもちろんのこと異校種間でも統一する取り組みを望む。
確かな学力の育成については,「茨城県学力診断のためのテスト」の結果,県内トップレベルであり十分に定着してきたと考えられる。一方で，課題となっている学力の個人差については，サタデー学習支援教室個別指導の体制ができ対応していると報告されている。登録人数は８５名と年々増加し「落ち着いて勉強することができた」と回答する児童が７割と，学習環境づくりに効果があったといえる。個人差の問題解決と教員の負担低減につながり，これからも継続してほしい支援である。そのためには，学習支援ティーチャーや社会人ＴＴ，地域ボランティア等の人的環境の充実を図り底上げを望む。
若手職員の授業力向上についてベテラン教員の機能を伝えていく研修を計画的に進めることができたことは，授業力向上，学級経営力向上につながると評価する。

②ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

市内の小中学校及び高校が合同で「Moriya きらめきフォーラム」を開催し，「学校から地域へ広げよう～目に見える変化を起こす～」といった学校と地域が連携を深めるスローガンを策定し，いじめ問題に対する意識の高揚を図った。

大野小学校で行っている「認め・励まし・ほめ・伸ばす」指導の結果，８０．２％の児童が「自分には長所がある」と答えている。子どもは常に先生にほめられたいと思っている。多くの児童生徒の自己有用感を育て，自己肯定感を高めてほしい。

守谷小学校で行った「学校は楽しく通っている」のアンケート結果，９０％の児童が肯定的な回答だった。一方で１０％は否定的回答であった。否定的回答を念頭に置いた学習指導，学級経営を行っていく必要がある。少数意見に目を向けることはいじめなどの問題の早期発見につながる。迅速で組織的な対応を望む。

支援センター相談委員が家庭訪問する「アウトリーチ型支援」を評価する。相談委員が家庭訪問することで，担任が行けない時間にも対応できる有意義な時間活用と担任の負担も軽減されるメリットがある。支援を求めてやってくるのを待つのではなく，こちらから出かけていく訪問型の支援が求められている。仕組みをつくることがゴールになってしまい，定められた手順や過程をしっかりと行うまでいたってないことが多い。設立３年目を迎えた総合教育支援センターは，教育相談・適応指導教室・就学相談の３つの事業が軌道に乗りはじめ，学校と専門機関をつなぐ中核として設立することができた。発達障がい児童生徒をかかえた保護者に対する「ペアレントトレーニング」や配慮が必要な児童生徒に対する「アンガーマネジメント」といった専門的かつ積極的な支援を行った。さらに包括的な機能をするために，相談員のスキルアップ研修会や相談員の増員を評価する。

いじめ認知件数では，前年度合計８５件に対し１４６件，解消件数５６件，継続支援２９件に対し９９件，４７件と増加しているが，些細なことも見逃さなかった結果であると考える。学校と連携しながら不登校児童生徒及び保護者への個別支援の充実を期待する。

③ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

食育指導は，栄養教諭を講師に招いての授業や給食訪問を行った結果，望ましい食習慣の定着が図られている。核家族や共働きの世帯が増えて，簡易な食事をとる傾向が強くなっている。学校での取り組みが家庭に反映ができるか課題である。保護者も参加した食育指導により，学校と家庭との連携した指導を望む。

体力テストの結果は，小中学校ともに昨年より伸びた。中学校に限っては県平均を上回った。それぞれの学校が教育活動の中で運動を取り入れて体力向上を図った結果であると評価する（外遊びの充実・独自の体操やダンス・ロング昼休みの有効利用等)。

高野小学校では，全職員で救命講習（心肺蘇生・ＡＥＤ）を受講し，最新の知識と技術を習得し，安全管理を図った。児童生徒にも，学年に応じて救命講習に関する指導の充実を図ることを期待する。

御所ケ丘小学校で行われた専門家を招いた「親子で対話する命の授業」や「薬物乱用防止教室」は普段経験できないことで他の学校にも浸透してほしい。

部活動においては，教員の働き方改革の点で外部コーチの導入は必要である。外部コーチ活用する際は，外部コーチ・学校・生徒・保護者の指導方針等を共有できる仕組みづくりを行ってほしい。

④ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

中学３学年時の英検３級以上の取得率が５１．１％と半数以上で全国取得率２３．９％を大幅に上回った。平成１３年度から全小中学校にＡＬＴを配置し，「話せる英語」を目指した指導が定着し，授業だけでなく，日常生活においても積極的に活用している結果だと評価する。

教員に対するＩＣＴ機器等の操作方法及び活用方法の研修会を実施したことで，課題であった教員間の差が解決されている。全職員がどの授業でも電子黒板を使用し，分かる授業を展開できたと報告された。課題であった教員の格差も対応できており評価する。

プログラミングを先取りした守谷スマートプログラムの実施に向け実行委員会を４回実施した。教員の研修やサポート，環境設備が欠かせない。ＩＣＴ指導員の増員を望む。

若手教員サポート事業では，若手教員の授業参観や個別面談を通して，授業力や学校経営力のための指導・助言を行った。

担任教職員・学習支援ティーチャー・社会人ＴＴの３者の連携した指導の充実を図り，分かる授業を展開し，学力向上を目指している。配置人数や支援内容を改めて精査した。障害に応じての個々の関わり方や，小１プロブレム・中１ギャップについても研修会を開き，具体的に学ぶ機会を設けたことによって，学校生活への不適応問題解消に繋がったことは評価する。

⑤パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

学校のＨＰが毎日更新され，家庭や地域社会への情報発信を楽しみにしている保護者が多く今後も継続して欲しい。また，メールマガジン配信システムは，不審者情報等の緊急性のある情報提供や連絡などに大変役立っている。

守谷高校生による陸上サポートなどの交流が定着し，活発になってきている。高校生から「役に立ててよかった。陸上競技大会での活躍を期待している」といったコメントがあり，双方にとって良い経験となっている。今後も継続してほしい。

外部や地域人材の活用については，学校単位でスクールサポーターや学校支援ボランティアが組織されているので，人数の開きがある。地域に支えられる学校として，より効果的にスクールサポーターやボランティアを活用するために，市全体での連携したネットワーク作りが必要と考える。さらに，プログラミング教育では，専門的な人材を必要とする。今後，保護者や若い世代の外部人材登録も必要である。

理科教育推進・環境保護活動（ヤマユリ保護活動，グリーンカーテン，野鳥の森少年団活動）を継続し，環境に対する意識を向上させることを望む。特に守谷市は緑地環境に恵まれており，大いに活用してほしい。

３　給食センター事業

「栄養指導資料」各学校に配布し，「給食だより」をホームページに掲載するなど継続して取り組むことができた。食物アレルギーを持つ児童生徒への対応は「給食確認票」の提出により，保護者，学校及び給食センターが情報を共有して対応することができた。放射性物質検査結果を毎日ホームページに掲載して，給食の安全性について情報提供を図ることができた。学校給食を安全・安定して供給するために徹底した衛生管理をして運用した結果食中毒等の事故をおこすことはなかった。

給食費収納率については，９９．９１％（１３校中１０校が１００％）であり，高い収納率である。これは，学校担任だけに任せるのではなく，学校と給食センター・教育委員会事務局が連携して取り組んだことで未納削減につながったと評価する。今後の消費税引上げや食材の値上がり状況で給食費の改定に関してはやむを得ない。保護者の理解と協力が必要である。

新規の調理機器（スチームコンベンションオーブン３台，フードプロセッサー１台）を購入して，調理能力の向上を図った。

給食センターは,築３４年経過し，施設・設備等の老朽化による故障・破損リスクが高くなってきた。さらに食数の増加に対応できなくなると想定されため，改築することはやむを得ないと考える。児童生徒への給食提供に支障がないことを望む。

中学生の職場体験を受け入れたことは，給食を作っている人たちの顔が見えず感謝の念が具体的に沸きにくいといった課題解決につながったと考える。

４　生涯学習・図書館事業

（１）生涯学習事業

①自主的サークル活動の支援と学習機会の提供

公民館運営は，指定管理者を導入し，７年目となる。指定管理者との定期的なミーティングを通して運営の課題解決や利用者の意見や要望の把握に努めている。高齢化による構成員数の減少は課題である。異世代交流や地域ネットワーク作りの場として機能しているため，普段公民館を利用しない世代も取り込めるような企画を考え利用促進して欲しい。

例えば，子ども向けの講座を増やせば，その親世代が公民館に足を運んでもらえる。幼稚園や小中学校でのチラシの配布やＳＮＳの情報発信を望む。また，子ども向けの講座を得意とする公民館に視察に行く等，課題解決を望む。

今後,生涯学習活動への参加促進のため，民間のノウハウを生かして市民サービスの向上に努めるとともに，運営協力員との連携により，地域の特徴を生かした運営に努めて欲しい。

安全・安心に学べる環境の整備については，各公民館，もりや学びの里，東板戸井集会所等の修繕を行った。中央公民館は老朽化に伴い大規模改修工事を令和２年度に向けて行っている。

新成人式典は，会場を常総運動公園総合体育館に変更し，課題となった収容人数等について対応した。守谷駅からの送迎バスの運行や保護者のために観覧席の開放は，参加者の利便性や配慮を図ったことから評価する。

②生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援

学校体育館施設開放事業は，サークル，スポーツ少年団活動の拠点として，スポーツに親しむきっかけづくりと自主的な活動の場を提供していることは評価する。しかし，今や学校体育館は飽和状態である。多くの市民が公平に使用出来るように調整会議をまめにする等の改善が必要である。

青少年健全育成事業「中学生富士山登山」は３２回目の実施となり９０名の参加者で毎年大盛況の恒例事業になっている。中学生の時に自然の厳しさや仲間意識を育むことは,人間形成に役立つ体験であり継続を望む。

ハーフマラソン事業は，全国各地から参加があり高い評価を受けていることは喜ばしい。従来窓口のみだった「市民優先受付」をインターネット受付にしてことにより窓口受付の事務量削減につながった。制限時間を１０分延ばしたことで市民が参加しやすくなった。タイムや順位など競技力を競うだけではなく，健康づくりや仲間づくりを推進につながった。そのため，ハーフ完走率が前回の９３．７％から９５．７％に向上した。課題であるゴミ処理方法については,ボランティアの人員を増やす前に,ランナーのマナーの改善と考える。「ゴミ箱に捨てましょう」という看板や声掛けを地道にしていくしかないと考える。

平成３１年の第７４回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」の開催は，市民一人ひとりが国体に参加する機運を高め市全体で盛り上げたい。そのためにボランティア養成講座を実施や花いっぱい運動を実施し，市民が活躍できる場を提供し協働のまちづくり推進していることを評価する。国体がきっかけとなり，スポーツ及び文化の振興と発展に寄与することを望む。

③親しみを感じる芸術・文化の推進

コンサート等大規模事業支援制度は，生涯学習団体等が市民を対象にしたコンサート等の大きな催し物を開催する場合，年１回に限り，会場の優先予約を許可し使用料も免除する制度である。６団体か活用し，市民への芸術提供の場に寄与したことを評価する。芸術・文化は敷居が高いイメージがあるが，多くの市民が無料で気軽に参加できたことは，芸術・文化活動への関心を高められたと考える。

アーカスプロジェクト事業は１９９４年に開始し２３年が経っているが，市民の認知度が低い。市民団体等との協力や交流によりＰＲする取組を行うと報告があるが，これでは解決できない。何が原因なのか，突き止める必要がある。例えば，中学校や高校の美術部を取り込んで，一般市民や子どもたちに向けたワークショップを開催してはどうだろうか。誰もが参加できるように創意工夫を望む。

④文化財を愛する心の育成

文化財保護事業は，郷土の歴史を知ってもらうために「もりや歴史さんぽ」を開催した。市内の指定文化財を知っている住民の割合が２５．３％と低い状況である。「歴史文化に興味がある人が限られてしまっている状況にある」といった成果動向であるが，歴史に興味がある市民は多いと考えられる。今後，アプローチの仕方や周知方法を変える必要がある。また，市内小学校等に出土品，古民具を貸出したことは郷土愛

を育成するために期待したい。

⑤安心して遊べる場の提供

放課後児童クラブと放課後子ども教室の運営を民間委託したことにより，保育時間延長など保育サービスの向上や子ども達の要望を踏まえたプログラムを柔軟に取り入れることができた。共働き世帯の増加に伴い，利用者も３８％増加している。待機児童ゼロを継続したことは，学校，運営業務委託事業との連携した体制が取れていることで評価する。支援員の増員が必要になっている。人材難にならないための職場の環境づくりが重要である。今後は，民設民営クラブの運営支援体制も取り入れることは避けられないと考える。

児童が学校で問題を起こした等，児童クラブでのようすを校長先生や担任の見回りや報告を望む。共有する体制を整えてほしい。児童クラブは，親のサポートのためであり，子どもをしつける場所ではないことを理解してほしい。

（２）図書館事業

①いつでも気軽に気持ちよく利用できる図書館

指定管理導入により，レファレンス事業が弱いこと，ボランティアの関係性が希薄になったこと，学校図書館と十分な連携が取れなかったことといった理由から今年度から直営に戻すこととなった。職員の館内研修や各種研修会等への参加・実施をより積極的に努めて欲しい。自治体による特色を出した運営を期待する。

②図書館機能の強化とサービスの充実

直営に戻ってからも開館日，開館時間など同等のサービスを期待する。

学校教育改革プランを受け，小中学校，指導室と連携をはかりながら，魅力ある図書館を目指して欲しい。

③施設・設備の安全

建設から２３年が経過し，施設の老朽化が進んでいるため，防災の面からも改修を進めて欲しい。

市役所側の駐車場の利用を推進するためにも，図書館までの導線の整備等を望む。また，返却時の利便性を向上するために駅にブックポスト設置の検討も望む。

【総括】教育委員会の全体評価

守谷市の教育委員会は，教育目標を「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」と立て，この教育目標を具現化するために，学校教育（基礎教育）分野と社会教育（生涯学習）分野に二つの柱が芯となり各取り組みを行っている。「目的・期待する効果・取組・成果・課題・方向性」といった項目で，きめ細かい施策と事業が展開されていることを高く評価する。新しいことをいち早く取り入れ，展開されていることは，開かれた教育委員会だと考える。

守谷の教育方針を子育て世代以外の市民にも知ってほしいと思い，市民大学の講師に教

育長を迎え，講座を開催した。受講生の感想は，「守谷の教育の実態を知ることができた。」「電子黒板やタブレットを活用した教育には時代の流れを感じた。」「学校教育の実態を知りました。」「いろんな意味で進化していることを感じました。」「大変おもしろく自分自身のためになりました。教育も変わったのだと思いました。」「守谷市の教育指導に大変熱心に取り組みしている現状を知ることができました。」等寄せられ満足度が高かった。

極めて恵まれた教育環境整備の中で，県内トップレベルの高い学力を維持していることを評価する。外部の意見で「他市町の生徒が守谷市の生徒をうらやましがっている」といった大変嬉しい声があった。子どもたちは今ある環境を当たり前と思わず，有効に活用して学校生活を送ってほしい。

実施し始めた「学校教育改革プラン」は，施政方針「子育て王国もりや」を実現するために策定しプランであり，今後大いに期待する。

特に守谷型カリキュラム・マネジメントは，全教員共通理解のもと，しっかりと行っていく必要がある。

２０２０年度から開始するプログラミング教育を先取りした守谷スマートスクールプログラムの実施に向けて実行委員会を４回実施した。教員向けのプログラミング研修会は８月に開催されており，年間計画に位置づけられている。いち早い計画・実行に評価する。

プログラミングは，学校のみの教育に終わらせることなく地域を巻き込んだ教育にしてほしい。

教職員の働き方改革に向けた，校務支援システム・部活指導員の配置・タイムカードの導入・留守番電話の設置は，教職員の教材研究の充実と児童生徒と向き合う時間の確保が可能になりおおいに期待する。

週３日の５時間授業になることで，毎日の６時間授業による負担を回避でき，ゆとりある学びができる。児童生徒の帰宅時間の遅れを回避でき，安全・安心の確保につながる。

より複雑になった現代の学校問題を解決する方法の１つとして，これからはスクールロイヤーやいじめ保険等の導入も必要なのかもしれない。

学校教育（基礎教育）分野と社会教育（生涯学習）分野を比較すると，どうしても社会教育（生涯学習）分野が，十分に取り組んでいるとは言い難い。人生１００年時代を見据えたプランを立てて欲しい。

学校は地域のコミュニケーションの場であると考え，市民と共に成長していくことが望ましい。

平成３０年度学校における成果と課題

大井沢小学校	・・・・・・・	１～２ページ
大野小学校	・・・・・・・	３～４ページ
高野小学校	・・・・・・・	５ページ
守谷小学校	・・・・・・・	６ページ
黒内小学校	・・・・・・・	７ページ
御所ケ丘小学校	・・・・・・・	８ページ
郷州小学校	・・・・・・・	９ページ
松前台小学校	・・・・・・・	１０ページ
松ケ丘小学校	・・・・・・・	１１～１２ページ
守谷中学校	・・・・・・・	１３～１４ページ
愛宕中学校	・・・・・・・	１５～１６ページ
御所ケ丘中学校	・・・・・・・	１７～１８ページ
けやき台中学校	・・・・・・・	１９～２０ページ

学校名：大井沢小学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップ プラン（確かな学力の育成）	・主体的に学び，自分の思いや考えを豊かに表現できる児童生徒の育成～「聴く・話す・書く」活動を通して～を研究テーマに，主体的・対話的で深い学びの授業実践をする。 ・ユニバーサルデザイン(以降UDと表記)と合理的配慮による児童の特性に応じた支援を基盤にインクルーシブル教育を実践する。 ・高学年における教科担任制の授業を実践する。（５・６年の社会・理科・音楽・英語・総合的な学習の時間・図工・家庭，３・４年の音楽） ・少人数指導，TTによる個に応じた学力の向上を図る。 ・基礎・基本を定着するためにステップテスト（国語，算数）を実施する。	・研究テーマの達成のため，各学年が発達段階に応じた学年目標を焦点化し，手立てと実態の検証を行い，目標達成を目指し研修を図ることができた。 ・UDの授業による主体的・対話的で深い学びの授業を実践している。児童は自分の考えを表現しようとする意識が高まり，グループ活動において学び合う姿が多く見られるようになった。 ・教科担任制によって，各教員が得意分野を指導することができ，児童一人一人，個に応じた指導を行い，基礎・基本の定着を図ることができた。 ・少人数指導やＴＴによる指導を多くの学年で実施することで学力の向上を図ることができた。	・グループの話合いの場を意図的・計画的に設定し児童が主体的・対話的で深い学びができるよう支援に努める。 ・ＵＤや合理的配慮の研修を行い，学校全体で目的意識の共通理解など統一して取り組んでいく。 ・教科担任制を引き続き行い，内容を充実していく。御所ケ丘中と乗り入れ授業での連携を強め，中学校の教員の専門性を指導に取り入れて行く。 ・「家庭学習の手引き」や「ラインズＥライブラリ」を活用し児童一人一人が自ら進んで家庭学習に取り組めるよう指導の工夫と家庭への啓発に努める。 ・担外の教職員が授業支援にかかわる場面を計画的に設定し，児童一人一人のニーズに合った指導を図る。	・どの教室も前面に掲示物などがなく，誰もが集中して授業に取り組める教室環境はすばらしい。 ・廊下に掲示されている（書写や絵画）作品は，とてもレベルが高い。 ・担任の先生によって宿題や学習の質にバラツキが出ないよう，学年の先生間で連携していってほしい。 ・ふれあいコンサートでは，どの学年も音楽の時間などに練習した成果を発揮し，すばらしい歌声を披露することができ感動した。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）	・道徳 ①　授業参観で，年１回以上の道徳の授業を行い，保護者に公開する。特に人権週間に合わせた授業を実践する。 ②　「考え，議論する」道徳の授業を展開するとともに，学習状況や児童の成長を把握するための評価の工夫を図る。 ・人権 ①　児童が主体となった人権集会（人権について知るための寸劇，友達をテーマにした大井沢川柳　等）を行う。 ②　学年を超えた交流を意識した取組（大井沢の虹，昼休みのレクリエーション　等）を行う。	・校内研修を通して，指導方法の具体例や評価の方向性について確認することができた。また，御所中学区で計画した小中連携の取組を１学年，５学年で実践することができた。特に評価については，ブロック毎にファイルやノートを活用することができた。 ・運営委員を中心とした計画委員会を毎週月曜日に行い，児童が主体となった活動を積み重ねた結果，学校に活気が出て，児童の表情も良くなった。 ・災害時の募金活動で被災地の状況をポスターにしたり，大井沢川柳の選定をしたりと児童の自主的な活動が生きた。	・「考え，議論する道徳」の実現に向けて，校内研修の実施や個人での研鑽を積み，道徳科の授業づくりのための教師の指導力を高めていく。 ・道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子をとらえるために，具体的な評価についての研修を継続する。 ・児童が主体となった活動が軌道に乗ってきたところなので，今後も継続，発展させていくことができるようにする。 ・低学年から行事などの実行委員を決め，自分たちの活動を自分たちで運営していくという意識を成長段階に応じて高めていくことができるようにする。	・授業参観で道徳の授業を実施しているので，様子がよくわかってよい。 ・日々成長しており，いろんな体験をし，学びを得ていると感じている。 ・毎朝見送りをしているが，挨拶が返ってこないことがあり残念である。 ・行事が縮小されてしまうのはとても残念である。仲間同士で達成感が得られる良い経験になるので続けてほしい。
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）	・食育や健康教育の推進。 ①　養護教諭，外部機関と連携した食育や命の教育，薬物乱用防止教育の実施 ②　立沢里山での稲作体験 ③　安全・防犯教育の充実と危機回避能力の育成 ・体力向上のための取組や行事の実施。 ①　始業前走の実施。（４～６年） ②　ロング昼休みの設定と校庭でのクラス遊びを推奨 ③　週２回の業間運動の実施。（持久走，縄跳び） ④　守谷高校生徒による陸上競技指導	・外部機関やGT，養護教諭と連携した授業を行うことで児童が関心をもち，日常的に実施しようとする意識を高めることができた。家庭での調査や記録を取り入れることで保護者への啓発もできた。 ・前年度の反省を基に，行事や各活動の見直しを図った。運動量を確保し，効果的な練習方法を取り入れることで体力の向上を図ることができた。体力テストのＡ＋Ｂの割合は，学校全体から見た前年度との変化は微増だった。学年ごとに見ると，数値が上昇している学年が多かった。	・食育，保健指導を，多くの保護者が参観できるように公開方法を工夫し，学校と家庭が連携して指導する。給食の時間を活用した日常的，継続的な指導が必要である。 ・体育の指導力の向上が課題である。 ①　運動量の確保，学年体育とクラス体育の意義と区別 ②　指導方法の研修 ③　始業前走，業間運動，ロング昼休みの一層の活用と充実	・外部講師を取り入れた授業は資料も豊富で参考になる点が多い。多くの保護者に出席してほしい。 ・体育の行事は児童も意欲的に取り組んでいる。家庭内での会話にのぼったり，練習の際に励ましの声掛けを行ったりすることで引き続きコミュニケーションを図っていってほしい。
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	・積極的に英語を使いコミュニケーションを図る場の設定や活動を工夫する。 ①　ALTと児童の対話的活動を取り入れた授業づくり。 ②　担任が積極的に英語を使い活動する授業づくり。 ③　ALTと児童の交流を目的とした掲示や特別活動。 ・ICTを利活用した授業づくり。 ①　電子黒板・タブレットを活用したUD視点による授業づくり。 ②　テレビ会議システムを活かした他校との交流授業の実施。	・グランドデザインアンケートにおいて，今年度は94%の児童が，「英語活動で積極的に話をした。」と回答した。 ・ALTと連携しながら音声に慣れ親しむ授業展開ができた。 ・全職員がどの授業でも電子黒板を使用し，分かる授業を展開できた。話合い活動において，タブレット型コンピュータの効果的な活用により，児童の情報活用の実践力を高めることができた。 ・テレビ会議システムを活用し，多くの学年で学区内外の小学校と交流授業をもつことができた。	・簡単なSmall Talkを全職員が授業に取り入れられるようにし，ALTと児童だけではなく，HRTと児童，児童同士でも英語でコミュニケーションを図る活動を全学年で取り入れる。 ・今後も授業においては，ICTを多く活用できるように職員間で活用事例の紹介などの研修を行っていく。 ・タブレットでは，家庭サービスも始まったので来年度は学校内外で利活用できるように呼び掛けていきたい。 ・プログラミング教育の実施について，重点化し実践したい。	・１年生から英語の授業を外国の先生と楽しそうに行っていてすごい。 ・クラス全員が，１人１台ずつタブレットを使って授業できるのは恵まれている。また，子供たちが使いこなせていることがすごい。 ・守谷イングリッシュフォーラムでは，自然な発音やジェスチャーもあり堂々とした発表だったと称賛された。
Ⅴ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	・守谷市保幼小中高一貫教育を推進する。 ①　「学びのプラン」をもとに交流授業を実践する。 ②　保育園・幼稚園，御所ケ丘小・松前台小・御所ケ丘中・守谷高校との交流を授業や行事等を通して進める。 ・保護者との連携と地域の人的資源を活用する。 ①　学校行事，PTA活動等での保護者との連携。 ②　父親の会による環境整備。	・小小での TV 会議システムを使った交流授業（３年社会・５年総合）を行い，一貫教育を推進できた。夏休みの一貫教育研修では，本校職員と御所ケ丘中学校区の職員で次年度を意識した交流授業の検討をする研修会を行った。 ・守谷高校の生徒による陸上練習のサポートなど守谷高校との交流が定着し，活発になってきている。 ・「運動会」「ワイワイおおいさわ」「PTA整備部作業」「児童の	・本年度の取組をもとに，次年度も計画的にねらいをもって交流授業を進める。 ・１・２年生が「秋祭り」への招待を近隣の幼稚園にして140名と交流した。さらに，新入学生説明会において，入学予定児を招待し，１・２年生と交流するなど，安心して入学できるようさらに連携を強化していく。 ・北守谷祭り及び北守谷公民館祭りに児童が参加した。今後も地	・役に立ててよかった。陸上競技会での活躍を期待している。（守谷高校生徒） ・秋祭りや新入学説明会で，お兄さんやお姉さんにおもちゃづくりを教えてもらったり一緒に遊んだりしてもらえ楽しかった。手づくりおもちゃももらえて嬉しかった。（園児の感想より）

	③　大井沢ヒューマンライブラリー（OHL），里山の会による授業補助やクラブ活動補助，講演会の実施。 ・教育活動に関する情報を学校便りやホームページ等で発信する。	遊具の整備」では保護者と連携して活動ができた。校庭や校舎内の環境整備が進んだ。生活科，総合，学校行事，クラブ活動等での授業補助，「読み聞かせ」で成果を上げた。 ・毎日HPを更新し，教育活動に関する情報発信ができた。	域との交流を進め，地域と共にある学校づくりに努める。 ・学校の活動を保護者や地域の方に周知できるように児童の様子だけでなく，職員の活動についても積極的にHPで発信する。	・学年便りや学級通信など，子供の活動の様子や他の子の様子が分かり，話題にもできるのでありがたい。 ・先生方はたいへんかもしれないが，HPも楽しみにしている。

学校名：守谷市立大野小学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップブラン（確かな学力の育成）	（1）「主体的・対話的・探究的な学び」のある授業づくり ①　思考力・判断力・表現力を育む研究授業の実施。 ②　「守中区授業メソッド」の推進 （2）小中の系統性を意識した授業の展開により，学習習慣の定着と基礎基本的な知識や技能の定着を図る。 ・「学びのプラン」による話し方スキルの定着 （3）家庭学習の習慣の定着と充実を図る。 ・家庭との連携における「家庭学習のてびき」の活用	（1）「伝え合う活動」を各教科で授業の中に取り入れてきた結果，８０．２%の児童が「自分の意見を友達に伝えることができる」と答えている。（昨年度８５%） （2）学びのプランによる学習習慣の定着と基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指した結果，８０．３%の児童が「授業は楽しい」と答えている。 （3）「家庭学習のてびき」を活用し，家庭学習の定着を図ってきた。８４%の児童が「毎日家庭学習をがんばっている」と答えた。（昨年度８８%）	（1）思考力・判断力・表現力をさらに高めていくために，今年度は全教科で課題解決学習を充実させてきた。更に充実した研修を行うために焦点を絞った研修を行っていく。 （2）「伝え合い」の手法による学習スタイルで「話す力」はついてきた。今後は考えをまとめて書く力を伸ばす学習についても研究を進めていく。 （3）家庭学習を視野に入れた学習計画を作成し，一人一人の学習支援に努める。学習習慣の定着と基礎・基本の習得については，学校の教育活動についての情報発信に努め，家庭学習の重要性についてもご理解いただき，連携を図る。そして，学校と保護者が同一歩調で学力向上に臨めるようにしていく。	（1）グループの中では積極的に意見を言っているが，発表の声がまだまだ小さい。堂々と発言できるよう応援したい。 （2）放課後子供総合プランと連携して放課後の学習を充実してみてはどうだろうか。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）	（1）基本的な生活習慣を定着させ，人間関係の基盤をつくる ①　「みそあじ運動」と「守谷しぐさ」の指導の推進 （2）自己肯定感を育成する。 ①　体験的な道徳授業の充実と中学校区での道徳教育の推進 （3）特別支援教育や共感的な生徒指導体制の充実を図る。 ①　一人一人の学びを尊重する授業の実践 ②　「認め，励まし，ほめ，伸ばす」共感的生徒指導	（1）学校生活での約束を見直し，きめ細やかな指導体制ができつつあり，昨年度より児童間のトラブルが減り，落ち着いた活動が見られた。９５．５%の児童が「学校が楽しい」と答え，昨年度より７%上がった。 （2）道徳授業の充実により，自己肯定感を育成した結果，９０%の児童が「人の役に立ちたい」と答えている。 （3）「認め，励まし，ほめ，伸ばす」指導を行ってきた結果，８０．２%の児童が「自分に長所がある」と答えている。	（1）廊下の歩行の改善など企画委員会の取組など児童発信の活動が功を奏した。いつでも誰にでも元気なあいさつができるように意識を高めていきたい。 （2）児童同士の人権意識をさらに高めるために，集会活動や道徳授業の充実を図っていく。 （3）一人一人を大切にした特別支援教育・生徒指導体制をさらに強化し，特別活動等での活動の場を設定することで，児童全員が自己肯定感をもてるようにする。	（1）学校が楽しいとと答えた児童が増えていることは素晴らしい。 （2）子どもはいつでもほめてもらいたいと思っている。常に機会を捉えてほめることをこれからも続けてほしい。
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）	（1）危機回避能力を育成し，命を守る力を育てる。 ①　全職員による交通安全，生活安全指導の継続 ②　外部連携による交通安全教室 ③　地域人材を活用した防災教育（小中合同避難訓練の実施） （2）体育的行事や授業の充実を図り，体力の向上を図る。 ①　外遊びの励行と学習カードを活用した授業の工夫 ②　「投げる」運動や握力を高める運動の推進 （3）食や健康に関する教育を推進する。 ①　毎日の昼食後の歯磨きタイムの実施 ②　養護教諭とのＴＴによる，保健指導の実施。	（1）避難訓練・安全指導の充実により，９１%の児童が「交通ルールを守って，登下校できた。」また，８７%の児童が「安全に気を付けて生活できた。」と答えている。 （2）目標値（６０%以上）に及ばなかったが，体力テストＡ＋Ｂの人数５４．１%になり，昨年度より７%上がっている。曜日ごとに外遊びに投運動を取り入れた効果があった。 （3）食や健康に関する教育の推進をしてきたが，「お子さんは早寝・早起き・朝ご飯の習慣が出来ている」と答えた保護者は８３．１%で，昨年度よりも１２%下がった。	（1）下校指導を全職員で行うことにより意識が高まった。今後は，地域と連携した安全指導をより充実させ，意識を高めていく必要がある。 （2）全体的な体力は上がったが，二極化が見られてきた。体力に差がある。外遊びの励行や体育授業の充実を図り，体力の向上を図っていく必要がある。 （3）食や健康に関する教育は，養護教諭とのＴＴにより健康に関する指導が充実してきた。今後は，保護者の協力を得て基本的生活習慣の確立に向けて，来年度以降も継続して続けていきたい。	（1）安全に通学できるように，見守りボランティアの人たちが頑張ってくれている。今後は下校時も含めて，体制を整えて継続していきたい。 （2）体力の向上のためにも外遊びを充実させてほしい。 （3）生活習慣が去年より下がっていることは悲しい。地域全体で声を上げていきたい。
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	（1）情報手段の基本的なスキルとモラルの定着を図る。 ・電子黒板，タブレットＰＣを活用した授業の充実 （2）外国語（英語）活動を通して，言語や文化について体験的な理解を深め，コミュニケーション能力を養う。 ・ＡＬＴとのＴＴによる英語活動の充実 （3）キャリア教育を推進し，自分の良さを生かして集団に貢献しようとする意識を高める。 ①体験活動や地域人材・保護者を活用した学習の推進 ②係・当番活動・委員会活動・たて割り班活動の充実	（1）電子黒板やタブレットＰＣ等についての研修を行ったり，ＩＣＴ支援員と連携し，学習の中でタブレットを使う機会を多く設けたりしたことで情報を収集したりレポートをまとめたりする力がついてきた。 （2）ＡＬＴと連携し，体験的な学習を多く取り入れ，８４．１%の児童が外国語（英語）を楽しいと感じている。 （3）人の役に立ちたいと考える児童が９０%という結果から，自分の良さを生かして集団に貢献しようとする児童が増えてきている。	（1）タブレットＰＣは，昨年度に比べ研修や支援員の活用により充実しつつある。今後更に活用できる教材の範囲を広げて有効に活用していく。 （2）担任とＡＬＴとの連携を密にして，児童の実態と授業のめあてをしっかりとらえた授業の展開をしていく。 （3）行事や係活動・委員会活動を更に充実させ，自分の良さを生かす場を更に増やしていく必要がある。	（1）どの先生も電子黒板やタブレットを積極的に使っていてよい。 （2）英語の授業を見たが，みんなが楽しそうに活動している。小学校からやる必要性が分かった。 （3）自主的な委員会活動の様子を聞いて，うれしく感じた。

Ⅴ　パートナーシッププラン（開けれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	（1）　学校からの情報発信の充実に努める。 ・ホームページの更新　・学校便りの地域への回覧 （2）保護者・地域の教育力を学校教育力に生かす。 ①　米づくり学習（通年）・大野文庫（月２回） ②　登下校時の交通安全指導（授業日） （3）安心して相談できる教育相談体制づくりに努める。 ①　教育相談日の周知や保護者面談の実施 ②　日常的な情報交換（連絡帳・学級通信） （4）保幼小中高一貫教育の推進 ①　保幼小，小小，小中の日常的な交流活動の実施	（1）ホームページのほぼ毎日の更新により，９３%の保護者が「教育活動をわかりやすく伝えている」と答えている。さらに地域全戸に便りを回覧したことは非常に好評であった。 （2）地域の教育力を生かし，米づくり体験を年間を通して行った。また，９６．６%の保護者が「学校は，地域の教育力を生かしている。」と答えている。 （3）様々な相談体制の充実により，「学校が相談しやすい」と答えた保護者が９１．２%であった。（昨年度８４%） （4）小小連携・小中連携の日常化を図るためにも，授業においての交流を深めた。	（1）地域性を考え，ホームページの更新だけでなく，回覧板での情報発信を行った。地域の幼稚園や老人施設など情報提供の場を具体的な施策を提示しながらさらに広げていく。 （2）地域の教育力の活用では，米づくり体験のみではなく，今後さらに教科で活用すべく体制を整えていく。 （3）子供の成長を共有していくために，共に育てるという意識を保護者が持ち始めている。これを機にさらなる関係づくりを推進していく。 （4）一貫教育を推進するためにも，小小，小中の授業においての連携をさらに頻度を上げて深めていく。	（1）ホームページを楽しみにしている。今後も続けてほしい。大野は小学校を中心として地域づくりを目指してい期待と思っています。 （2）米づくりについては，今後も地域の特色を生かして継続してほしい。 （3）保護者との日々の連絡がとても丁寧だと聞いている。ぜひ子ども達のために，学校と保護者が一体となってほしい。

学校名：守谷市立高野小学校

目　標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見（30年度末）
Ⅰ　ステップアッププラン （確かな学力の育成）	（1）「学力向上」のための魅力ある授業づくりを推進する ①　校内研修テーマを，算数科「授業のねらいにせまるための考える視点を明確にした展開の工夫」とし授業研究に取り組む。 ②　低学年では気付き，中・高学年では見方や考え方を豊かにし，表現する力を育成することで，「主体的・対話的で深い学び」を目指した学力の向上を図る。	（1）学校生活アンケート（授業が分かる）では95%。電子黒板・タブレット等のICT機器の有効活用やアクティブラーニングの視点に立った授業展開による結果が表れた。 （2）算数科の研究授業，指導案の協働立案の実践を通して授業改善が図られた。 （3）けやき台中・松ケ丘小とのＴＶ会議システムを使った交流授業を実施し，教員の授業力向上につながった。 （4）県学力診断のためのテストの結果は，全体的には，県平均を上回っている。	（1）校内研修において，小中一貫の視点に立ち，「主体的・対話的で深い学び」の実現を継続して目指していく。 （2）算数科では，中位・平均以下の児童の底上げが課題である。少人数指導による授業や，裁量の時間を使った補習を通して，個に応じた指導体制の工夫改善を図る。 （3）自主的に家庭学習へ取り組むことのできない児童に対する指導の充実を図る。	・タブレット等が活用され，情報手段に慣れ親しんでいる様子が分かった。 ｅライブラリの活用も図ってほしい。 ・「主体的・対話的で深い学び」を目指しさらに学力の向上を図ってほしい。 特に，深い学びを実現するために，各教科の「見方・考え方」を十分に働かせるような学習を進めてほしい。 ・他と比較するのではなく，その子の努力をほめる指導を継続してほしい。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン （豊かな心を育む教育の推進）	（1）人間関係形成力を育成する。 ①　児童一人ひとりに温かく寄り添う指導に徹し，人間関係形成力を育成する。 ・けやき台中学校区３校で交流し，思いやりの気持ちを育む心の教育を推進する。 ②　道徳教育の充実と特別活動の活性化を図り，心豊かで活力ある児童を育てる。 ・道徳教育の充実を通して，お互いを認め合える学級づくりを推進する。 ・特別活動の充実を通して，役に立つという意識と共同体感覚を醸成する。 （ハートいっぱい集会，ハートいっぱい宣言）	（1）特別活動でけやき台中・松ケ丘小と連携し，「ハートいっぱい運動」について児童の思いの交流を図った。子供たちの思いやりについての考えの共有化が図られた。 （2）いじめに関するアンケートを毎月実施し，未然防止，早期対応に努めた。朝自習を活用した「ハートいっぱいタイム」の定期的・継続的な実践を通して，いじめ防止の意　識を高めることができた。 （3）学校生活アンケート（係活動等で役に立つ）では，81%が肯定的な回答。	（1）「元気なあいさつ」「元気な返事」95%（アンケートでは92%）を目指し，各学級学年で指導の重点化を図る。 （2）いじめに関するアンケート「ハートいっぱいアンケート」の回答に対する対応について，職員間の共通理解を図　り，未然防止・早期解決に努めていく。 （3）「守谷しぐさ」については，各クラスの掲示コーナーの有効活用を図っていく。	・登校時など気持ちのよいあいさつをしてくれる子が多い。 ・いじめについては，小さな変化やサインを見逃さず，学校　全体で適切に対応してほしい。いじめ対策委員会やアンケート結果の周知は，保護者からの信頼にもつながる。 ・これからも，地域との連携を図りながら人間性や社会性を育てていき，「役に立つ」という意識をもつとともに，自身の成長や変容を実感できる活動を推進してほしい。
Ⅲ　ヘルス&フィジカルプラン （健康と体力を育む教育の推進）	（1）体育授業を充実し，体力の向上を図る。 ①　体力テスト，持久走タイム，なわとびタイム等の体育的活動で個人カードを活用する。 ※柔軟性（長座体前屈），走力（５０ｍ走） （2）学校内外における安全指導，保健指導を徹底する。 ①　交通安全教室，避難訓練，防犯教室，歯磨き指導等 （3）食に関する指導を通して望ましい食習慣を形成する。 ①　エピペン研修，食物アレルギー給食確認票の確認	（1）体力の向上を図ることができた。 ①　体力テストA+Bの割合は，本校児童の弱点の分析と対策の強化により，全校平均で61.2%（+4.2%）となった。 ②　６年間使用の学習カードの活用で，自分自身の伸びを確認でき，意欲的に取り組むことができた。 （2）８月に茨城ＡＣＬＳ協会員６名を講師として，全職員で救命講習（心肺蘇生・ＡＥＤ）を受講し，最新の知識と技術を習得し，安全管理の充実を図った。	（1）握力と走力について県平均値と比べると，まだ記録の低い学年が多い。年間を通じて運動時間を確保することを継続し，子供が体を動かす機会を設けていく。また，全身を使って運動する感覚を学ばせ，走跳投につながる基本的動作の習得に役立てていく。 （2）感染症や食物アレルギー，心臓疾患等については職員誰もが適切な対応をとれるよう研修を実施していく。学校生活管理指導表や個別支援プランを活用し，個に応じた対応をしていく。	・体力テストの結果の活用と対応策の確立を図り，Ａ＋Ｂの割合を県の目標である60%，さらに学校の目標である65%の達成を目指してほしい。 ・危険予測・危険回避能力向上のために指導の徹底を図ってほしい。 ・学年に応じてＡＥＤや心肺蘇生法に関する指導の充実を図ってほしい。
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン （新しい時代に対応した教育の推進）	（1）ＡＬＴとの連携により，外国語活動の充実を図る。 ①　外国語・英語活動，English Day，英語による昼放送全校集会でのＡＬＴの司会 （2）情報活用能力の育成と情報モラル教育の充実を図る。 ①　電子黒板（全クラス），タブレット端末（140台） ②　ＩＣＴ支援員の活用研修	（1）外国語（英語）活動の充実 ①　保護者アンケート「外国語活動を楽しみにしている。」92%が肯定的な回答。 ②　児童は，授業以外でもALTとのふれ合い，英語を身近に感じ，英語の授業に抵抗なく参加できている。授業以外の場面でも，ALTと積極的にコミュニケーションをとる児童の姿が見られる。 （2）プログラミングソフトscratchを使った授業研究を行い学力向上のためのＩＣＴ活用の推進を図った。	（1）子供たちが英語に親しむ機会がさらに多くなるように本校独自の取り組みである「イングリッシュデー」の活動　内容やイベントについて検討していく。 （2）授業の中での電子黒板の効果的な活用方法について，さらに研修を深め，職員の活用スキルを高めていく。 ①　スカイメニュー・タブレットの研修 ②　ＴＶ会議システムの活用，一貫校との合同研修会	・英語に親しむ機会をさらに増やすとともに中学校区の連携を充実し中学校英語への円滑な接続を図ってほしい。 ・ＩＣＴ支援員の支援の仕方がすばらしい。先生たちの指導力の向上につながっている。 ・引き続き家庭と連携して，情報モラル教育の推進を図ってほしい。
Ⅴ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）	（1）きらめきプロジェクトの継承 継続 深化 発展を図る。 ①　学びのプランの定着，けやき台中学校区の連携協力 （2）児童の活動状況を積極的に発信する。 ①　ＨＰ，学校だより，行事の公開，自由参観日 （3）外部教育力の活用を図る。（社会とのつながり） ①　安全…保護者・地域住民による登下校時の見守り 消防団協力による防災訓練（消火，救命講習） ②　学習…米作り，ザリガニ釣り，防災教育，キャリア教育，こいのぼりまつり，特別養護老人ホーム 七福神	（1）小中連携交流事業として，合同あいさつ運動，吹奏楽部出前演奏会（6月），合同引き渡し訓練（9月），部活動体験（11・12月），中学校交流教室（1月）の実施。 （2）1年昔あそびには地域のお年寄り，2年まち探検・ザリガニつりには保護者・高野環境保全活動組織，3年市内探検には高野町づくりの会，4年福祉施設との交流では七福神職員，5年米作りには高野環境保全活動組織，6年いろいろな職業を知ろうには，14名のさまざまな職種の皆さんの協力により実施。	（1）きらめきプロジェクトについては，けやき台中学校区部会での検討結果をもとに，小中・小小連携を推進していく。職員間の交流では，乗り入れ授業や小中教員合同の授業づくりをさらに積極的に進めていく。 （2）高野小人材バンクの整備を進め，地域の人材を活用した体験活動をさらに充実させていく。 （3）守谷市まちづくり協議会で作成していただいた「見守りマップ」を活用し，交通安全や防犯・防災など安全面の充実を図る。	・中学校区で，共通の重点目標や研究テーマを決めて連携を図っているところがよい。 ・小中一貫教育は学校と地域をつなぐことにもつながる。特に，外国語教育や図書館教育でさらにつながりを重視していってほしい。 ・行事の目的をしっかりと理解させる指導を大事にしてほしい。

学校名：守谷市立守谷小学校

H30 年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ ステップアッププラン（確かな学力の育成）	◯教師の確かな指導力，授業力の向上 ◯表現力を育てる言語活動の充実 ◯名文暗唱の実施 ◯一斉指導と少人数指導の連携の効果的な活用 ◯児童の実態の把握と適切な対応 ◯ユニバーサルデザイン（ＵＤ）の授業展開 ◯国語辞書を活用した授業の実践 ■目標値：授業が分かる・楽しい 90％	・県学力診断テストにおいて，全学年全教科県平均を上回った。 ・児童からの要望で，英語版名文暗唱を開始した。 ・保護者アンケートから，「わかりやすい学習の工夫」，「子供が意欲的に学習」の項目で，90％以上が肯定的な回答をしている。児童アンケートでも，「学習がわかりやすい」に，90％ 以上の児童が肯定的に回答している。 ・「学び合い」による主体的で対話的な学習が定着した。 ・若手教員の授業力向上について，ベテラン教員の技能を伝えていく研修を計画的に進めることができた。	・「深い学び」について，研修を重ねていく必要がある。 ・個に応じた学習の一層の充実が必要である。 ・ICT の効果的な活用について，更に研修を深めていきたい。 ・国語辞典を活用した授業を日常化していく。 ・守谷市「学校教育改善プラン」の実施に向けて，全職員共通理解のもと，カリキュラムマネジメントをしっかりと行っていく必要がある。	・積極的に自分の意見を述べる子供が多く見られる。 ・中学校でも「学び合い」の学習スタイルを継続していくことができている。
Ⅱ ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）	◯バランスのとれたたくましい児童の育成 ◯伝統文化を誇りにできる児童の育成 ◯明るい元気な挨拶の徹底 ◯道徳授業の充実と豊かな人間性の育成 ◯望ましい集団をつくる学年・学級経営の充実 ◯相手の気持ちを考える児童の育成 ◯読書の推奨 ◯ＵＤを意識した学年学級経営 ■目標値：挨拶がよくできる 90％	・「元気な挨拶が身に付いている。」の項目では，80％の児童が肯定的に回答している。学校内では元気な挨拶ができるようになってきている。 ・児童アンケートから，「いじめは絶対にいけない」98％，「どんな人でもなかよく」91％が肯定的な回答をしている。 ・保護者アンケートから，「学校は，いじめのない望ましい人間関係づくりをしている」について，87％が肯定的に回答している。 ・「学校に楽しく通っている。」について，児童の 90％が肯定的に回答している。	・場に応じた適切な挨拶ができるように指導していきたい。 ・道徳推進教師を中心に更に研修を行っていきたい。 ・「学校に楽しく通っている。」について，否定的な回答をしている児童が 10％いることを念頭に置いた学習指導，学級経営を行っていく必要がある。 ・学校と中央図書館の連携を深め，読書活動を推進していきたい。	・学校の近くや校舎内では元気な挨拶をしてくれる。 ・外でも声掛けをしてくれる子供が増えたように感じる。 ・「学校に楽しく通っている」に否定的な回答をしている児童の学年分布はどうなっているのか。また，その内容を把握できるアンケートにしていってほしい。
Ⅲ ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）	◯学校教育活動全体を通した体育活動と体力向上 ◯「自分の命は自分で守る」実践力の育成 ◯自然体験等を通した豊かな感受性の育成 ◯基本的な生活習慣の確立 ◯食育の充実 ◯集団遊びの奨励と体育授業の運動量の確保 ■目標値：体力テスト Ａ＋Ｂ＝60％以上	・体力テスト「Ａ＋Ｂ」は 58％にとどまった。 ・「交通安全に気を付けている。」，「健康や安全な生活を心掛けている。」について，90％以上の児童が肯定的に答えている。	・児童の体力向上に向けて，体育授業の改善など，全職員で取り組む必要がある。 ・「守谷野鳥の道」を活用した自然体験などを取り入れた，理科や総合的な学習の時間を設定していく。 ・登下校時の事故防止のために，整然とした登下校ができるように指導する。	・交通安全や不審者対策のために地域での見守り活動を続けていきたい。
Ⅳ ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	◯外国語教育の質の向上 ◯English Special Week の実施（２月最終週） ◯情報教育の推進 ◯ICT を活用した積極的な授業推進 ◯自然体験等を通しての環境への関心の育成 ◯国際理解教育の充実と英語力の向上 ■目標値：体験を取り入れた研究授業公開を全クラスで実施	・TV 会議を活用した交流授業やプログラミング学習の授業を行った。 ・英語検定の準会場として，２回検定試験を実施した。 ・英語辞書を活用した授業を実施した。 ・保護者アンケート，児童アンケートでも「英語の学習を楽しみにしている」が 89％以上である。 ・他県からの視察や学校訪問以外にも多くの研究授業公開を行うことができた。	・高学年の英語科の授業時数増加向けたカリキュラム編成を行う。 ・ALT が付かない授業が発生することを踏まえて，教委の指導力の向上に向けた研修を行う。 ・守谷スマートスクールプログラムの実施に向けて，プログラミング教育を含めた教科や総合的な学習の時間の指導計画を立案する。	・ライオンズクラブ杯インタラクティブフォーラムの代表児童は帰国子女ではなく，小学校の英語授業で身に付けた英語力であれだけできるのはすごい。 ・会話ができる指導をお願いしたい。 ・プログラミングの学習では，保護者の専門家を活用してほしい。
Ⅴ パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	◯生活習慣確立のための保幼小連携 ◯地域・保護者との連携，ボランティア（MVP） ◯教育活動の積極的な情報発信 ◯保護者・地域に向けた積極的な学校公開 ◯中学校区での実効性のある避難方法の確立 ■目標値：見守りボランティア 200 名登録，登下校時の事故０件	・学校だよりや学校ホームページを活用して情報発信を行ってきた。（保護者アンケート約 90％が肯定的) ・一貫教育の推進について，保護者アンケートの 86％が肯定的な回答をしている。 ・保幼小連携では，小学校教員が保幼で授業実践をしたり，幼稚園教諭が小学校で授業をしたりするなど交流を深めた。 ・見守りボランティア（MVP）の登録者が 202 名となり，授業サポートなどでも活躍していただいた。	・中学校区での一貫教育は，イベント的な活動から教育課程の一貫性をより強く目指していく。 ・保護者や地域のボランティアを活用した授業を，計画的に実施する。 ・中学校区での，避難所設営訓練などを計画する。	・学校，ＰＴＡ，地域の連携がうまくいくようになってきている。 ・虐待等の対応は適切に行ってほしい。

学校名：守谷市立黒内小学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップププラン（確かな学力の育成）	（１）学力向上 ◆学級経営は授業づくりから，授業づくりは学級づくりから。 組織目標１：子供が意欲的に課題解決に向かい，学びを広め，深められる創意ある授業づくり ①　しっかり聴かせる。（耳で，眼で，心で） ②　子供にとって学びがいのある，魅力ある指導展開 ③　指導計画の工夫 ④　授業時間以外での基礎基本の補充 ⑤　校内研修の推進	・すべての学年で協働体制を構築し，授業研究を１回以上行うことができた。授業後の協議も充実していた。 ・「自ら考え，伝え合いから深く学ぶ児童の育成」をテーマに，研究主任を中心に校内研修をすすめた。また，外部講師を招聘しての研修を実施することができた。児童の話し合い活動を取り入れた展開を意識した授業が多くなってきている（「話し合い活動」保護者アンケート92%が肯定的）。 ・授業改善の取り組みが成果を上げ，学力の向上につながってきている。さらなる学力向上が課題である。	・知識・技能の定着のために，ＩＣＴ機器（電子黒板やタブレット端末）や思考ツールを有効的に活用する。（課題の視覚化・焦点化，個に応じた反復練習） ・各教科において，根拠や理由を示しながら，自分の考えを伝え合ったり，書いたりする場面を設定し，「対話的で深い学び」につなげる。 ・学力診断テストの結果を設問ごとに分析し，学年ごとに課題を明らかにする。各教科において，課題となる項目の復習を必ず実施する。	・学力に関しては，全学年，概ね目標を達成しているようだが，目標値に達しない児童に対しては，個別指導や補充学習を充実させて欲しい。 ・家庭でも，家庭学習を充実させていきたい。 ・基礎学力を付けるのと同時に，その活用能力も身に付けさせて欲しい。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）	（２）思いやりの心の育成 ◆授業づくりは学級づくりから，学級経営は授業づくりから。 組織目標２：認め合い，支え合い，高め合う学級づくり ①　学級力を高める。 ②　道徳の時間の充実 ③　自分を生かす活動の充実 ④　読書活動の充実	・保護者アンケートでは，「自分の学級が好き。」(95%肯定的)，「あいさつ運動に全校で取り組む。」(97%肯定的)，「思いやりを育てる活動に取り組む。」(90%肯定的)，「読書活動の充実を図る。」(94%肯定的)，「進んで掃除に取り組む児童の育成」（91%肯定的）と高い評価であった。 ・「あいさつ日本一運動」を掲げ，「あいさつ運動（年間）」，「募金活動」など，児童の活動を前面に出して取り組んだ。 ・「黙働清掃」の推進を図り，「黙働強化週間」を設定するなどして，心を育てる清掃活動に取り組んだ。 ・委員会活動の活動内容が充実した。	・あいさつ運動や黙働清掃では，まだ不十分なところが見られるので，児童の主体的な活動をしかけ，意識を高めていきたい。 ・生活アンケートを毎月実施や教育相談を定期的に実施し，児童間の嫌がらせやトラブルなど，実態を把握するとともに，道徳の時間や特別活動の時間を充実させることで，思いやりの心を育てる指導の充実を図る。	・学校ではあいさつがよくできるが，地域ではあまりあいさつが聞こえない。今後も，児童にあいさつの意義を理解させ，あいさつの一般化を図って欲しい。 ・いじめや不登校には，迅速で組織的な対応をして欲しい。 ・読書はとても大切である。幅広い分野の本を読むようになって欲しい。
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）	（３）たくましい体の育成 達成目標：体力テストでＡ＋Ｂが学校全体で５３%以上 ①　基礎運動技能・能力の育成 ・　投力アップに向けて具体策を講ずる。 ・　上級生から下級生へのアドバイス場面の設置。 ・　外遊びを奨励し，各学級で週１回は全員外遊びをする。 ②　体育の授業の工夫 ・　場の工夫，グループの工夫，時間配分の工夫。 ③　学校行事や季節に合わせた体力づくりの推進	・体力テストでは，学校全体はＡ＋Ｂ＝51.6%で目標を達成できなかった。（高学年：4～6年は61.5%） ・体力テスト強化デーを設定して，昨年度特に数値が低かった，ボールスローを高学年が低学年に教える機会を設けた。 ・スポーツチャレンジ「キャッチボールマスター」への参加を通して投力アップを図れた。 ・たてわり班を基盤とした外遊びやＥＸダンス体操を導入等，体力向上の取り組みができた。 ・「体力向上を図る取組」（92%肯定的）	・低学年の児童や体力テストがＣ～Ｅの児童に対しては，繰り返し練習の時間を設定するなど，体力の底上げを図る必要がある。 ・「キャッチボールマスター」への取り組みや，休み時間のドッジボールなどを継続して行い，投力アップを図る。 ・児童数の増加に伴い，たてわり班遊び等の時間・場所の確保に課題がある。 ・外遊びの奨励やＥＸダンス体操の導入は，体力向上に効果的であったため，今後も継続して行っていく。	・体力テストでは，Ａ＋Ｂ＝53%の目標が達成できるように，工夫した取組をお願いしたい。 ・体力をつけさせるための行事の充実や持久走大会での走る距離の見直しをして欲しい。 ・児童の増加に伴い，グランドや体育館が狭いと感じる。グランドの拡張や体育館の改修を市に要望する必要がある。
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	（４）守谷市「保幼小中高一貫教育」の推進 ①　大野小との小小連携，守谷中との小中一貫教育実践の継承，継続，深化，発展。 ②　計画的な保幼との連携交流 ・　土塔中央保育所，北園保育所との計画的な幼小連携の促進を図る。 ③　小中一貫教育における日常的で，計画的で，効果的なＩＣＴの活用促進。	・「外国語活動の充実」，「ＩＣＴの有効活用」については，保護者アンケートでも肯定的な回答が非常に多かった（外国語活動98%・ICT活用99%）。 ・ＩＣＴを活用することで，児童の学習意欲が高まった。 ・テレビ会議を活用した，小小間，小中間の交流授業を提案することができた。（保護者アンケート86%肯定的） ・土塔中央保育所，北園保育所との幼小連携は，年間２回実施できた。	・児童の主体的，対話的で深い学びを実現していくために，ＩＣＴをどのように活用するかをさらに追究する必要がある。 ・小学校英語の教科化に向けて，担任教師の英語指導力向上を図る必要がある。 ・施設分離型一貫教育をすすめていくために，テレビ会議などをさらに活用していく。そのために，中学校区での教育課程の共通化を検討する。	・情報機器を使った学習が充実しているため，今後は，情報モラル教育を徹底していく必要性がある。 ・英語の授業やイベントをさらに増やして英語力を高めて欲しい。 ・守谷中学校との小中連携，土塔中央保育所・北園保育所との幼小連携は大切だと感じる。今後のさらに交流を深めてほしい。
Ⅴ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	（５）開かれた学校づくり 達成目標：ホームページアクセス数　月平均17,000以上 ①　保護者，地域から信頼を得る，創意を活かした教育活動を推進し，その情報発信を充実させる。 ②　学校ブログで子供たちの“今”を日常的に更新する。 ③　学校だより，学年だより等での保護者との連携促進。	・学校だよりや学校ホームページで積極的に情報発信を行った。学校ホームページは，月間アクセス数が２万件を超えている。（10月のアクセス数は３万件を超えている） ・「学校からの情報発信」（97%肯定的） ・学校事故について，迅速・丁寧な対応を徹底してきた。 ・交通安全，不審者対応については，児童への安全指導を徹底したり，職員や保護者によるパトロールを実施したりしてきた。 ・校内の掲示物などで，児童の生き生きとした活動の様子が見えるように心掛けた。	・学校だよりやホームページによる情報発信は，保護者の関心も高く，評価されている。今後も継続したい。 ・児童の安全確保や，学習支援などで，保護者や地域と連携した活動を，今後も多くの場面で設定していきたい。 ・理科教育推進，環境保護活動（ヤマユリ保護活動，グリーンカーテン等），福祉教育推進など，地域の関係諸団体との連携した取組を継続して取り組んでいきたい。	・ホームページは内容も充実しており，毎日楽しみにしている。今後も，生き生きとした活動を発信して欲しい。 ・地域連携，ＰＴＡとの連携を強めることが，子ども達のよりいっそうの成長につながる。 ・様々な体験活動で，地域や保護者との交流を図っているのは，大変，素晴らしい。今後も継続して欲しい。

学校名：守谷市立御所ケ丘小学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップププラン（確かな学力の育成）	１　児童の知的好奇心を揺さぶり，主体的に学習に取り組もうとする態度を育てる。 ○ 人の話をよく聞き，自分の意見と交換する児童８０%以上 ○ 授業は分かる児童８５%以上 (1) 中学校区授業スタイルの実践 (2) 筋道を立て，相手を考えながらまとめる言語活動の充実 (3) 発展的課題，工夫された課題を取り入れた質の高い授業の実践 (4) 繰り返し学習による基礎的基本的な内容の習得	(1) 授業がよく分かり，進んで学習に取り組んでいる児童の割合91%達成 (2) 人の話を聞き，自分の意見と交流することができている児童の割合86%達成 (3) 授業スタイル「つなげる」の実践を積み重ねることで，全学年の県学力診断のためのテスト（国語・算数）では，昨年度の平均を上回ることができた。 (4) 校区全体に授業を公開し，低学年の保幼小連携，中学年の小小連携，高学年の小中連携を中心とした授業づくりを行うことができた。	(1) 平成 30 年度御所ケ丘中学校区研究発表会を 11 月に行うことができた。今後も児童生徒の学力向上につながる授業研究会・研究組織を中心に，計画的に研究を進めていく計画である。 (2) 学力向上対策として，基礎基本の定着ための繰り返し学習と，発展的課題，工夫された課題を取り入れた質の高い授業の実践を積み重ねていく必要がある。 (3) 幼稚園と中学校との連携授業が計画的に実施できた。児童生徒が表現力を伸ばす学習場面を今後も工夫・改善しながらすすめていく予定である。	保護者アンケート 11 月実施・全児童保護者 359 軒実施・回収率 63% ・お子さんは，学ぶことが楽しく進んで授業や家庭学習に取り組んでいる。 【学力向上】Yes　78%
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）	２　友達とのかかわりを大切にし，お互いを思いやり，助け合い，協力し合って生活しようとする態度を育てる。 ○ 「あ・じ・み・そ」のできる児童 90%以上 ○ いじめのない思いやりのあるクラス 90%以上 (1) 多用で効果的な道徳教育の指導方法への改善，道徳ノートの充実 (2) 生活を振り返り，考え判断し改善していこうとする話合い活動の充実 (3) 創意工夫がいかせる係活動の充実 (4) 豊かな感性や思いやりの心を育てる読書の奨励	(1) 「あ・じ・み・そ」のできる児童の割合 91%達成 (2) 学級では，みんな助け合い生活していると答える児童の割合89%達成 (3) 児童の心の居場所づくりとして，多様で効果的な道徳教育の指導の改善（道徳教科書の活用・道徳教育推進教師による模範授業・相互授業参観の実施）をすすめた。 (4) 特別活動における話合い活動の充実・各学級における話合いコーナーの設置を行った。 (5) 各学級における児童主体の係活動の実施をした。 (6) 児童委員会を生かした読書活動推進運動を実施した。	(1) 「あ・じ・み・そ」の継続的な指導をしていく必要がある。特に，あいさつに対する児童の認識と教員とのずれの解消が必要である。また，清掃活動を根気強く行う気持ちを育てていく必要がある。 (2) いじめのない思いやりのある学級づくりを今後も継続的に行う必要がある。また，児童の心の教育をより豊かなものにする取組を行っていく必要がある。 (3) 話合い活動を通して，好ましい人間関係づくりや，互いのよさを認め合い助け合う学級づくりを今後も追究していく必要がある。	・お子さんは，学校で友だちと遊んだり話したりすることが好きだと言っている。【心の居場所】Yes94% ・お子さんは，学級にいじめや不登校もなく，助け合って生活していると言っている。【心の教育】Yes79% ・お子さんは，学校が楽しく好きだと言っている。【教育目標】Yes 84%
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）	３　体力づくりや安全教育の充実を図り，健康で安全な生活を送ろうとする態度を育てる。 ○ 体力テスト総合評価Ａ＋Ｂの割合 65 %以上 ○ 安全な生活を心がけている児童 90%以上 (1) 運動量を向上させる体育科指導法の工夫・改善 (2) 体力テストの結果を活かした体力向上プロジェクトの実施 (3) 日常的な外遊びの励行，わんぱくタイムの実施 (4) 危機予測能力，回避能力を育む交通安全教室，防犯教室，避難訓練の実施	(1) 体力テストの総合評価 A+B の割合 65%達成 (2) 体育の時間にサーキットトレーニングを実施した。 (3) 外遊びの推奨・投力アップチャレンジを実施した。 (4) 運動会・持久走大会，縄跳び大会の年間体力向上の実施 (5) 警察・消防署・110 番の家との連携を図った。 (6) 危険予測能力，回避能力を育む交通安全教室を実施した。 (7) 計画的に避難訓練（地震，火災，竜巻，不審者）を実施した。 (8) 親子で対話する命の授業（産婦人科医師 保健福祉課）を実施した。 (9) 親子薬物乱用防止教室（市保健センター）を実施した。	(1) 昼休みの体力向上，持久走・縄跳び大会に向けた練習タイムの実施等，年間を通した体力向上対策が成果を上げた。少数の児童の体育離れを解消する支援が必要である。 (2) 児童の危険予測能力，回避能力を育む交通安全教室や各種避難訓練を実施できた。 (3) 専門家を招いた「親子で対話する命の授業」や「薬物乱用防止教室」等，生命尊重の観点から自己の健康を考える機会となった。毎年実施したい。	・学校は，交通安全指導や地震や災害に対する安全指導。健康を大切にする保健指導を行っている。 【健康安全教育】Yes91%
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	４　社会の変化に対応する能力の育成 ○ 授業の中で ICT 機器を正しく使える児童 80%以上 ○ 英語学習が楽しい児童 90%以上 (1) 主体的な学びを促す電子黒板，タブレットの利活用 (2) テレビ会議システムを活用した授業の実践 (3) 情報モラル学習の実施 (4) ＡＬＴと担任が協働する英語学習の充実	(1) 電子黒板（授業時間８割以上）の活用を積極的に行った。 (2) タブレットと電子黒板を活用した対話的な学びの授業研究を実施した。 (3) ALT と学年との打合せ時間の設定による授業の充実をすすめた。 (4) 保育園・幼稚園・中学校との協働学習を学期１回実施した。 (5) 保護者も含めた情報モラル学習を実施した。 (6) 英語クラブのコミュニケーションタイムによる英語力の向上。 (7) ICT 支援員による３校テレビ会議授業を実施した。	(1) ICT の活用が意欲的に行えた。3 小学校テレビ会議授業，保育園・幼稚園・中学校との協働学習におけるタブレットを使用した学習等，児童が自らの学びを伝え合う学習に有益に活用できた。 (2) 情報モラル教育を，全学級で行った。高学年では，親子で，日常生活での健全で知識を得るための正しい使い方について具体的な情報モラル教育を実施した。	・学校は，ALT を活用した授業，電子黒板やタブレットの活用を積極的に行っている。 【特色ある教育】Yes97%
Ⅴ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	５　開かれた学校づくり ○ 学校評価項目「家庭との連携」８０%以上 (1) 保護者，地域への誠実な対応 (2) 地域交流の促進（元気サロン・読み聞かせ・各種団体） (3) 情報と感謝の積極的な発信（各種たより・ＨＰ・各種公開行事・地域への礼状の配付） (4) 活力あるＰＴＡ活動の推進（親子あいさつ運動・ごしょまつり・北守谷まつり）	(1) 感謝と情報の発信（毎月の学校便り地域回覧・学校と学年から発信するホームページの更新・学校周辺 60 軒礼状配付） (2) 地域リサイクルの年間実施（古紙回収・エコキャップ） (3) 地域のお年寄りとの交流（昔遊び）を行った。 (4) 活力ある PTA 活動（保護者参加によるあいさつ運動・PTA 主催によるごしょまつり・児童の活躍を伝える広報誌の発行） (5) 地域行事への参加（北守谷祭り・北公民館まつり） (6) 110 番の家（98 軒）による登下校時の安全確保を図った。 (7) 地域安全防犯ボランティアとの連携をすすめた。	(1) PTA 会員数の減少に伴う PTA 組織の変更。おやじの会による PTA 行事の運営等，PTA 組織の維持向上に関して，改善を図ることができた。本年度の組織・運営の仕方を 5 年間実施しさらに改善を進める。 (2) 防犯パトロールや保護者下校パトロール等，地域の方と保護者による児童の安全確保の体制が整備された。 (3) 古紙やエコキャップの回収に関する環境保全や地域の行事への参加，元気サロンとの交流により，地域のコミュニティーセンターの役割を強めていく必要がある。	・学校は，児童の様子や行事をホームページ等で情報を発信してくれている。 【情報提供】Yes93% ・学校は，幼稚園や中学校と協力し合って教育活動を行っている。 【保幼小中高一貫教育】Yes93% ・学校は，保護者の意見や願いを聞き入れている。【家庭との連携】Yes88%

学校名：守谷市立郷州小学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップブプラン（確かな学力の育成）	【目標値】　県学力診断テスト平均正答率各教科＋３ポイン みんなで進めたい一冊の本５０冊達成１００％ 【施策】①　市一貫教育学習スキルの定着 ②　教科担任生の実施 ③　ペア，グループ，コの字型による学び合いの推進 ④　合理的な配慮を取り入れた授業づくり ⑤　体験的な学習の充実 ⑥　家庭学習の充実 ⑦　読書活動の充実	①　県学力診断テスト平均正答率各教科＋３ポイント達成　３つの学年で３ポイント以上，１つの学年で平均点と同数 ②　みんなで進めたい一冊の本５０冊達成率 85％ ③　校内研修授業(学力向上学び合い学習)全職員実施 ④　教科担任４教科実施（理科・音楽・社会・図工） ⑤　コンピュータ室パソコンによる補充学習全学級で実施 ⑥　楽しく学ぶペア，グループ，コの字型による学び合い学習全授業時数６５％実施 ⑦　図書委員会による冊数調べ読書推進・朝自習の完全実施	①　チャレンジタイムによる基礎学力の強化を毎月行い，児童が自己の強みと弱みに適した学習時間の確保が必要。 ②　読書記録の正確な蓄積を行い，年間 50 冊と累計 300 冊読破児童を賞賛する。 ③　教科担任制は，中学校へつながる高学年において実施し，一貫教育と連動して学力の向上を進める必要がある。 ④　ペア，グループ，コの字型による学び合いの推進により，児童相互で課題を解決し基礎基本を身に付け，応用力を高める「対話的で深い学び」を進めていく。	保護者アンケート（保護者 236 人） (1)お子さまは，授業が分かりやすく工夫されていると言っている。74,9％ (2)お子さまは，50 冊の目標に向けて読書活動をがんばっている。68.7％ (3)お子さまは，毎日家庭学習をがんばっている。77.1％
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）	【目標値】　学校生活児童満足度９５％ 【施策】①　特別の教科道徳の時間の充実 ②　学級活動の充実 ③　市一貫教育生活スキルの定着「日常化」と「具体化」 ④　障害のある児童との交流・共同学習の推進 ⑤　縦割り活動「郷州キッズ」の工夫改善 ⑥　いじめ防止基本法を生かした未然防止 ⑦　児童会活動の活発化 ⑧　配慮を要する児童への組織的対応	①　学校生活児童アンケート年間平均「学校が楽しい９７％」 ②　いじめ調査による毎月の児童面談の実施（解消率９割） ③　人権作文・人権習字・人権メッセージ等年間活動の実施 ④　学級いじめフーラムの全学級実施 ⑤　愛宕中学校合同あいさつ運動毎学期１回 ⑥　学年縦割り活動（・清掃・外遊び・集会準備）キッズ活動の年間活動の実施 ⑦　児童支援ケース会議延べ４３回の実施 ⑧　人権の花栽培活動（花壇・プランター・児童環境委員会）	①　児童間トラブルの８割は，言葉遣いが要因となっているため，温か言葉や感情コントロールに関する学習タイムを設定が課題である。 ②　人権に関する思いやりの心を育てる取り組みの年間計画を立て，児童主体の活動を毎月実施する必要がある。 ③　学年縦割り活動（・清掃・外遊び・給食・集会準備）ついて児童が計画を立て児童が運営するキッズ活動としていく。 ④　学校生活で苦戦する児童へのケース会議を随時行い，早期発見と早期解決を図ることが課題である。	(1)お子さまは，喜んで学校に通っている。84％ (2)お子さまは，いじめのない望ましい人間係づくりをしようと努力している。92％ (3)お子さまは，いじめを許さないと認識が身に付いている。92.1％ (4)保幼小中高一貫教育を進めている。71.5％
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）	【目標値】　体力テスト A+B＝６０％の実現 【施策】①　体力テスト結果の活用 ②　体育的行事の工夫改善 ③　業間休みやロング昼休みでの外遊びの奨励 ④　保健指導・健康教育の充実 ⑤　けがの防止など安全教育の充実 ⑥　交通安全教室など安全教育の充実 ⑦　登校班会議の充実と安全な登下校の徹底	①　体力テスト A+B＝６０％以上達成（本年度７２％） ②　危機管理能力を育てる学習会（生（性）教育教室・交通安全教室・薬物乱用防止教室・食育教室）を実施し自ら健康・安全を考える児童の育成に努めた。 ③　保健委員会による児童相互の歯磨き確認指導 ④　毎月の登校班会議による危険箇所点検と交通安全指導 ⑤　青パト下校時巡回延べ１２０回（1 月現在） ⑥　持久走大会，縄跳び大会に向けたロング昼休みの活用 ⑦　保健日誌の分析による感染症，校内けがの防止対策	①　投力の弱さが全校児童に見られるため，体育の時間や休み時間の中で，投力アッププログラムを年間を通して行う。 ②　専門講師を招いて生（性）教育教室・交通安全教室・薬物乱用防止教室・食育教室を実施し，保護者への参加と家庭での健康・安全の取り組みを連携していくことが課題である。 ③　学校生活でのけが防止と日常生活での病気予防について保健学習を各学級で進め，保健室利用率と病気欠席率を削減していくことが課題である。 ④　歯磨き，朝食，ゲーム時間の自己管理が課題である。	(1)お子さまは，テレビやゲーム，スマートフォンに時間を取られない家庭生活を送っている。39％ (2)学校は，子供の健康管理や安全管理・交通事故防止に努力している。92.1％
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	【目標値】　英語活動を肯定的に回答する児童９０％以上 児童が授業で ITC 機器の活用率１００％ 【施策】①　英語活動・外国語活動の充実 ②　守谷 English Day と愛宕中学校区 English Day の活用と充実 ③　WEB 会議システム・ITC 機器を活用した授業展開 ④　児童のコンピュータ機器活用能力の育成 ⑤　夢をもたせるキャリア教育の充実	①　児童アンケート年間平均「英語活動が楽しい９６％」 ②　タブレットを活用した学習全教室で実施 ③　プログラミング学習２年生～６年生まで全学級実施 ④　守谷小学校とのテレビ会議参加者のべ１９３名 ⑤　TLT 活用率，全学級１００％達成 ⑥　TLT 給食訪問全学級１５回以上達成 ⑦　コンピュータ室稼働率全学級１００％達成 ⑧　職業専門家１２名によるキャリア教育６学年実施 ⑨　英語で話す金曜日イングリッシュデイの毎週実施	①　総合的な学習の中でプログラミング学習の基礎を身に付け，各教科の学習へと発展応用させていく必要がある。 ②　英語による対話の時間を拡大していくために，テレビ会議やイングリッシュデイの充実を図る。 ③　ｅラーニング学習により個に応じた学習内容や学習進度の予習・復習を学校と家庭で進めて行くことが必要である。 ④　今日の学びが将来の職業につながるキャリア教育を地域の力を借りて現職の方々との交流学習を進めていく。 ⑤　英語スピーチゲーム大会で英語力の強化を図る。	(1)お子さまは，タブレットや電子黒板を使った学習を楽しみにしている。91.3％ (2)お子さまは，英語活動・外国語活動に意欲的に取り組んでいる。78.1％
Ⅴ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	【目標値】　スクールサポーター登録者の活用率１００％ 【施策】①　スクールサポーターの積極的な活用 ②　学校関係協力者会議の充実 ③　ホームページの定期的な更新 ④　放課後子どもプラン，寺子屋，元気サロン（高齢者福祉施設）との連携 ⑤　父親の学校教育への積極的な参画 ⑥　郷州公民館・みづき野幼稚園，まつやま保育園，学区内スポーツ少年団との連携	①　スクールサポーター登録者の活用率１００％達成 ②　防犯ボランティア登校交通安全指導登校日１００％実施 ③　学習サポーター（体育・家庭科・生活科・図工・音楽）での活用。児童満足度９２％ ④　ホームページ２５０回以上更新達成 ⑤　地域礼状延べ１９７通ポスティングによる配付 ⑥　おやじの会イベント児童満足度９８％ ⑦　元気サロンと６年生の交流会食１２回 ⑧　みずき野会と１年生の昔遊びの実施 ⑨　みずき野祭，郷州公民館祭金管バンド演奏発表	①　サポーターやボランティアの方々の過半数が長期登録者となり，新規加入者の増加が必要である。 ②　下校時の安全確保について，地域と職員による巡回計画を立案していくことが必要である。 ③　おやじの会や各種ボランティア・サポータの方々への感謝の集いを行っていく必要がある。 ④　ホームページによる行事紹介から，各種教育活動で身に付いた力や児童の成長を紹介していく。 ⑤　ＰＴＡ談会や学校運営協力者会の意見を取り入れていく。	(1)学校は，保護者や地域の方々，スクールサポーターとの連携に努力している。96.8％ (2)学校は，教育活動や児童の様子を学校だよりやホームページで分かりやすく伝えている。89％ (3)学校は，飲酒運転の根絶，体罰防止，情報管理，金銭管理を徹底している。87.5％

学校名：松前台小学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップププラン（確かな学力の育成）	1　基礎的・基本的な内容の定着　→　「学びのプラン」話す・聞く・書くの充実，漢字・計算テストの実施 2　自分の考えを表現する力の育成　→　コミュニケーションタイムを活用した授業展開，ノート指導の充実 3　個に応じた指導の充実　→　補充学習（竹の子教室），少人数指導，教科担任制 4　読書活動の推進　→　月１回の読み聞かせ，週２回の「よむよむ読書」 5　家庭学習の習慣化　→　「家庭学習のてびき」の活用，ノート展の実施	・校内研修のテーマを「自分の思いや考えを表現できる児童の育成～コミュニケーションタイムの活用を通して～」とし，授業研究を実施（理論研修１回，全教科領域にわたる授業公開１人１回）することで教職員一人一人の授業力が向上した。 ・保護者アンケート「漢字力や算数力テストの合格をめざして，漢字や計算ドリルに一生懸命取り組んでいる」については，82%の保護者の方が肯定的に回答（昨年度84%）。一方，児童の回答は86%（昨年度83%）。	・コミュニケーションタイムの充実を図り，児童の思考力・表現力を高めるために，校内研修の充実が課題である。 ・学年での交換授業は，児童の学習意欲の高揚や児童理解につながる効果があることから，今後も積極的に進める。 ・読書の質を高め，読み取る力の向上を図ることが今後の課題である。 ・補充的な内容や発展的な内容，予習など，課題の出し方についても工夫・改善をする。	・確かな学力の向上のためには，自学自習が基本である。そのためのやる気をいかに持たせ，関心意欲を高めるかが教師の大きな役割の一つである。年々難しい時代に入り，学習指導要領の内容は理解させることが重要であるので，漢字や計算をベースに学ぶ習慣を身に付けさせてほしい。 ・子どもたちの興味をいかに予習まで結びつけるか，これからの取組を楽しみにしている。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）	1　道徳の授業を要とした教育活動全体を通しての豊かな心の育成　→　考え・議論する授業展開の工夫，道徳ノートの活用，道徳教育推進教師による毎月のテーマの確認 2　基本的生活習慣の定着とマナーアップに向けた取組の充実　→　あいさつ運動継続，「守谷しぐさ」の活用，黙働強化週間の実施，生活アンケート実施，いじめ防止集会の実施 3　体験活動や地域の方との交流を通した社会性や思いやりの心の育成　→　公園探検，町探検，福祉体験，稲作体験，お世話になったボランティアの方々への感謝の会	・「いじめ防止集会」を７月に実施した。御所ケ丘中学校の代表生徒と交流できたことで実践意欲の育成につながった。 ・保護者アンケート「家の人や地域の人にあいさつができる」については，85%の保護者の方が肯定的に答えている（昨年度85%）。一方，児童の回答は90%（昨年度84%）。 ・「家庭で，お手伝いなど自分に任された仕事を一生懸命している」については，80%の保護者の方が肯定的に回答（昨年度78%）。児童アンケート「清掃は時間いっぱい一生懸命取り組んでいる」については，94%の児童が肯定的に回答（昨年度93%）。	・御所ケ丘中学校区で連携し，いじめのない楽しい学校づくりに向けた継続的な交流を実施することが重要である。そのためにも一貫教育部会の充実を図る。 ・毎月実施している生活アンケートの工夫と改善，スクールカウンセラーやスクールライフサポーター，心の相談員との連携深め，不登校児童や不登校傾向が見られる児童の解消に努める。 ・立地条件を大いに生かし，隣接するもりや幼保園との交流や校区にある守谷高校との交流をさらに深化させていく。 ・小小・小中協働授業について教科や領域を広げていく。	・学習ができても道徳的マナーが欠落することが現代の大きな問題点である。いかにマナーよく生活するか，家庭教育を含めて考えなければならない。まずは，家庭，学校，社会，地域でも明るく挨拶やお辞儀ができる子どもが理想である。相手に心を開き，コミュニケーションを上手にとれる子どもを一体となって育てたい。 ・不登校や登校しぶりの子どもの心情を大人がもっと理解すべきである。
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）	1　体力の向上→業間休みの外遊び奨励 持久走・なわとびタイムの実施 2　健康教育の推進による好ましい生活習慣の育成 →薬物乱用防止教室の実施，歯みがき教室の実施 3　食に関する指導と好ましい生活習慣の育成 4　安全教育の推進→交通安全教室，市内一斉引渡訓練 様々な避難訓練の実施 5　性教育，命の授業の実施	・児童アンケート「休み時間は，外で元気に遊んでいる」については，77%の児童が肯定的に回答（昨年度81%）。また，保護者アンケート「休日や放課後，外遊びやスポーツをしてたくさん体を動かしている」については，75%の保護者が肯定的に回答（昨年度79%）。 ・「毎朝，朝ご飯を食べて登校している」については，95%の保護者の方が肯定的に回答（昨年度96%）。	・体力の向上を図るために，外遊びを全校で徹底することや体育の授業の充実を図ることが課題である ・保健委員会や給食委員会等の児童が主体的に活動する取組を継続していく。視力の低下が課題であることから，日常的に意識できるように学校全体で指導する。 ・食物アレルギーに関しては，22 名の児童が申し出ている。安全面への配慮を徹底する。	・登校距離が昔よりも短くなっているので，基礎体力を付ける運動は子どもたちが嫌がっても続けさせることが親や教師の役目かと思う。 ・今日の休み時間の様子を見ると，外で元気に遊ぶ子どもが多く，十分身体を動かしているようだ。小学生の間は身体を動かす習慣を身に付けてほしい。
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	1　英語教育・国際教育の推進 →Morininng Meeting の実施，英語クラブの充実 Ｅタイム（毎週水曜日の朝自習）の実施 2　キャリア教育の推進 →職場見学・職場体験，守谷高校生との交流会の実施 3　ＩＣＴ教育・情報モラル教育の充実 →ＩＣＴ支援員との連携，携帯電話所持児童の実態調査	・毎週水曜日の朝自習の時間にＥタイムを実施し，英語に慣れ親しむ時間を確保することができた。 ・児童アンケート設問「英語の時間は，先生や友達と楽しく学習している」については肯定的な答えが89%（昨年度90%）。 ・２月に守谷高校の生徒会より生徒３名が来校し６年生との交流会を実施。将来の夢や自分の進路について幅広く考えることにつながった。	・英語の教科化に向けて，教職員の授業力向上が課題である。研修の充実を図り，中学校との連携の強化が課題である。 ・６年生でコミュニケーションチャレンジを実施する。定期的に実施することで英語のコミュニケーション力を高めていくことが課題である。 ・守谷高校生との交流では，中学校進学を目前にした６年生が希望や目標をもつ貴重な機会になったので，今後も継続していく。	・協働学習，アクティブラーニングに対する取組が広がっていると感じた。答えのない問題に取り組み，それを実感していろいろと考えることが重要である。あきらめず，最後までやり抜く精神が求められる。 ・高校生との交流はよい体験になると思う。高校生に教えてもらった内容は一生忘れられない思い出になる。
Ⅴ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	1　各種便り，ホームページでの情報発信 授業参観による積極的授業公開　ふれあいまつり 2　地域人材の活用 →防犯パトロール，こどもを守る 110 番の家 学習ボランティア，読み聞かせボランティア ゲストティーチャーによる授業 3　学校評価の活用 →学校運営協力員・保護者の意見の反映	・「学校は，授業参観や学校だより等で学校の活動を伝えようと努力している」については，95%の保護者の方が肯定的に答え，取組の成果が表れた（昨年度95%）。 ・守谷市学校教育改革プランを保護者に配付し，これからの学校づくりについて理解を図った。 ・学習ボランティアの他に学校ボランティア（環境整備・水泳学習見守り等）を募集し，協力体制を強化することができた。	・情報発信に積極的に取り組んだことで，「学校の活動を伝えている」と肯定的に回答した保護者が多い。継続していく。 ・学校教育改革プランなど，守谷市が進める保幼小中高一貫教育についての理解が着実に高まっている。 ・地域の人材を活用して，児童が興味をもって取り組める多様な教育活動や特色のある学習をさらに推進する。 ・学習ボランティア支援は，児童が安心して学習できることから，児童や保護者からも好評である。地域との連携を今後も継続強化したい。	・「学校は地域とともに」とあるように，益々その関係が重要な時代になっている。大いに学校と地域とのパイプを太くする取組がなされている。 ・元気な高齢者が多く在住している。よきリーダーを選び，学校と地域を繋ぐ原点にしていくとよい。 ・多くの人が学校に関心を持つことが風通しのよい学校につながると思う。

学校名：守谷市立松ケ丘小学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップププラン （確かな学力の育成）	（1）　主体的・対話的で深い学びの実現に向け，「言葉の力の向上」，「アウトプット型学力の向上」を図る。 ・「話形・話型」の定着 ・「書いて表現する力」の向上 （2）　ＩＣＴ活用授業を積極的に展開し，「授業が分かる」児童87%を目指し，授業改善に努める。 ・ＳＨＯＷ＆ＴＥＬＬにより伝える力を伸ばす （3）　５・６年生で教科担任制を実施し，中学校生活へのスムーズな接続に努める。	（1）　伝え合う力の育成に努めた。話型を指導し，順序性やキーワードを生かした発表ができるようになってきた。また，朝自習時の「作文」の時間や授業の中で書く活動を取り入れた結果，根拠を示して伝える力が向上した。 （2）　授業におけるＩＣＴの有効活用，ＩＣＴ支援員を活用した授業を進めた結果，全学年で電子黒板やタブレットを活用した学習を行うことができ，「授業が分かりやすい」と回答した児童は94%と昨年度より８ポイント向上した。 （3）　５・６年生で教科担任制を実施したことにより，担任以外の授業に慣れ授業への関心・意欲を高めることができた。	（1）　伝えることはできるが，双方向的な話合いにはまだ課題がある。相手意識をもたせ，分かりやすい表現の仕方に取り組ませていく。 （2）　ＩＣＴの積極的な活用を図るとともに，児童のプログラミング的思考を高められるようプログラミング学習についての研修を年間計画に位置付けて取り組んでいく。 （3）　有効な取組として継続していく。担任間で学力や学習状況の把握，配慮事項などの情報共有の時間がとりにくい。打合せの時間を週時程に位置付ける等し，教科担任制がさらに有効に機能するように協力関係を再構築していく。	（1）　どの学級も，落ち着いた雰囲気の中で学習しており，どの子も意欲的に取り組んでいる。 （2）　どのクラスでもＩＣＴを積極的に活用していた。とても効果的である。 （3）　担任以外の先生が教科担任として教えるのはとてもよい。中学校に行っても戸惑うことなく学習に取り組める。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン （豊かな心をはぐくむ教育の推進）	（1）「学校が楽しい」児童95%を目指し，いじめ防止・思いやりの心を育てる「ぽっかぽかプロジェクト」を推進する。 ・「いじめをなくそう集会」 ・いじめをしないオレンジリボンキャンペーン （2）考え，議論する道徳を推進する。 ・自我関与の授業 （3）　けやき台中学校区での思いやりとたくましさの育成を小小・小中連携により推進する。	（1）　思いやりの心を育む「ぽっかぽかプロジェクト」を推進した結果，「学校が楽しい」と回答した児童の割合が94%になり，目標を達成することができた。 （2）　考え，議論する道徳の指導法や評価の仕方，年間計画の作成などを行った。発問の工夫，個人で考える時間，少人数での話合いを取り入れ，考えを深めることができた。 （3）　メッセージカードの交流や道徳の相互受業参観，同じ指導案での授業による交流等を実施し，思いやりの育成を進めることができた。	（1）　「ぽっかぽかプロジェクト」の推進に当たっては，児童の主体性を重視し，工夫ある取組を行っていく。いじめ防止については，「いじめは絶対許されない」ことを徹底し，日常的な取組を重視していく。 （2）　考え，議論する道徳の授業展開に努め，「教材との対話」，「他者との対話」，「自己内対話」を重視し，自分とのつながりの中で道徳的価値を考えられるようにしていく。 （3）担当者による定期的な会議以外にも情報交換を密に行い，小小・小中連携を積極的に推進していく。	（1）　「学校は楽しい」と回答している児童が多いが，楽しいと回答できない児童にも目を向けて欲しい。いじめを見逃さず，しっかりと対応してほしい。 （2）　思いやりのある心豊かな子供たちに育てるためにも，道徳の授業を大切にしてほしい。 （3）中学校区での連携をさらに進め，思いやりのある子に育ててほしい。
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン （健康と体力をはぐくむ教育の推進）	（1）　体育授業の改善を図り，「体力テストA+B」55%を目指す。 （2）　学校内外における安全第一の生活指導・段階を踏まえた保健指導の充実を図り，交通事故０を目指す。 （3）　食育を通して，健康増進や食習慣の定着に努める。 ・栄養技師，保護者をＧＴとした授業	（1）　体育の時間にサーキットトレーニングを取り入れたり，外遊びを奨励したりした結果，「体力テストA+B」が55.6%となり目標を達成することができた。 （2）　年４回の避難訓練や養護教諭による健康指導，連休や長期休業前の安全指導を行うことにより，児童の安全意識を高め，保健指導の充実を図ることができた。 （3）　栄養技師や保健センター等の外部講師による食育指導を実施することにより，健康や食習慣の定着を図ることができた。（早寝早起き朝ご飯定着84%）	（1）　投力や持久力に課題があり，個人の体力差が大きくなる傾向が見られた。外遊びの奨励とともに課題克服に向けた場作りや体作り運動に継続して取り組み，体力向上を図る。 （2）　あらゆる場面を想定した避難訓練を実施し，児童自らが災害等から身を守れるような取組が必要である。その上で危険予測・回避能力を育成していく。また，通学路の安全マップを活用し，生活の中の安全確保を意識させていく。 （3）　今後，栄養技師や外部講師をより積極的に活用し，発達段階に応じた計画的な食育指導を進めていく。	（1）　体力の向上がみられ，成果が表れている。取り組みを継続してほしい。 （2）　危険予測，回避能力を育成していくためにも，いろいろな場面を想定した訓練や指導を行ってほしい。 （3）　食育はとても大切。取り組みを継続するとともに，食育の大事さを保護者へも積極的に啓発してほしい。
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	（1）　専任ＡＬＴとの連携により，英語活動，外国語活動の充実を図る。（英検の級取得割合 12%） （2）　中学校生活への夢と希望の実現に向け，小中一日交流教室を実施する。 （９年間のつながりを意識した教育の充実85%） （3）　ＩＣＴを積極的に活用し，情報活用能力，情報モラルの定着に努める。 ・ＳＮＳの危険の理解	（1）　どの学年も英語への関心は高い。専任ＡＬＴとの連携を密にとり，楽しい授業づくりに取り組むことができた。４年生以上の英検取得率は14.3%であった。 （2）　小中一日交流教室は，中学校生活の様子を実際に体験できるので，６年生にとっては不安を軽減する貴重な体験となり，中学校への希望を抱くことができた。（92%） （3）　ＩＣＴ支援員を活用した授業を進めた結果，全学年でＩＣＴを活用した学習を行うことができ，情報活用能力や情報モラルについての意識を高めることができた。	（1）　中学年の「外国語活動」，高学年の「英語科」の実施に向け，よりＡＬＴとの連携した授業の充実を図っていく。また，日常の生活の中に英語がある環境を整えてく。 （2）　一日交流教室以外の小中一貫の交流場面（あいさつ運動，部活動体験，ＴＶ会議，委員会活動交流等）を効果的に活用し，９年間のつながりを意識した教育を進めていく。 （3）　情報活用能力や情報モラルについては，外部講師等の活用を図りながら，発達段階を踏まえた計画的な取組が必要である。年間計画を見直し，研修を定期的に行っていく。	（1）　どの子供たちもＡＬＴとの学習に臆することなく楽しく取り組んでいる。ＡＬＴが常時配置されているのは素晴らしい。英語のできる子供たちに育ててほしい。 （2）　中学校へのスムーズな接続のためにも積極的な交流を進めてほしい。 （3）　ＳＮＳの危険性については，小学生のうちから教えていく必要がある。

Ｖ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	（1）　児童の活動や学校行事等を適切に情報発信していく。 （ホームページや各種便りが充実　94%） （2）　学校外の教育力を活用する。 ・警備会社，新聞社，保護者，各団体等 （家庭や地域と連携した児童の育成 88%） （3）　就学前・保幼小連携を推進する。 ・入学予定児童との交流	（1）　児童の活動や学校行事，感染症，不審者情報，天候の急変などの安全に関わる情報等を適宜情報として発信した結果，「学校は，学校だより，HP 等を通じて教育方針を分かりやすく伝えている」と回答した割合が 96%であった。 （2）　全学年で，学校外の教育力を適宜活用し，地域や家庭と連携した授業を実施することができた。（家庭や地域と連携した児童の育成 90%） （3）　1月の入学説明会に予定していた新入生と1年生の交流会は，インフルエンザの影響で実施することができなかったが，行事のお知らせの配付や本校を会場とする保育園の運動会等で連携を図ることができた。	（1）　配信する情報の内容や時期を吟味し，より分かりやすくいろいろな手段を使って情報発信を心がけ，信頼される学校づくりを行っていく。 （2）　来年度も地域や家庭と連携した授業や専門性をもつ外部講師を計画的に活用した授業を実施し，児童の興味・関心を高めていく。 （3）　新設された近隣の保育園との交流会を実施する。また，今年度作成したスタートカリキュラムを基に保幼小交流を継続して進めていく。新入生と1年生の交流会については実施時期の検討が必要である。	（1）　ホームページや緊急メールを積極的に活用し，情報発信している。不審者情報など，さらに迅速な発信に努めてほしい。 （2）　学校だけでなく，地域や家庭が協力して子供たちを育成することは大切。必要なときは声を掛けて欲しい。 （3）　入学後スムーズに学校生活が送れるよう，保幼小の交流会を継続して進めて欲しい。

学校名：守谷中学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップ プラン （確かな学力の育成）	○「守中区授業メソッド」をベースに，「主体的・対話的で深い学び」となる課題解決学習，体験学習から，グループ・ワークやグループディスカッション，ディベート等を積極的に行い，「教科の楽しさ」と「学びの深さ」を感じる授業づくりを実践する。（分かりやすい授業 90%） ○「学びのプラン」による小中の系統性ある言語活動スキルを定着させ，学習の活性を図る。 ○各種テストの計画的実施と補充指導時間の設定により，基礎・基本的な学習の定着を図る。 ○「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習指導の徹底を図り，「授業→家庭学習→授業」のサイクルを確立させ家庭学習学年時間達成率 90%を目指す。	○「学びの手ごたえを実感できる授業の在り方」をテーマに授業研究を重ねた結果，91%の生徒が「授業は分かりやすい」と答えた。授業形態を工夫したり，少人数指導・学習支援Ｔを活用したり，タブレットなど ICT 機器を積極的に活用したりしたことが結果に表れたと思う。 ○子供たちに主体的・対話的で深い学びをさせるには，まず教員が主体的・対話的で深い学びを学ぶことが大切であるという考えのもと，全員が教科の枠を越えて授業公開し，相互授業参観を行った。 ○家庭学習の習慣化に関しては２極化しており，保護者も生徒も進んで学習をしていると感じていない。自己の目標時間に達している生徒は 72%であった。	○学力向上には，教員の指導力向上が欠かせない。生徒一人一人が学びの手ごたえを感じられるよう，研修を深めることが必要である。研究主任を中心に次年度の発表会に向けて，さらに実りある研修を計画・実施し，個々のスキルアップを図っていきたい。 ○国語力，語彙力向上のためにも，読書の大切さを生徒に啓発したり，朝読書を継続したりする。また，守谷市学校図書館との連携を強化し，読書量を増やしていく。 ○学習の習慣化を図るため，家庭ではなく，放課後コミュニティーホールで個別の指導を継続させていく。学びの手ごたえを感じさせることで，家庭での学習意欲につながるよう指導していきたい。	・是非，図書館との連携を図り読書に親しむ環境づくりをお願いしたい。 ・保護者も生徒も進んで学習していると感じていない回答があるのが残念だが，習慣化するよう継続的に取り組んで欲しい。 ・昨年度の進路状況から学力の向上が窺える。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン （豊かな心をはぐくむ教育の推進）	○生徒との触れ合いを大切にした温かい学級経営を通して人間関係づくりを推進する。 ○守谷中学校区における道徳指導の小中連携を図り，考え議論する授業を通して自尊感情や道徳的実践力の向上を図る。（自尊感情肯定率 70%） ○各種アンケートや HyperQU テスト，教育相談活動の充実を通して生徒と寄り添い，安心できる学校環境をつくり，不登校やいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。（HyperQU テスト学級生活満足群 70%） ○黙働，師弟同行で取り組む清掃活動を実践する。	○生徒の気持ちに寄り添い，道徳の時間や人権講演会，体験活動を実施した結果「自分のよいところを見付け自分の良さを他人のために活用することができた」と自尊感情を肯定的に捉えた回答が 77%であった。 ○第１回目の HyperQU テストの「学級生活満足群」の割合は 65%であった。１，２年生は２回目の HyperQU テストを実施したので，一学期の結果と比較分析し，今後の学級経営・生徒指導に活かしていきたい。 ○全校で黙働清掃の徹底に取り組み，師弟同行で清掃活動を実践した結果，黙動清掃が定着してきた。	○いじめ防止に関しては，定期的な活動・調査を継続して行っていく。また，小さなサインも見逃さないよう休み時間も生徒と関わる時間を多くもち，生徒を見守る体制を維持していく。学級，学校全体に支持的風土を構築し，いじめの未然防止に努めていく。 ○HyperQU テストは今後も継続して行い，生徒の内的な適応状況の把握の一助としていきたい。データの蓄積を行い，活用していく。 ○「100 万人の行動宣言」は５年間継続し成果を上げた。今年度からは新たに「いじめをノックアウト『まだ友プロジェクト』」に取り組んでいる。	・休み時間まで，生徒に関わる事は非常にいいことであるが，先生方の休み時間も必要ではないか。 ・ＰＴＡと学校で避難訓練や立哨指導を実施し，連携を図ることが安全指導につながると思う
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン （健康と体力をはぐくむ教育の推進）	○体育授業の充実と部活動等の積極的な活動を通して，体位・体力や精神力の向上を図る。（A+Bの割合前年比 10%アップ） ○栄養教諭が中心の，食に関する指導を充実させ，朝食摂取率 100%を目指す。 ○学校内外における安全指導，保健指導を徹底し，自己管理能力の育成を図る。（自転車の安全走行，学校内外事故の未然防止，災害から身を守る能力・態度の育成，給食後の歯磨き指導，薬物乱用防止教室・性教育・避難引き渡し訓練等の開催）	○体力向上を図るため，全身持久力を高めるための定期的な長距離走の計測をしたり，意欲の向上のために，体力テストのランキングを掲示したりしてきたが，体力テストA+Bの割合は前年比 1.6 ポイント減であった。 ○朝食の摂取率は全校では 96%であった。習い事や塾通い等，夜遅い生活週間に起因すると考えられるため，今後，規則正しい食生活が学習面，行動面の元になっていることを指導していく必要がある。また，部活動の早朝練習に規定が設けられたので，生活のリズムについても指導していく必要がある。	○ボール投げと上体起こしに課題があるので，次年度はハンドボール（ゴール型）を取り入れ，投げる動作の強化を図っていきたい。 ○朝食摂取に関しては，「毎日必ず食べる」割合を 100%にするため，引き続き指導を行う。部活動の早朝練習がなくなり，登校までの時間にゆとりができたので，朝食を摂ってから登校するよう家庭へも呼びかけていく。 ○学校保健委員会及び体力つくり推進委員会で出された学校三師の意見や保護者の意見について共通理解を図り，校内研修などを通して職員に周知を図る。	・食に関する指導は学校だけでなく，保護者の協力も必要である。必ず朝食を摂る率 100%を目指した指導をお願いしたい。保護者に対する生活習慣の安定をお願いすることが必要である。 ・部活動の朝練の廃止が戦績に影響しなければ良いと思う
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	○生徒会活動を充実させ，自治や自ら解決する力を育成する。（「みそあじ運動」の徹底） ○ALT を活用し，英語教育の充実を図るとともに，英検の取得を推奨する。（３年３級 60%） ○個性を理解し，充実した生き方を探るキャリア教育を推進する。（夢のある生き方の指導） ○総合的な学習の時間を教科横断的な学習の時間に位置付け，課題解決・探究的な各種教育の充実を図る。（地域学習，キャリア教育，国際理解，人権教育，伝統・文化教育，環境教育，福祉教育） ○情報活用能力の育成と，情報モラル教育の充実を図る。（電子黒板・タブレットなどの ICT 機器を毎時間 100%活用）	○朝のあいさつ運動では，企画委員，生活委員，各部活動部員等，生徒自らが，主体的に関わって実施することができた。 ○英検では多くの生徒が受検し，３年生の 60.8%が英検３級以上を取得し，国の示す 50%も十分に達成した。 ○インタラクティブフォーラムへの取組は，クラスでの取組を含め，充実した指導を展開することができた。放課後の活動の際にも ALT の協力を得ることもできた。 ○電子黒板は毎時間多くの教室で活用され，稼働率は 100%であった。デジタル教科書を使用した授業や，拡大投影等，学習内容の理解，定着に効果を発揮している。また生徒用の端末としてのタブレットは，調べたり，情報を共有したり，とても有効である。	○朝のあいさつ運動を，委員会や部活動単位で期間を決めて行ってきた。あいさつされた方の声の大きさに課題であるので，学級で指導を行う。教員があいさつや言葉遣いを大切にし，生徒に敬意をもって接することを通して，教員自らが模範となりたい。 ○インタラクティブフォーラム，茨城キリスト教学園英語コンテスト等，対外的な英語活動に積極的に参加し，今後も守谷市の英語教育のリーダーとして活躍できるよう，生徒主体で話す活動を充実させていきたい。 ○どの授業でも何らかの形で ICT 機器を活用しているので，より効果的な活用方法の研修を実施していきたい。機器の経年劣化や破損等のメンテナンスにかかる費用についても	・新しい時代に対応する能力を養う教育は，今後益々重要になってくる。 ・英検３級以上の取得者が 60%を超えているのはすばらしい。資格取得は英語を覚えるための手段として最適である。 ・IT に関する授業は興味をもって楽しめるものをお願いしたい。 ・地域の見守り隊より，中学生が気持ちのよい挨拶をしていると報告がある。

			検討していかなければならない。	
Ｖ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	○生徒の活動の様子を積極的に地域・保護者に発信する。(HPの毎日更新，アクセス数1800件/日) ○各種教育や総合の時間，特別活動，キャリア教育，部活動等で外部人材を積極的に活用する。 ○保幼小中高一貫教育を推進する。(黒内小，大野小との連携，保育所や守谷高校との連携) ○市中心校としてコミュニティールーム等を使用する外部機関と連携を密にする。(年間活用日数150日) ○地域に貢献する生徒として，地域活動やボランティアに積極的に参加する。(クリーン作戦，商工まつり，MOCOフェスタ，中央公民館祭り，駅前あいさつ運動，各種募金活動　等)	○ホームページによる情報発信では，今年度(４月～12月)の平均アクセス数は2372件/日であった。保護者のみならず，地域の方々の関心の高さが窺える。特に行事に関するアクセス数が多い。新規ユーザーも増えており，様々な地域の方に情報を発信できていると感じている。 ○コミュニティールームの年間活用日数は165日程度であった。定期的な活用意外に，保育園や家庭教育学級，ヨガ教室等での利用があった。 ○今年度も部活動単位で，多くの地域行事に参加することができた。守谷中学校を広報する良い機会なので，積極的に参加していきたい。	○ホームページの更新は今後も，様々な教育活動や生徒の様子をフットワークよく，新鮮なうちに保護者・地域の方に発信していきたい。 ○守谷中学校区は，中学校入学に伴うギャップを成長のステップに変えるというねらいで交流学習を実施しきたが，小中一貫の交流は定型ができ，ギャップ克服に一定の効果があったと思われる。さらに小中・小小交流研修を活発化し，中学校区内での一貫教育を継続して推進していきたい。 ○外部人材の活用については，薬物乱用教室，救急救命講習，思春期親子講演会，人権講演会等，毎月実施しており，来年度も年間計画に位置付け，意図的計画的に実施していく。 ○部活動指導員は３名，外部指導員は６名と増加しており，今後も協力体制を強めていきたい。	・ボランティア活動は，お互い対等で平等な立場で協力し合える事が大切。積極的なボランティア体験を勧めてほしい。 ・学校は地域のコミュニティの場であると考え，共に成長して行くことが望ましい。 ・土日を含め各地に帯同してHP等に情報を発信してくれることに大変感謝している。

学校名：守谷市立愛宕中学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップププラン（確かな学力の育成）	○主体的な学び（見通しと振り返りのある授業） ○対話的な学び(考えを広げ，深める授業) ○深い学び(思考力を高める授業) ○自ら考えて行う自主学習の定着 ○ALT・学習支援Tとの協働的な授業 ○定期テスト前・長期休暇等を生かした学習相談の充実 ■目標値：県学診テスト各教科県平均を＋７%以上	○グループでの学び合い活動を多く取り入れ，生徒同士が互いに考えを発信し話し合うことで，考えを広げ，深めることができた。 ○学習課題の工夫，ICT機器の積極的な活用を通し，学習への興味・関心を高め，積極的に授業に取り組ませることができた。またALT・学習支援Tとの協働的な授業を行うことができた。 ・授業が分かりやすいと答えた生徒の割合84.1% ・県学診テスト，数学・理科・英語で県平均＋７%以上達成。	○小中一貫で学び合いを実践し，どの教科でもグループで高め合う学習が定着している。生徒に身に付けさせたい学力をもとに，個別指導及び一斉指導とペア，グループなどの学び合いを効果的に位置付けられるようにする。 ○自学ノートの提出率は高い。担任によるノートへのコメントやアドバイスを丁寧に行ったり，ｅライブラリの利用を促したりして，自主学習の定着を図る。 ○学習相談は，普段の授業の中でも疑問点の解決ができるよう相談できる時間を確保する。	○学び合いを小中一貫で進めていることで，学習スタイルが定着し，より学習効果が向上している。 ○生徒の学力向上に対し，理解を深めるための分かりやすい授業や，一人一人の定着度に合わせた学習相談を行っていくことが大切である。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）	○道徳授業の質的転換(自我関与が中心の学習，問題解決的な学習，体験的な学習等) ○生徒が主体となる生徒会活動・委員会活動の運営 ○黙働清掃による我慢する心・思いやりの心の育成 ○朝読書の徹底 ○歌を取り入れた行事の運営 ○生徒と教師及び生徒同士の学級経営を基盤とした良好な人間関係の構築 ○QUテスト・学校生活アンケートの活用 ■目標値：学校生活が楽しいと感じる生徒の割合１００％	○発問や授業形態の工夫，道徳ノートの活用を取り入れ，考え，議論する道徳の授業を実践することができた。 ・道徳の授業は感動したり考えさせられたりする内容であると答えた生徒の割合72.2% ○黙働清掃は学区内小学校とも連携し，小中で一貫して進めている。読書も毎朝行い，本に親しむ態度の育成を図った。 ○修学旅行での平和集会，守谷野鳥のみち開業式で，合唱を取り入れることができた。 ○学校生活アンケートの結果を大切にし，いじめの早期発見，早期解決に努めた。 ・学校が楽しいと感じる生徒の割合92%	○道徳の授業が教科化されることから，生徒の発達段階に応じたねらいと指導方法を確立させ，問題解決的な学習や具体的な動作を取り入れた学習を取り入れる。またすべての教育活動を通して道徳心を養うために，道徳教育全体計画の見直しを図る。 ○小中一貫で重点目標を設定することにより，生活習慣の定着が図られている。学区内小学校との連携をさらに強化し，きめ細やかな指導に生かしていく。 ○QUテスト・学校生活アンケートの結果分析や，普段の生徒観察による情報を生かし，さらに良好な人間関係づくりに努める。	○生徒間で，相手の気持ちを考えない言動が見られることがあるので，道徳の授業を充実させてほしい。 ○あいさつ運動など，生徒主体で取り組む活動が行われている。各行事も実行委員による見応えある行事が行われている。 ○小学校と連携し，黙働清掃などを学区で取り入れているのがよい。進んで大きな声で挨拶する生徒が多く，素晴らしいことだと思う。
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）	○体力テスト結果の分析と活用 ○体つくり運動の充実 ○運動部活動での走り込みの強化 ○GTによる健康教育の充実（がん予防・薬物乱用防止・性教育等） ○ピアサポート活動の推進 ○縦割り団対抗体育祭の活性化 ○栄養教諭による食育の充実 ○昼休みの活用 ■目標値：体力テスト（A+B）を前年度より５%以上アップ	○昨年度の体力テスト結果をもとに，持久力向上を目指して取り組んだ。体育の授業では，長距離走の学習を重点とし，計画的にシャトルランテストを行い記録を向上させることができた。部活動では，「走る会」への参加を促し走り込みを強化した。 ○体育祭では，３年生がリーダーとなって競技や応援の練習，係活動を行った結果，生徒自らが考え，行動する力が身に付いた。 ○体育委員会で昼休みの運動を呼びかけた。学年ごとに曜日を割り振り，体育館開放を実施した。 ・体力テスト（A+B）の割合63.6%（前年比−4.8%）	○今年度の体力テストでは，３年生が前年の平均値を下回った種目があった。全学年を通した本校独自の体力アッププランとともに，学年の実態に応じた取組を展開していく。 ○部活動では，今までより活動時間が縮小されていることから，効率の良いトレーニング方法を顧問会議で検討するなど，全校組織を生かして体力強化に取り組む。 ○GTや養護教諭による健康教育を継続し，生涯にわたって健康の保持増進に努める態度を育成する。 ○ピアサポート活動について，生徒会本部から積極的に生徒に呼びかけ，活性化を図る。	○部活動の運営方針が示されたが，生徒の意識を的確に捉える必要がある。体力が低下しないように留意してほしい。 ○体育祭では，３年生のリーダーを中心に生徒が主体となる内容で行われていて，活気が感じられた。
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	○毎週金曜日English Dayの実施 ○ACE（英会話クラブ）によるコミュニケーション力の向上 ○タブレット・電子黒板の積極的な活用 ○始業式・終業式での英語スピーチ ○職場体験学習の充実（県北地域での民泊等） ○外部講師を招いた情報モラル教育の充実 ■目標値：中学３年での英検３級取得率50%以上	○毎週金曜日に学区内小学校とともにEnglish Dayを実施し，朝のあいさつや日常生活の中で英語を活用した。 ○ACEにおいて積極的にALTとの会話を楽しむ生徒が多く，市の冬季英会話大会では半数の生徒が入賞した。 ○始業式・終業式では英語でのスピーチが習慣化され，生徒も英語を聞く機会が増えた。 ○２学年職場体験学習では県北地域での民泊を取り入れ，農村体験等を通して，働くことの意義を深められた。 ・中学３年英検３級取得率50%	○英語活動を学校の重点課題と位置付け，積極的に取り組み，効果が上がってきている。各種テストや弁論大会等に参加する機会を増やし，更に英語力の向上を図っていく。 ○授業の中で，調べ学習や資料活用をするために，ICT機器を積極的に利用した。授業以外でのSNS利用なども含め情報モラル教育の機会を設けていく。 ○職場体験を通して，勤労観，職業観を育み，社会性や，集団・社会の一員としての自覚・責任感を身に付けられるようにする。	○英検取得などに熱心な生徒が多く励みになっている。中学３年までに英検３級を取得する目標は，これからも続けてほしい。 ○授業でのICT機器の活用について，効果が表れるような使い方をお願いしたい。授業の進度が遅くなることがあり，授業への関心が薄れてしまうように思う。

Ｖ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	○生徒が活躍する姿を積極的にHP や各種たよりで紹介 ○PTA 本部役員・親父の会との積極的なコミュニケーションづくり ○愛宕地区との積極的な交流 ○野鳥の森少年団活動の活性化 ○まつやま保育園との積極的な交流（家庭科保育実習，夏祭り交流，職場体験等） ■目標値：保護者アンケート各項目「とてもそう思う」と回答した保護者の割合 40%以上	○ホームページや学年だよりを通して，積極的に情報を発信し，学校の取組を学校内外に知らせることができた。 ○PTA 本部，親父の会と連携し，学校の環境美化や，バザーへの協力などを通してコミュニケーションを深めることができた。 ○野鳥の森少年団として，市観光協会と連携し，守谷野鳥のみち開業に向け木道づくりに積極的に取り組んだ。 ○家庭科保育分野で保育園と連携し交流を深めた。 ・保護者アンケートで「そう思う」と回答した保護者の割合 22.6％	○ホームページや学年だよりでは，学校生活や部活動の様子を広く発信できた。ホームページのコンテンツを見直し，定期的に更新する。 ○PTA，親父の会の方々の意欲的な活動により，各種行事が充実し，学校の環境も整備されてきた。今の関係を持続し，さらに信頼関係を築いていく。 ○学区内の各種団体・施設・事業所等と積極的に連携を図り，ボランティア活動，交流活動を実践し，地域に根ざした学校をつくっていく。	○ホームページが充実していて学校の様子がよく分かる。主な行事などでは，事前にＨＰやメールなどで知らせてほしい。 ○教員の働き方を見直すきっかけ作りとして，ＰＴＡや外部人材に積極的に働きかけ，業務分担を図ってみてほしい。

学校名：守谷市立御所ケ丘中学校

Ｈ３０年度目標	取組概要	自己評価	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアップ プラン （確かな学力の育成）	(1)生徒自身が学習活動の見通しをもち，意欲的に参加できる授業の確立 ①　本校区研究テーマ「主体的に学び，自分の思いや考えを豊かに表現できる生徒」の育成に基づく校内研修の充実，及び研究発表会(11 月)の実施 ②　学びの足跡となる板書構成・ノート指導の共通理解 (2)個に応じた指導の充実 ①　２年数学科少人数指導，理科におけるＴＴ指導の実施 ②　各授業における個別指導の充実 (3)保幼小中高の一貫教育を意識した授業展開 ①　保幼小中高を連携した合同授業の実施 ②　テレビ会議システムを活用した連携授業の実施	(1)研究テーマを意識した校内研修を計画的にできた。研究発表会に向けて，学習の流れのスタンダードを確立した。 ・思考ツールの活用，授業形態の工夫，表現方法の指導の充実を図り，分かる授業づくりを進められた。 ・ＩＣＴを十分活用した視覚に訴える課題提示やまとめを行うことで思考の深まりや知識の定着が図れた。 (2)少人数指導やＴＴ指導の授業を実践することで，個に応じた指導の充実を図ることができた。 (3)保幼小中高の合同授業等を実施することで，異校種からの刺激を受け，より学習意欲を高めることができた。 ◆「授業が分かる 85%」87%〇（達成） ◆「計画的に家庭学習をしている 70%」71%〇（達成）	(1)研究発表会に向けて取り組んできた様々な学力向上のための施策を今後も継続して行く。 ・しっかりとしたＰＤＣＡサイクルを実施する。 ・教科部会の定期的な実施で，教科指導の共通理解と共通実践を進め，より指導力を向上させる。 ・理論研修や授業研級を定期的に実施していく。 (2)全国学力学習状況調査，県学力診断のためのテストの検証・分析を行う。 ・分析結果を個別指導に生かし，学力向上に役立てる。 ・個別指導に生かすＩＣＴの活用法について研修を行う。 (3)学力向上に結びつく一貫教育の合同授業の在り方について検討を行い，より充実した一貫教育の在り方を考える。	・コミュニケーション力は社会に出たときに必ず必要になる。生徒同士の直接会話をする機会を大切にし，そのような場面を意識した授業を増やしてほしい。 ・研究発表会の成果を今後にも生かし，学力上のための授業づくりを進めていってもらいたい。 ・保幼小中高の一貫教育を今後も進め異校種交流の他，同一校でも異学年交流も進めてもらいたい。 ・体験活動を大切にしてほしい。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン （豊かな心をはぐくむ教育の推進）	(1)生徒指導委員会を中心とした生徒指導体制の実践 ①　運営員会・職員会議・学年会での共通理解の徹底 ②　「生活アンケート」の定期的な実施（月１回） ③　スクールカウンセラーによる個別のカウンセリング (2)道徳教育を基盤とした心の教育の実践 ①　教室・校内環境における道徳コーナーの設置 ②　生徒会による「あいさつ運動」の実施 ③　本校区道徳教育計画を基にした授業研究 (3)体験活動の充実 ①　スキー宿泊学習，職場体験，修学旅行，ボランティア活動等)	(1) 毎週１回実施する生徒指導委員会における情報共有 ・生活アンケートの結果を含めた配慮を要する生徒の情報共有をし，更に学年職員に伝達し細かい指導ができた。 ・不登校生徒に対しては，ＳＣ，ＳＳＷ及び外部機関と連携しながら，生徒や保護者に効果的な支援ができた。 (2) 道徳教育推進教師が中心となり，月ごとの重点項目や資料を職員に提示し，歩調を合わせて道徳教育に取り組めた。 (3) ３年生の修学旅行において，広島にて平和の大切や命の尊さについて深く考える機会がもてた。 ◆「学校が楽しい 90%」91%〇（達成） ◆「友達と仲良く生活している 100%」97%▼（未達成）	(1)アンケート結果からは見えない生徒の思いにより寄り添えるように更に教員間の情報共有や生徒と過ごす時間を大切にしていく。 不登校生徒へは関係機関との連携を更に進め，生徒や保護者との関係が継続できるよう多方面からアプローチする。 (2)道徳の教科化に向けて，引き続き校内研修を進める。道徳教育推進教師の模範授業等を参観することで，今求められている道徳の在り方について研修を重ねる。 (3)体験活動がその場限りの活動にならぬ内容に３年間を見通し，各教科で取り組める関連内容と組み合わせ，より体験活動の効果があがるように進める。	・日頃から生徒に寄り添い様々取組を行っていることは素晴らしい。家庭との連携がより求められるので，その部分での発信をより進めてもらいたい。 ・「学校が楽しい」が一番である。先生方の努力に感謝するとともにそうではない生徒にも配慮をお願いしたい。 ・だれにでもあいさつができる生徒の育成に努めてもらいたい。 ・道徳の授業を大切し，心の教育にも力を注いでいくようお願いしたい。
Ⅲ　ヘルス＆フィジカルプラン （健康と体力をはぐくむ教育の推進）	(1) 食育の充実 ①　学年全職員による給食指導の実施 ②　生徒の食物アレルギーについての共通理解，対応 (2)安全教育の充実 ①　登下校時の交通安全指導と地域巡視 ②　各種災害に備えた避難訓練の実施 (3)健康教育の実践 ①　体力の向上 ②　健康に関する講演会の実施	(1)給食指導及び家庭科の授業を通して，バランスよく食べる大切さについて，考えさせることができた。 (2)登校指導や下校時におけるパトロールを保護者と連携して１年間継続して行うことができた。 (3)体育の授業の中に体力向上タイムを設定し，体力向上に向けて継続的に実施し，体力の向上を図った。また，全学年で健康に関する講演会を実施した。 ◆「体力テストＡ＋Ｂ72%」69%▼（未達成） ◆「朝食を毎朝食べている 95%」91%▼（未達成）	(1)知識と実践の結びつきに課題が残るため，継続的な食育の実施，また家庭科以外の教科においても関連づけて行うことを検討する。 (2)自転車の安全な乗り方，横断方法等継続的な指導を継続して実施していく。教員の意識をより高め，実効性のある危機管理を実践していく。 (3)体育部を中心に体力向上に向けた課題を洗い出し体力向上タイムの継続と共に，より効果的な取組みを模索していく。	・登下校をはじめとする交通ルールは家庭と連携しながら十分に安全確保に努めてもらいたい。 ・避難訓練等は継続して行い，生徒の安全に万全を期してほしい。 ・登下校の安全や防災訓練等，北守谷地区まちづくり協議会とも連携し，地域との交流を深めてほしい。
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	(1)英語科教育の充実 ①　Gosho English　Club の定期的な実施 ②　市内外の各種コンテストや検定試験への参加 (2)ICT 活用能力の向上及び情報モラル教育の継続指導 ①　生徒がタブレットを活用する授業の実践 ②　警察署員による情報モラル教育の講話 (3)進学指導に偏らないキャリア教育の実践 ①　職場見学，働く人の話を聞く会，職場体験の実施	(1)Gosho　English　Club への参加者が昨年より増えており，英語に興味を示す生徒が増えている。また，ＩＲＦでは２年生で１名，３年生で１名が県大会へ出場し，３年生はファイナルランドまで進むことができた。 (2)全教科でタブレットを用いて学力向上に役立てることができた。 (3)３年間を見通したキャリア教育を実践できた。 ◆「将来の夢や希望をもっている 85%」71%▼（未達成） ◆「卒業時英検３級以上所得 45%」59%〇（達成）３年生	(1)Gosho　English　Club への参加を増やしていくように呼びかけを推進していく。また，小学校との合同授業等を通して，英語そのもののおもしろさを体験させていく。 (2)学力向上に結び付くさらに有効なタブレットの活用法について校内研修を実施する。情報モラルについては家庭との連携が大切であるため，協力を呼びかけていく。 (3)現在の学習と将来の職業観が結び付いて考えることができるようなキャリア教育を継続的に実践していく。	・英語は将来の生活や社会でも求められるスキルの一つなので，今後も力を入れて取組んでほしい。 ・ＳＮＳを利用している生徒がかなりいるので，情報モラル教育は実施し，人を傷つけることがないように，指導を続けてもらいたい。

Ⅴ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	(1)保幼小中高一貫教育の充実 ①　中学校区クロスプロジェクトの実践 ②　中学校区一貫教育運営委員会の実施 (2)HPや各種お便りによる積極的な情報の発信 (3)地域の力を活用した教育活動の実践	(1)保幼小中高で運営委員会を２ヶ月に１度実施し，合同授業や連携授業について協議を重ね効果的な実践ができた。 (2)HPは毎日更新を行い，多くのアクセスをいただいた。 (3)３年社会科で，地域人材を有効活用し，平和教育の視点からも学習効果をあげた。 ◆「一貫教育の取組が充実している80%」70%▼（未達成） ◆「学校の情報が伝わってくる95%」87%▼（未達成）	(1)実践した一貫教育の内容を精査し，学力向上の観点から必要の可否を検討し，より効果的な実践を検討する。また，次年度の教育課程に取り入れることができるか検討する。 (2)HPで日々の生徒の活動の様子を発信するとともに，学校，学年，学級便り等でも生徒の様子を伝えていく。 (3)地域人材の掘り起こしを行い，各教科で学力向上に結びつく活用法を探っていく。	・保幼小中高の一貫教育を今後も進めてもらいたい。異校種との連携はとても大切である。 ・高齢化の進む地域でもあるので，地域人材を有効に活用し，地域とともにある学校づくりを今後も進めてもらいたい。

学校名：守谷市立けやき台中学校

H30年度目標	取組概要	自己評価 ★・・・　△%（目標値）→□%（結果）	今後の課題と対応方向	外部の方々から頂いた意見
Ⅰ　ステップアッププラン（確かな学力の育成）	(1)　教師の問いの工夫でアクティブな学びを促すと共に，課題解決学　　習や協働学習を通してものの見方や考え方を豊かにし，表現する力を育成する。 (2)「学びのプラン」（学習スキル）の確実な定着を図る。 (3)　ＲＰＤＣＡサイクルを生かした教科経営を実践し，授業研究を通して指導改善に努め学びに向かう力を育成する。 (4)　補充的な学習の時間を計画的に設定し，基礎・基本の定着を図る (5)　「家庭学習のてびき」を活用した家庭学習指導の改善を図り，「授業→家庭学習→授業」のサイクルを　確立させる。	★「授業が分かる」90%→73%，「授業が楽しい」90%→88%，「進んで家庭学習する」75%→67% ・各教科ごとの授業のわかりやすさは79%～97%となっている。県の学力診断　のためのテストは県平均を大きく上回っているので，基礎的な学力は身に付いているがさらに中身の濃い授業をしていくことが望まれる。 ・家庭学習については取り組み方への指導の更なる工夫が必要となる。補充学習は定期テスト前に実施した。保護者　アンケートでも，継続してほしいという意見があった。	・新学習指導要領に沿った学習の展開とともに，中学校区の課題でもある表現力の育成が課題である。ICTの活用も図りながら，校内での研修はもとより，外部　講師を招いての研修会の企画も必要である。 ・家庭学習の向上策の一つとして2月から導入される「ｅラーニング」の活用も考えられる。各自のペースに合わせた家庭学習が展開できるような校内での支援体制の整備も必要であろう。 ・テスト前の学習相談，補習は継続していく。部活動の練習時間が変更になったことを受け，放課後の時間の上手な使い方も含めて家庭学習の進め方の再指導　を行っていきたい。	・ｅラーニングの個人情報の扱いには注意が必要だが，学校で活用させていくことで活用の　意識が高まり家庭での活用につながっていくのではないか。 ・働き方改革や守谷市学校教育改革プランなどの趣旨を生かして，先生方が生徒の学力向上に力を注げる環境を作っていけるようにしたい。
Ⅱ　ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）	(1)　生徒とのふれ合いを大切にした学級経営を通して，人間関係づくりを推進するとともに，居場所づくりと絆づくりに努める。 (2)　「学びのプラン」（生活スキル），「守谷しぐさ」の確実な定着を図る。 (3)　自己管理能力の育成に向けた自己評価活動の充実を図る。 (4)　生徒会活動の活性化を図り，自己有用感を高める。 (5)　基本的生活習慣の確立，規則等遵守の徹底，元気な挨拶の励行を図る。 (6)　けやき台中学校区における道徳教育の小中連携を推進し，自尊感情や自己有用感，道徳的実践力の向上を図る。	★「学校が楽しい」90%→87%「生徒同士仲がよい」90%→92%「進んで挨拶する」90%→86% ・主体的な活動を重視した学校行事(体育祭・文化祭)や生徒会の主体的な活動が生徒の生活を充実したものにしていることがアンケートの結果からうかがえる ・保幼小中高一貫教育の交流活動の中でも特に小中1日交流教室は影響　が大きい学区内の他の小学生との交流とともに中学校の生活の体験をして円滑な接続の一端を担っている。挨拶運動などの地道な運動の継続も生徒の自主的な挨拶の雰囲気を作り出すことに大きく貢献している。	・生徒主体の活動は今後もさらに充実させていく。そのために，生徒会活動の活性化をさらに高めるために生徒会担当職員や生徒会役員のみならず学校が一丸となって活動に取り組んでいくように体制を整える。 ・道徳教育の充実を図り，生徒の価値観を高めるとともに，生徒が自尊感情の高まりに気づけるような道徳及び学校生活の充実を図っていく。そのための，校内研修の充実を図る。 ・保幼小中高一貫教育の質的な充実を図るために，活動の振り返りを行い，さらに深まり充実したものにするようにしていく。	・道徳教育のスタイルも昔とは変わっている。より充実を図っていってほしい。 ・先生方が教師という誇りが持てるような環境を作ること，若い先生方をバックアップしていくことなどが教育の質を高めることにつながっていく。
Ⅲ　ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）	(1)　体育授業の充実と部活動等の積極的な活動を通して，体力や精神力の向上を図る。 （体力，礼儀規範意識，忍耐力，連帯感，感動，感謝の気持ち等の醸成） (2)　学校内外における安全指導，保健指導を徹底する。 （自転車の安全走行，学校内外事故の未然防止，災害から身を守る能力や態度の育成，給食後の歯磨き指導，薬物乱用防止教室　　　・性教育・避難引き渡し訓練等の開催） (3)　食に関する指導を通して望ましい食習慣の形成に努める。	★「体力テストA+B」70%→65%，「朝食を毎朝食べている」95%→91% ・体力テストは昨年は3%ＵＰであり，本年度は一昨年の59.3%から見ると5%のＵＰと目標値に向けて着実に向上している。体育科の授業はもちろん，昼休みの運動の促進(用具の貸し出し)やクラスマッチなど地道な活動の継続が要因と考えられる。 ・学校評価「学校は，けがや事故が発生したときに適切な処置を講じ速やかに対応している。」の保護者アンケートは98%が（当てはまる・どちらかというと当てはまる）という結果がもらえた。しかしながら，　年間を通しての怪我は多く，怪我の予防とともに安全指導も充実させたい。 ・地域の方より生徒の下校の仕方についてのご意見をいただくことがあった。　1年時の自転車交通安全指導を含め安全教育の充実を図りたい。	・体力テストにおけるＡ＋Ｂの値は増えたものの，Ｄ＋Ｅの割合も13.6%から15.9%と増えている。ＤやＥの判定を受けている生徒に対する個々の　支援・援助の必要がある。 ・部活動の指針が改訂され活動時間が減った分の体力低下が心配されている。個々の生徒の運動に対する意識を高めるとともに，学校の活動内の運動の質の向上も図れるように校内での研修を実施していきたい。 ・安全指導は自転車が加害者となる事故も発生しており，安全に対する意識の向上が望まれる。朝の交通安全指導に加えて，学級活動などの他に，下校指導などの際の安全指導などを随時行い，生徒の安全意識を高めていきたい。さらに，地域にも呼びかけ，現在の地域の方々の防犯パトロール活動に安全指導を加えながら交通安全を地域で行えるように広めていきたい。	・部活動について，外部コーチをさらに活用していくとよい。外部コーチを活用する際には　外部コーチ・学校・生徒・保護者の関係性を　考慮し，生徒の気持ちを大切に扱うように配慮していってほしい。 ・部活動については学校に依存しすぎていた。外部コーチやクラブチームへの加入など今後の選択肢は様々あることと思う。
Ⅳ　ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）	(1)　英語教育の充実を図り，実用英語技能検定の取得を推奨する。 (2)　個性を理解し，充実した夢のある生き方を探るキャリア教育を推進する。 (3)　総合的な学習の時間の中心にキャリア教育を位置付けると共に，各種教育の充実を図る。 (4)　情報活用能力の育成と情報モラル教育の充実を図る。 （ＩＣＴ機器の積極的活用）	★「将来の夢や目標をもつ」100%→77% 「中学３年次での英検３級以上の取得率」50%→44.3% ・英検3級取得は目標値には届かなかったが，昨年の35%を上回る数値となった生徒の意識が高まるとともに，資格としての認知も高まってきたことが要因であると思う。3級取得は行わないが同等の力を有する生徒もいる。より高い数値に近づけていきたい。 ・「将来の夢や目標をもつ」の数値は，数年来横ばいである。8割近い生徒が目標を持っているが，2割強の生徒がまだ	・「英語教育の充実」「ICT機器の積極的活用」は守谷市，本校にとって重要な課題である。充実した設備の活用をより図り，教育効果を高めていきたい。英検の3級取得は目標ではなく，授業の結果としてとらえていきたい。 ・キャリア教育の充実は生徒の自己肯定感の向上にもつながっている。授業の中だけではない様々な体験の機会をより多く持ち，生徒の進路選択の一助となるようにしていきたい。	・教育が改革の方向にあることを感じる。根底にあるものは変わらないのでそこはぶれないでほしい。 ・他市町の生徒たちは，守谷市の生徒をうらやましがっている。 ・近所の方々に聞くと「楽しくやっている」という声が返ってくる。

		揺れ動いている。年齢的に将来を具体的に構想することは難しいが，キャリア教育の充実を図り，将来に対しての希望を持てるように支援していきたい。		
Ⅴ　パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携）	(1)　生徒の活動状況等を積極的に発信していく。 （ホームページの継続的更新，学校だより・学年だより・生徒指導だより・保健だより・進路だよりの発行，教育活動の積極的公開，民生委員・地域住民からの情報収集） (2)　外部教育力を積極的に活用する。（授業や部活動等で外部人材の有効活用，外部による学校評価の導入及びＲＰＤＣＡサイクルによる学校運営の改善）	★ホームページや学校だより，学年だよりが充実」95%→95% 「メルマガ等の連絡体制や情報発信がスムーズ」95%→93% ・ＨＰや各種頼りによる情報発信は，定期的に行うことができ，ＨＰの更新を楽しみにしている保護者もいる。 ・ボランティアとして外部の職業人を招き「職業人に話を聞く会」を開催できた。コーディネーターがいたおかげでスムーズにできた。必要に応じてさらに外部の人材を活用していきたい。	・ＨＰや各種便りはさらにわかりやすく，より詳しく伝わるように工夫を重ねていく。メールにおいては不審者などの解消事案については情報を発信し，安心してもらえるようにしたい。 ・外部や地域に人材の活用については，パイプをつなぐことが大切になってくる。既存の団体や過去の実施団体などを基にパイプを広げていけるようにしたい。	・10年後を見据えた守谷の教育は素晴らしい。学校に生徒が来たら生徒は先生が頼りである。先生方が心の余裕を持って教育に当たれるようにしたい。「先生に話を聞いてもらえた」と思える子は悪いことはしない。